

一般国道17号

南長岡拡幅事業関係発掘調査報告書

中潟館跡

2016

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道17号

南長岡拡幅事業関係発掘調査報告書

なか がた やかた  
中 潟 館 跡

2016

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 序

新潟県教育員会は、国道建設などの道路事業に伴う発掘調査を行っており、その成果を発掘調査報告書として公表してまいりました。本書は一般国道17号南長岡拡幅事業に伴い実施した長岡市中渦館跡の発掘調査報告書です。

一般国道17号は東京都中央区を起点とし、本州を横断して新潟市に至る431kmの主要幹線国道です。新潟県と首都圏を結び、新潟県の産業・経済・文化の交流と発展に大きな役割を果たしています。南長岡拡幅事業は長岡市妙見町から同市十日町間延長3.6kmの一般国道17号の現道拡幅事業です。この区間は長岡市中心部と小千谷市の間に位置し、急速に沿道開発が進み交通量が著しく増加しています。しかし、幅員が9.5mと狭いため交通混雑が著しく、さらに除雪余裕幅もないために冬季交通確保にも支障をきたしていました。こうした状況を克服するため昭和61年度より事業化され、既に事業は完了しています。

中渦館跡は平安時代末から室町時代にかけて長岡市南東部に所在した「しとのき荘」を拠点とした有力氏族石坂氏の居館という伝承を持つ館跡で、発掘調査の結果、館の周囲をめぐる堀や掘立柱建物や井戸、土坑などが検出され、当時の館や周辺の様子が明らかとなりました。

今回の報告書が、地域の歴史を解明する資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と知識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を頂いた、長岡市教育委員会ならびに地元住民の方々、発掘調査報告書から報告書刊行に至るまで格別区の配慮を賜りました国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2016年3月

新潟県教育委員会

教育長 高井盛雄

## 例　　言

- 1 本報告書は、新潟県長岡市妙見町浄土原 680 番地 1 ほかに所在する中湯館跡の発掘調査記録である。
- 2 本発掘調査は、一般国道 17 号南長岡拡幅事業に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。
- 3 本発掘調査は県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼し（平成 5）年度に実施した。
- 4 整理作業及び報告書作成に係る作業は、県教委が埋文事業団に委託し、主に 2014（平成 26）年度に実施し、2015（平成 27）年度に刊行した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 6 遺物の注記は、「ナカカタ」とし、調査年度（西暦下二桁）・出土地点・層位などを併記した。
- 7 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 8 遺物番号は通し番号とした。本文及び挿図・観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 9 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 10 各種図版・挿図作成や本文編集は、有限会社不二出版に委託した。
- 11 本書の執筆は第Ⅰ章・第Ⅱ章を坂上有紀（埋文事業団 務員）、第Ⅲ章～第Ⅵ章を春日真実（同 講師代理）がこれにあたり、編集は春日が担当した。
- 12 図版中の網掛けは、各図版に凡例を示した。
- 13 調査成果の一部は現地説明会資料〔1993〕、埋文事業団 年報平成 5 年度〔1994〕などで公表しているが、本報告をもって正式な報告とする。
- 14 本遺跡は新潟県埋蔵文化財包蔵地カード「長岡市 129 中湯（妙見）館」として登録されており、『長岡市史』資料編 1 「考古」〔長岡市 1992〕及び『長岡市内遺跡発掘調査報告書』〔長岡市教育委員会 1994〕で「妙見館跡」として記述してある館跡と同一のものである。なお、『新潟県中世城館等分布調査報告書』〔県教委 1987〕では、一覧表には「中湯館跡」、本文中は「中湯館跡（妙見館跡）」と記述してある。
- 15 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚く感謝申し上げます。

長岡市教育委員会　　国土交通省長岡国道事務所　　遠藤孝司　　駒形敏朗　　鶴巻康志　　鳴海忠夫  
水澤幸一

## 目 次

<b>第Ⅰ章 序 説</b>	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査と整理作業	2
A 確認調査	2
B 本発掘調査	3
C 整理作業	3
<b>第Ⅱ章 遺跡の位置と環境</b>	4
1 地理的環境	4
2 歴史的環境	5
<b>第Ⅲ章 遺 跡</b>	11
1 グリッドの設定	11
2 基本層序	11
<b>第Ⅳ章 遺 構</b>	13
1 概 要	13
2 各 説	13
<b>第Ⅴ章 遺 物</b>	18
1 概 要	18
2 土器・陶磁器	18
3 石 器	19
4 木 器	20
5 金 属 器	20
<b>第VI章 ま と め</b>	21
1 中世の掘立柱建物について	21
2 中湯館跡と石坂氏	26
<b>《引用・参考文献》</b>	27
<b>《観 察 表》</b>	29

## 挿図目次

第 1 図 国道 17 号南長岡拡幅範囲と遺跡の位置	1	第 11 図 掘立柱建物の分布状況	16
第 2 図 確認調査トレント位置と本発掘範囲	2	第 12 図 長岡市中湯館跡・奈良崎遺跡の 掘立柱建物	22
第 3 図 周辺の地形分類図と段丘対比図	4	第 13 図 長岡市三貴梨遺跡・ソデクネ遺跡、 十日町市伊達八幡館跡外郭の掘立柱建物	23
第 4 図 周辺の遺跡（縄文時代）	6	第 14 図 十日町市伊達八幡館跡 主郭・副郭の掘立柱建物	24
第 5 図 周辺の遺跡（中世）	8	第 15 図 見附市坂井遺跡の掘立柱建物	25
第 6 図 明治 36 年の地籍図と平成 5 年の 空撮写真	10	第 16 図 掘立柱建物の面積	25
第 7 図 グリッドの設定	11		
第 8 図 基本層序	12		
第 9 図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類	14		
第 10 図 ピット覆土の分類	14		

## 表 目 次

第 1 表 土器・陶磁器一覧	18	第 2 表 輸入陶磁器の 1 点出土面積	26
----------------	----	----------------------	----

## 図版目次

### 【図面図版】

図版 1	全体図
図版 2	分割図 1
図版 3	個別図 1
図版 4	分割図 2
図版 5	個別図 2
図版 6	分割図 3
図版 7	個別図 3
図版 8	分割図 4
図版 9	個別図 4
図版 10	分割図 5
図版 11	個別図 5
図版 12	分割図 6
図版 13	個別図 6
図版 14	分割図 7
図版 15	個別図 7
図版 16	個別図 8 SB1・2・5
図版 17	個別図 9 SB3・4・6・8
図版 18	個別図 10 SB7・9・13
図版 19	個別図 11 SB10・11
図版 20	個別図 12 SB12・14
図版 21	個別図 13 SB14・15・16
図版 22	個別図 14 SB17・18・19・20・21
図版 23	個別図 15 SB22・23・24・25・27
図版 24	個別図 16 SB26・28・29・30
図版 25	土器・陶磁器 1
図版 26	土器・陶磁器 2、石器 1
図版 27	石器 2、木器、金属器
【写真図版】	
図版 28	遺跡近景、北堀断面

図版 29	北堀完掘、土塁検出状況・断面、基本層序
図版 30	遺構検出状況
図版 31	遺構完掘
図版 32	遺跡近景
図版 33	遺構完掘
図版 34	遺構完掘、井戸（1）SE60・319
図版 35	井戸（2）SE320・335・362・364
図版 36	井戸（3）SE374・468・469・360・417
図版 37	土坑（1）SK2・20・22・37
図版 38	土坑（2）SK38・47・69・70
図版 39	土坑（3）SK71・72・76・87
図版 40	土坑（4）SK93・94・95・104・136
図版 41	土坑（5）SK119・226・292、P115～ 118・178・224・225・247
図版 42	土坑（6）SK293・310・311・323・324
図版 43	土坑（7）SK343・347・357・333・365、 SD344
図版 44	土坑（8）SK372・379・380・390
図版 45	土坑（9）SK391・392・394・393、P437
図版 46	土坑（10）SK418・426・453・454、 P425・430
図版 47	溝（1）SD252・286・317・355・356・ 376、SK318
図版 48	溝（2）・掘立柱建物（1）SD344・358・ 367・481・483、SX62、SB2・9
図版 49	掘立柱建物（2）SB4・8・10・11・12
図版 50	掘立柱建物（3）SB12・14
図版 51	掘立柱建物（4）SB15・16・17・20・24
図版 52	土器・陶磁器、石器 1
図版 53	石器 2、木器、金属器

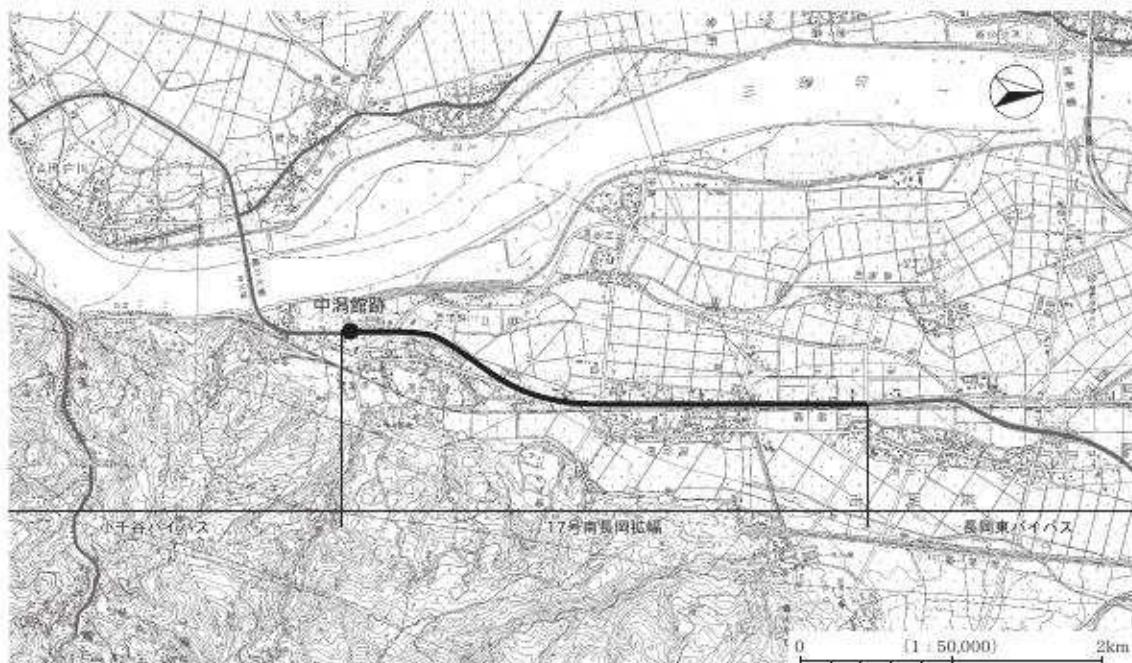
# 第Ⅰ章 序 説

## 1 調査に至る経緯

一般国道17号は、関越自動車道とともに関東方面と新潟県域を結ぶ主要幹線道路である。また、地元においては、日常活動圏である長岡市中心部への重要な生活道路としての役割を担ってきた。しかし、交通量の増加は通勤・通学時間帯を中心に慢性的な渋滞を引き起こし、さらに除雪余裕幅もなく冬季交通確保に支障をきたしていた。建設省（現国土交通省、以下、国交省とする）はそのような状況を踏まえて、長岡～小千谷地区の交通混雑の解消と幹線ネットワークの充実・強化を目的に、南長岡拡幅道路（長岡市妙見町～同市十日町に至る3.6km）の建設を1986年に事業化、1988年に用地取得に着手した。なお、これに接続する長岡市十日町～同市（旧中之島町）五百刈間の延長17.0kmは長岡東バイパス、長岡市妙見町～小千谷市木津間の延長7.4kmは小千谷バイパスとしてそれぞれ1972年・1976年に事業化し、1973年・1979年に用地取得・工事に着手している。

1985年に協議を行った時点では遺跡の明確な地点は把握されていなかったこともあり、1992年6月から工事が開始されていたが、工事範囲に遺跡が存在するかもしれないという情報が入ったことから、県教委は急遽現地踏査を行い、遺跡が存在する可能性が極めて高いと判断した。これを受け、国交省と県教委、埋文事業団は取り扱いについて協議を重ね、年度内に確認調査、翌年度（1993年）に本発掘調査を実施することとした。

なお、本発掘調査を行った時点ではこの区間の事業名は南長岡拡幅であったが、現在は小千谷市稗生～長岡市十日町に至る延長11.0kmの小千谷バイパスとして扱われている。



第1図 国道17号南長岡拡幅範囲と遺跡の位置  
(国土地理院「片貝」「小千谷」1:25,000を改変)

## 2 調査と整理作業

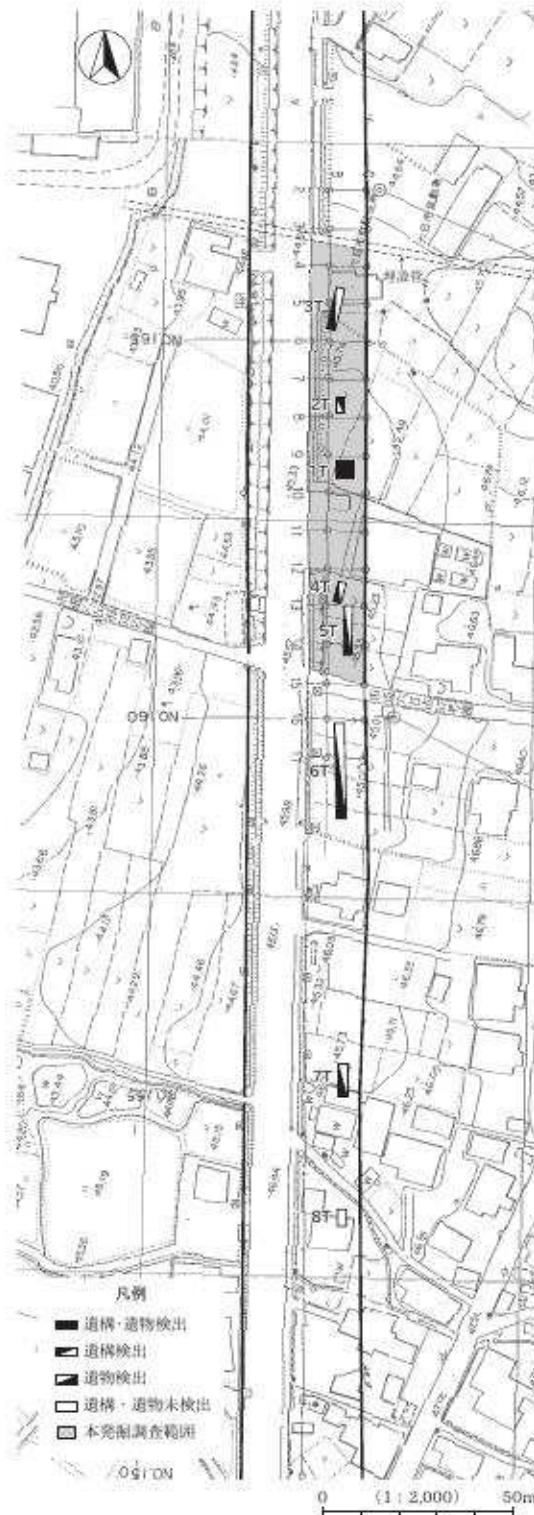
### A 確認調査

#### 調査の経過

国交省から依頼を受けた県教委は、埋文事業団に当該地区の確認調査を委託し、1992年12月に調査を実施した。用地内に試掘坑（トレント、以下T）を任意に8か所設定し、重機（バックフォー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。調査対象範囲は2,717m<sup>2</sup>、実質調査面積は90m<sup>2</sup>で確認率は3.3%である。その結果、3Tからは堀を検出し、1・4～7Tでは土坑や溝・ピットを検出した。また、遺物はわずかであったが、中世の陶磁器のほか、1Tからは縄文土器が出土した。6Tからは近世陶磁器2点のみ、7Tからはピットのみで遺物は出土しなかったことから本発掘調査対象から除外し、1,225m<sup>2</sup>について本発掘調査が必要と判断した。なお、3Tより北側及び5Tと6T間の市道下については同日程で確認調査を実施することができなかった。

#### 調査の体制

期間	1992年(平成4)年12月8・9日
調査主体	新潟県教育委員会 (教育長 本間栄三郎)
調査	財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 (理事長 本間栄三郎)
総括	藍原 直木(事務局長)
管理	渡辺 耕吉(総務課長)
庶務	藤田 守彦(総務課 主事)
調査総括	茂田井信彦(調査課長)
調査指導	戸根与八郎(調査課 埋蔵文化財第1係長)
調査担当	小田由美子(調査課 専門員)
調査職員	木村 孝一(調査課嘱託員)



第2図 確認調査トレント位置と本発掘調査範囲

## B 本発掘調査

### 調査の経過

1993年4月5日から事前準備、13日から表土掘削を開始した。表土は、調査員立会いのもと重機により掘削し、16日に完了した。19日からは作業員を投入して包含層掘削を開始し、23日からは一部遺構精査に着手し、遺構検出・遺構掘削を順次進めた。5月22日には地域の住民を対象に遺跡説明会を実施し、約50名の参加があった。6月4～10日に測量、7・8日には空撮を行った。11日に現地調査を完了し、撤収した。なお、調査範囲は南北に若干延長されたことから、面積は1,700m<sup>2</sup>となった。

### 調査の体制

期間	1993年（平成5）年4月12日～6月11日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）
調査	財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）
総括	藍原 直木（事務局長）
管理	渡辺 耕吉（総務課長）
庶務	藤田 守彦（総務課 主事）
調査総括	茂田井信彦（調査課長）
調査指導	戸根与八郎（調査課 埋蔵文化財第1係長）
調査担当	小田由美子（調査課 専門員）
調査職員	羽賀 信幸（調査課 専門員）・江口 友子（同 嘴託員）

## C 整理作業

### 整理作業の経過

遺物の水洗などの基礎的な作業は、本発掘調査と並行して進めた。本格的な整理作業は2014年4月から開始し、編集まで行った。2016年3月に印刷・刊行した。

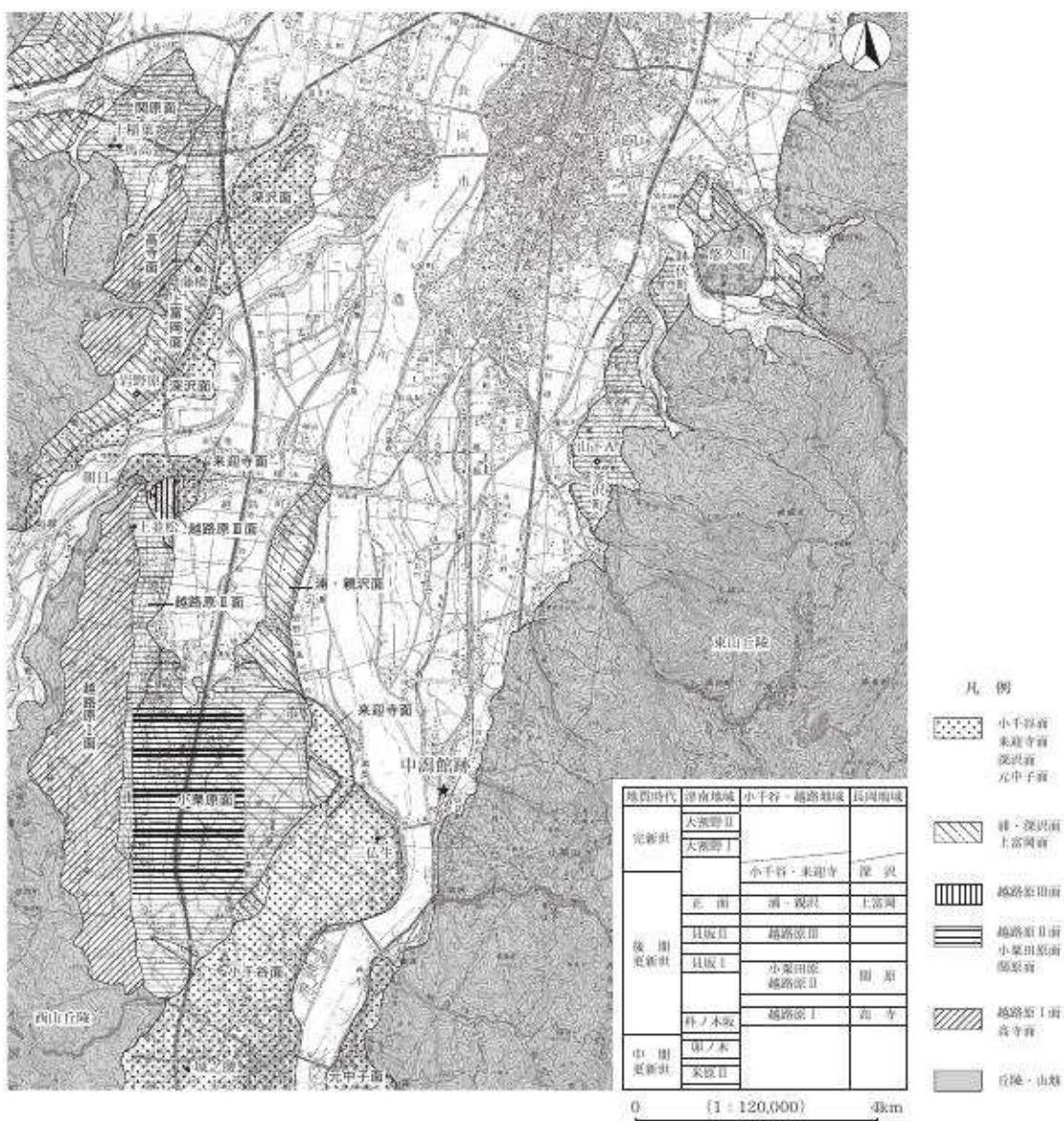
### 整理作業の体制（平成26年度）

期間	2014年（平成26）年4月1日～2015（平成27）年3月31日
整理主体	新潟県教育委員会（教育長 高井 盛雄）
整理	公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 高井 盛雄）
総括	土肥 茂（事務局長）
管理	熊倉 宏二（総務課長）
庶務	仲川 国博（総務課 班長）
整理総括	高橋 保（調査課長）
整理担当	春日 真実（調査課 整理担当課長代理）
作業	田辺恵美子 伏見 敦子（調査課 嘴託員）

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

中湯館跡が所在する長岡市は、新潟県のほぼ中央、新潟平野の南端に位置する。東西 42.6km、南北 59.3km で 890.91km<sup>2</sup> の面積を有する。長岡市は、2005 年 4 月に周辺の 4 町 1 村（旧中之島町・旧越路町・旧三島町・旧山古志村・旧小国町）、2006 年 1 月に 1 市 2 町 1 村を（旧橋尾市・旧寺泊町・旧与板町・旧和島村）と合併し、広大な市域を有することとなった。さらに 2010 年 3 月には飛び地ながら川口町が合併し、最終的に 2 市 6 町 2 村の合併という、「平成の大合併」の象徴とも言える例となった。周囲を新潟市・出雲崎町・燕市・見附市・小千谷市・魚沼市・柏崎市と接する。



第 3 図 周辺の地形分類図と段丘対比図

（国土地理院地形図「長岡」「小千谷」1 : 50,000, [小林ほか 1991] [新潟県農地部 1977] より作成）

長岡市を縦断する信濃川は、南佐久郡の山岳部（甲武信ヶ岳）に源を発し、長野県を経由して新潟市から日本海に注ぐ、全長367kmの国内最長の河川である。長岡市域の南端（旧川口町を除く）は、信濃川が丘陵から平野部へと流入する変換点にあたり、新潟平野の南端でもある。この地点から北側では両岸に沖積平野が広がり、市街地や水田が形成されている。平野の西側は東頸城丘陵の北東部にあたり、通称西山丘陵と呼ばれる標高200～300m前後の低平な丘陵からなる。一方、平野の東側は魚沼丘陵の北部にあたり、通称東山丘陵と呼ばれる標高700m以上の山が連なる急峻な山地からなる。

平野の周縁には河岸段丘が発達しており、特に西側（左岸）で顕著であるが、上流の津南地域に比較して緩やかで不明瞭である。これらの地形の基盤には鮮新世後期～更新世（約300万年前～30万年前頃）にかけて形成された魚沼層群が堆積しており、最大厚は3,000m以上におよぶ。河岸段丘は、後期更新世に形成されたもので、渋海川左岸では高寺面、関原面、上宮岡面、深沢面の4面、渋海川右岸のうち小千谷市北部では越路原I・II・III面、小粟田原面、浦・親沢面、来迎寺面、小千谷面から構成される。これらの段丘のうち深沢面・来迎寺面・小千谷面は完新世に形成された比較的新しい段丘とされていたが、近年の研究により1.3万年前よりも古いということが明らかになり、後期更新世に訂正された〔越路町1998a〕。

遺跡は主に段丘上とそれに接する丘陵上に分布しており、特に縄文時代は顕著である。第3図に主な遺跡を示した。本遺跡の立地する信濃川右岸では、段丘は悠久山の裾部と鉢伏町から釜沢町にかけての丘陵裾にわずかに認められる程度である。本遺跡は、信濃川からわずか300mの沖積低地に立地するが、前述したように平野の南端でもあるため、丘陵からも約500mの距離である。現況は宅地・畠・道路であり、標高は約45mである。

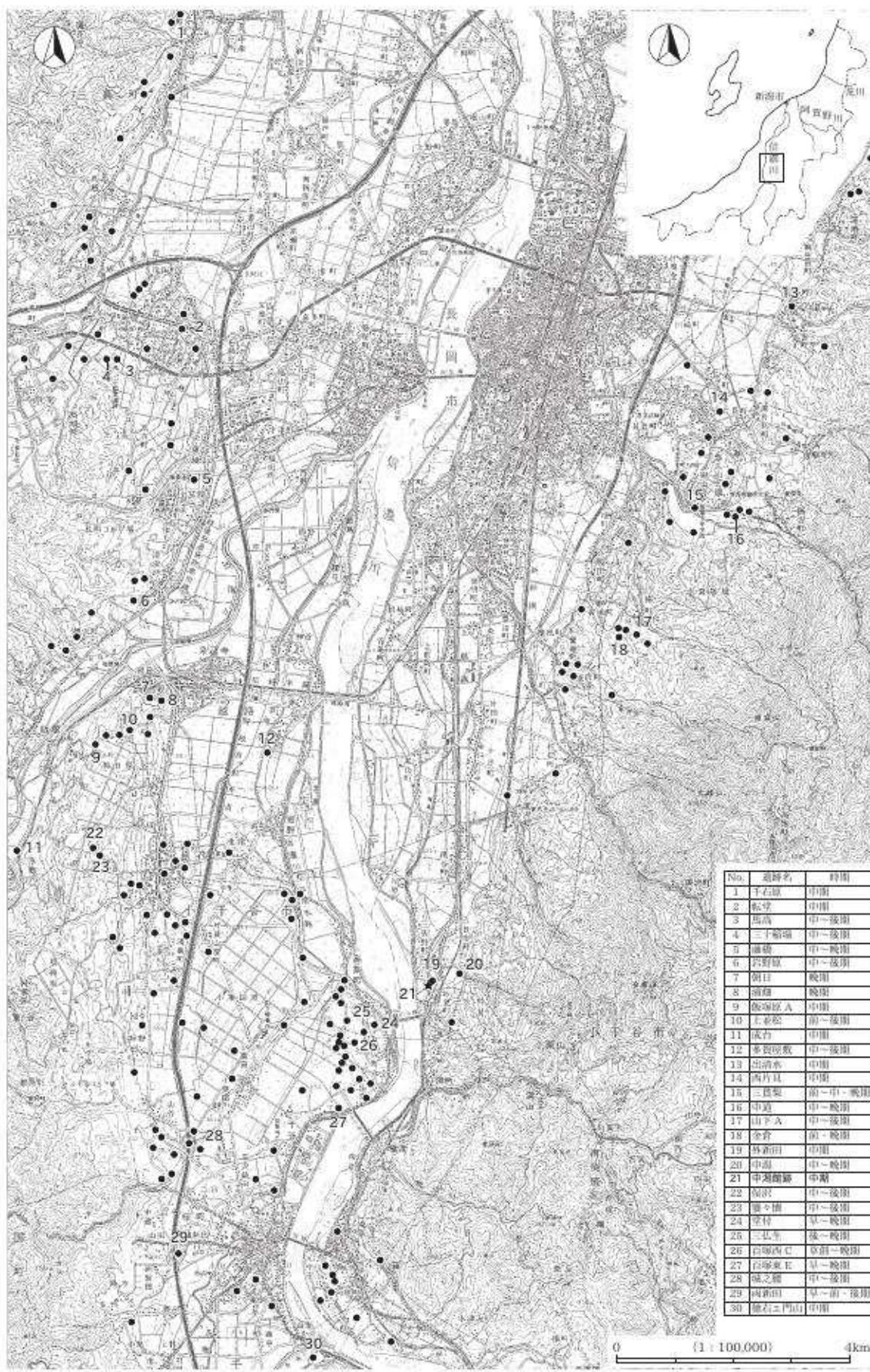
## 2 歴史的環境

本項では、本遺跡に関連する縄文時代と中世の遺跡について概観する。

### 縄文時代

草創期～前期の遺跡は少ないが、中期に入ると急激に増加する。山下A遺跡（17）では中期初頭から中葉にかけての土器変遷が注目される。初頭から前葉にかけては新保・新崎式土器が卓越するが、徐々に大木式の影響が強まり、一方、勝坂式土器がかなりまとまって出土した。中葉においては、東北・北陸・関東地方などの文様要素が複雑に融合した個性の強い在地系の土器が、火焔型土器の古相を示す土器とともに少量ではあるが出土しており、火炎土器様式の成立過程を示す良好な資料とされている〔長岡市1992〕。

中期中葉は火炎土器様式が盛行する段階である。火炎土器様式は、在地の様相に大木式土器など周辺地域の影響を受けて成立したもので、地域的特性が強い。信濃川中流域を中心に濃密な分布を示しており、長岡・小千谷地域はまさに中心域に含まれる。馬高遺跡（3）は「火炎土器」が出土した遺跡として全国的に著名であり、隣接する三十稻場遺跡（4）とともに国史跡に指定されている。発掘調査により、馬蹄形状に展開する集落が2群検出された。土器のほか、大型土偶・耳飾・三角形土版・三角墻土製品など多様な土製品や石器も多数出土した〔長岡市1992〕。中期中葉から後葉にかけては遺跡数が最も多く、馬高遺跡のほか山下A遺跡・中道遺跡（16）・転堂遺跡（2）・岩野原遺跡（6）・外新田遺跡（19）・徳右エ門山遺跡（30）などが挙げられる。外新田遺跡は本遺跡と隣接しており、その距離はわずか200mであ



第4図 周辺の遺跡（縄文時代）（国土地理院地形図「長岡」「小千谷」1：50,000を改変）

る。主体は中期中葉であるが、縄文後期・平安時代・中世の遺物が出土している。打製石斧が多数出土し、石材を同じくする石核や剥片も多く出土していることから、生産が行われていたと判断された〔駒形1998〕。また、三脚石器と三角形土版が他遺跡と比較して突出していることが特徴的である。本遺跡からも中期の遺物が出土していることから、何らかの関連性があると推測される。

岩野原遺跡は遺跡全域が発掘調査された貴重な事例で、集落の様相が明らかになった。遺跡の範囲は東西300m、南北150mに及ぶ。中期から後期全般という長期にわたる集落で、中期は舌状台地の先端、後期は台地の奥に位置する。いずれも中央の広場を中心に住居や貯蔵穴などが環状にめぐる典型的な縄文集落である。中期の集落では竪穴住居82棟、貯蔵穴60基、墓穴と考えられる多数の土坑が確認され、集落の中央にのびる小さな沢には膨大な量の遺物が廃棄されていた〔駒形ほか1981〕。集落の継続により遺物の変遷が明らかとなり、火焔土器様式の変遷をとらえる上で重要な資料となっている。そのほか、硬玉製の大珠が墓穴と見られる土坑から出土した。後期の集落では竪穴住居77棟、貯蔵穴や多数のピット群のほか、掘立柱建物や敷石住居が検出された。後期は初頭～前葉が主体であり、三十稻場式から南三十稻場式に至る良好な資料となっている。

中期後葉以降、遺跡数は減少するが、後期初頭には再び増加する。この時期の主な遺跡としては三十稻場遺跡(4)・城之腰遺跡(29)・多賀屋敷遺跡(12)・上並松遺跡(10)が挙げられる。

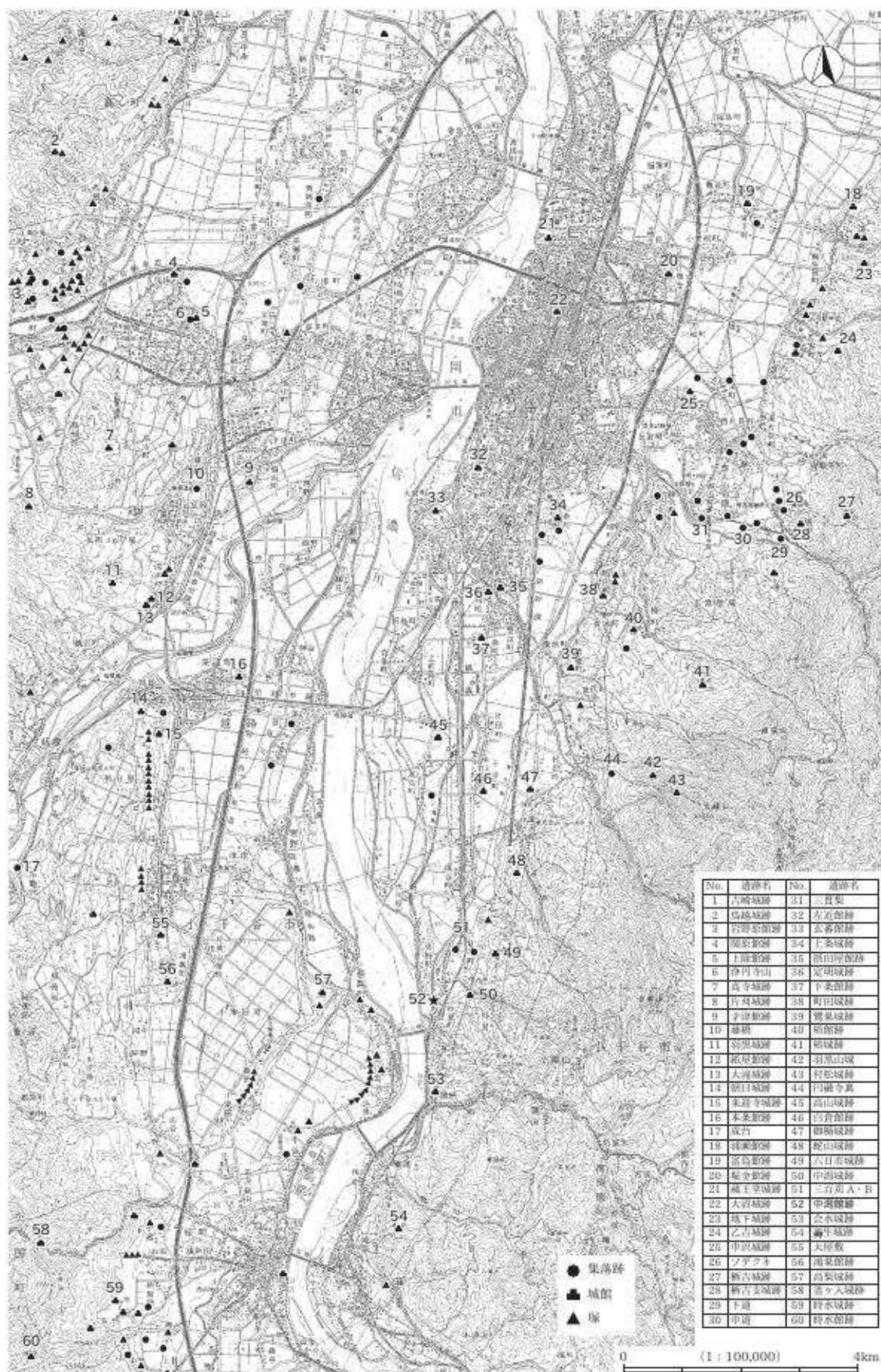
三十稻場遺跡は、前述したように馬高遺跡と隣接しており、後期初頭の三十稻場式の標識遺跡で、在地色の強い土器群であり刺突文と蓋形土器の存在を特徴とする。三十稻場式に後続するとされる南三十稻場式は、遺跡内の南東側から出土した一群から型式設定されたものであるが、三十稻場式とは器形・文様・施文手法などが大きく異なり、口縁部の縁帶文と胴部の集合沈線を特徴とする。いずれの型式も成立と消滅の過程に不明な部分が多く、2つの型式は共存するという論もあり、未だ見解の一致をみていない。なお、遺跡の全容は不明であるが、多数の石組炉や柱穴が検出されていることから、大規模な集落と推測される〔長岡市1992〕。

城之腰遺跡は後期初頭を主体とする大規模な集落跡で、83軒もの竪穴住居が検出された〔藤巻ほか1991〕。多賀屋敷遺跡・上並松遺跡は三十稻場式の成立前後の資料がまとまって出土しており、地域編年を考えるうえで重要な資料となっている。そのほか本遺跡の南西2km付近には、堂付遺跡(24)・百塚西C遺跡(26)・百塚東E遺跡(27)など、小千谷バイパス建設に伴い発掘調査された遺跡が集中して分布している。この中には後期中葉の標識遺跡、三仏生遺跡(25)も存在する。後期後半以降は遺跡数が激減し、晩期に至る。

藤橋遺跡(5)は晩期全般にわたる大規模な集落跡で、多数の柱穴群と掘立柱建物が確認された。竪穴住居が発見されておらず、掘立柱建物のみで集落を構成していた可能性が高い〔駒形ほか1977〕。土器・石器のほか、未成品を含む多数の玉類が出土しており、玉作遺跡としての性格も注目される。なお、1978年に国史跡に指定されている。

## 中　　世

11世紀半ば以降、全国的に荘園が増加していき、12世紀半ばの鳥羽院政期には在地領主制を媒介として成立した寄進地系荘園の確立期とされている。本遺跡周辺は志度野岐荘に属し、史料上の所見は吾妻鏡文治二(1186)年三月二十日条「二位大納言領志度野岐庄」である。二位大納言が誰かは明らかになっていないが、源定房、平頼盛とする説のほか、藤原定房とする説、藤原兼房とする諸説がある。「志度野岐」



第5図 周辺の遺跡（中世）（国土地理院地形図「長岡」「小千谷」1:50,000を改変）

については、後に志土岐・梶脱・梶貫・梶抜と様々な漢字が使われた。当初は「しとのき」と呼ばれていたが、そのうちに「しとぬき」が一般的となつたらしい。志度野岐莊は二位大納言領の後、宮家領、親王領を経て南北朝期以降は守護領となり、上杉家の臣に分与されていった。莊域は長岡市摂田屋から小千谷市南荷頓にかけての地域で、上条と下条に分かれる。上条は小千谷市南荷頓から長岡市妙見町周辺、下条は長岡市摂田屋から釜沢町周辺で、下条町の名は現在も残っている。

1185（文治元）年、源頼朝は後白河上皇から全国に守護・地頭を設置する勅許を得る。越後は源頼朝の知行国となり、執権北条氏が国守として采配をふることになる。これは鎌倉時代末まで続いた。

1338（延元3）年に足利尊氏が征夷大將軍となり室町幕府が成立し、1341（暦応4）年には上杉憲頸が越後守護となる。1349（貞和5）年には足利氏の内紛が勃発する（親応の擾乱）。南北朝期には、古志地域周辺の勢力は南朝方であったが、親応の擾乱の際には尊氏と対立する直義方と南朝方が結んだことから、かつての南朝方も分裂して戦いが繰り広げられた。尊氏方の阿賀北の武士と池氏、多劫氏、石坂氏が藏王堂の地で越後守率いる南朝方と戦ったとの記載があるが〔長岡市 1996〕、石坂氏とは志度野岐莊上条を拠点とする武士で、後に中湯館を居館としたという伝承がある。

内紛がおさまり、一時守護職を離れていた上杉憲頸が復帰し関東管領にも任じられると、越後守護は息子に相続させ、以降分家として独立した形となった。その上杉家を補佐したのが守護代の長尾氏である。長尾氏は室町時代を通じて、守護代の家を軸に各地に住み着き支配の核を作つていった。長尾景春は、上杉憲頸の守護代であった景忠の甥であるが、彼が古志郡に入り拠点を藏王堂の町に置いたことから古志長尾氏と呼ばれるようになる。その後、15世紀末から16世紀初頭頃に本拠地は藏王堂城(21)から栖吉城(27)へと移された。

16世紀前半まで守護上杉氏、守護代長尾氏による越後国支配の体制が存続するが、1507（永正4）年、守護代長尾為景が上杉房能を追放し、守護に上杉氏一族の上条定実を擁立する。ここから越後の戦国時代は幕を開ける。

為景の子、景虎（上杉謙信）が生まれた1530（享禄3）年の頃は、越後は守護方と守護代方に分かれて反目しあい、あちこちで戦が繰り広げられていた。なお、景虎の母は古志長尾氏の出身である。景虎は14歳で古志郡司の権限を与えられ、柄尾城へ入る。反乱を鎮め家中での名声を高めると景虎擁立を望む声が出始め、家中分裂の危機を迎えたが、兄・晴景は1548（天文17）年、景虎に家督を譲り隠退する。1550（天文19）年、守護上杉定実が亡くなり、後継ぎがいなかつことから越後守護上杉家は断絶した。この直後に景虎は朝廷より国主待遇を許可される。1557（弘治3）年、関東管領上杉憲政が越後に亡命し、景虎に関東管領の官職と上杉氏の名跡を譲る。景虎は上杉政虎、輝虎と名乗り改めた後、1570（元亀元）年に謙信と称するようになった。

一方、古志長尾氏については、謙信が1559（永禄2）年に上洛した際見いだした河田長親を後継ぎとし、前領主長尾景信は上杉の姓を与えられ上杉十郎景信となった。これに伴い家臣団が新たに編成され、長親の家臣団は「栖吉衆」と呼ばれるようになる。一方、引き続き景信に従つた家臣達は「古志衆」と呼ばれた。

1578（天正6）年3月、謙信の急死により家督争いが勃発し、越後を二分する大きな戦となつた。御館の乱である。景勝が上田長尾氏出身であることから、古志長尾氏は対抗上、景虎の支持に回つた。景虎側は柄吉城・藏王堂城・柄尾城から三条城にかけての地域に多く、景勝側は魚沼と阿賀北地域で支持を集めめた。1579（天正7）年3月に景虎が自害し、景勝は上杉家の当主となつたが、景虎側の抵抗は続き、最終的に争乱が収束するまでに2年以上の歳月を要した。なお、長岡市域に存在する高津谷城・三島谷城・片刈城

(8)・左近館 (32)・摸田屋館 (35)・柿城 (41) は、御館の乱で景虎側につき落城したと言い伝えられている。

御館の乱以降、景勝の支配方針転換により、新潟一三条一藏王堂一魚沼のラインが重視され、栖吉城よりも再び藏王堂城が古志郡支配の拠点として認められるようになる。1594(文禄3)年の上杉家「定納員數目録」によると、栖吉城主の定納高が324石であるのに対し藏王堂城主は1,600石であり、この数値は城の格も反映されていると判断できる。

1598(慶長3)年1月、上杉家は会津への国替えを命じられ、戦国時代は終焉に近づいていく。

#### 集落遺跡

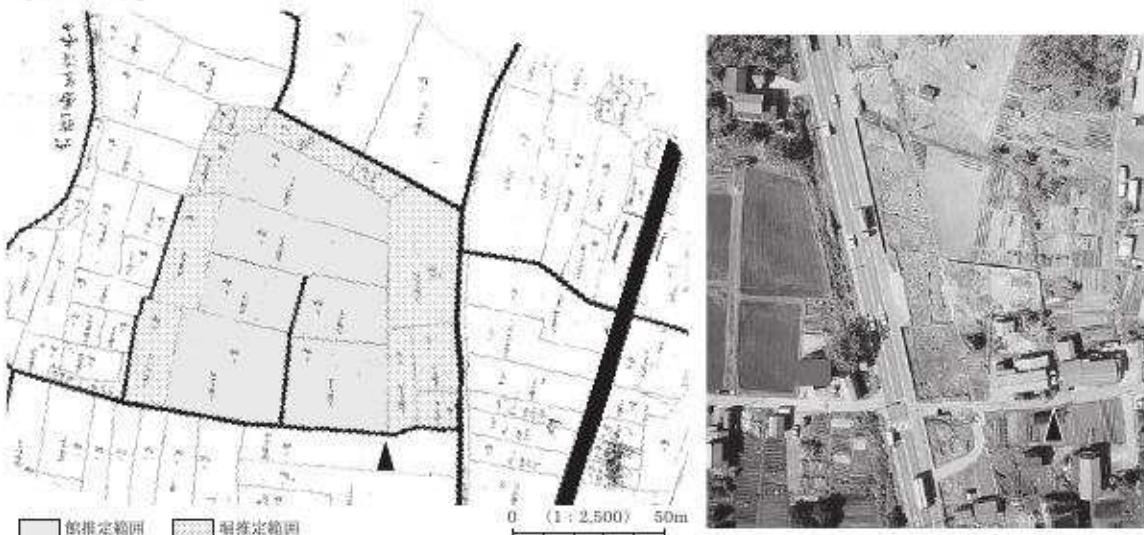
主な分布域は東山丘陵及び西山丘陵沿いであるが、信濃川左岸の段丘上にも分布が認められる。少量の陶磁器類が出土、あるいは採集されている遺跡は多数存在するが、広範囲に及ぶ発掘調査例はわずかである。三貫梨遺跡(31)では、東側に館跡が検出され、約100mの距離を置いて墳墓群を検出した。館跡は堀に挟まれて掘立柱建物と井戸などがあり、15世紀の遺物が出土している。このほか、下道遺跡(29)からは約1万枚の古銭が入った木製容器が出土した。14世紀中頃から後半にかけて埋蔵されたと推測されている。

また、渋海川右岸の段丘上に位置する成台遺跡(17)は、縄文時代・古代～中世の複合遺跡で、素掘りの井戸とピット群が検出されている。

#### 城館

長岡市域は古志長尾氏の拠点となつたこともあり、文献に残る城館跡も存在する一方で、築城時期や城主が全く不明な城跡も多い。先に述べたように戦国時代、古志長尾氏の支配と御館の乱に関連して藏王堂城跡(21)・栖吉城跡(27)・稗生城跡(54)・片刈城跡(8)が挙げられる。中湯館跡(52)は志度野岐荘上条に在地する石坂氏の居館との言い伝えがあり、地元では「館」「館の内」と呼ばれている。『温故の集』五篇に「五十間四方塘塹を構へし旧跡あり、今は耕地となり館の内と称す」との記述があるが、国道17号や住宅により遺構の大半が消失している。明治36年の地籍図から、本館跡は東西約70m、南北90mのやや縱長の規模で、周囲に土塁や堀を巡らせた方形単郭式の館と推測されている(第6図)。

中湯館跡の南1.6kmに位置する会水城(53)は石坂氏の要害と考えられている。会水城が立地する東山丘陵に信濃川が接しており、尾根上から眼下に信濃川をおさめることができることから、軍事交通上の要地でもあったと考えられる。築城時期は不明であるが、遺構や伝承から戦国時代以前に築かれたと推測されている。



第6図 明治36年の地籍図と平成5年の空撮写真

### 第三章 遺 跡

## 1 グリッドの設定

グリッドは、国交省の打設した杭 No.160 と No.166 を結んだ線を基準として設定した。この方向は真北と一致する。南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表した 10m の方眼を大グリッド、大グリッドを 25 分割した 2m の方眼を小グリッドとし(第 7 図)、10B25 のように呼称した。杭 No.160 は 16B、杭 No.166 は 6B の西側延長線上に位置する。座標(旧測地)は 6B が X149647.1453・Y29444.3812、16B が X149537.1556・Y29445.8155 である。

## 2 基 本 層 序

調査区の基本層序は以下のとおりである。後世の搅乱により基本層序が残っていない地点も存在した。なお調査区の地形は北から南に向かって高くなっている。

- I層(表土・耕作土) 茶褐色土

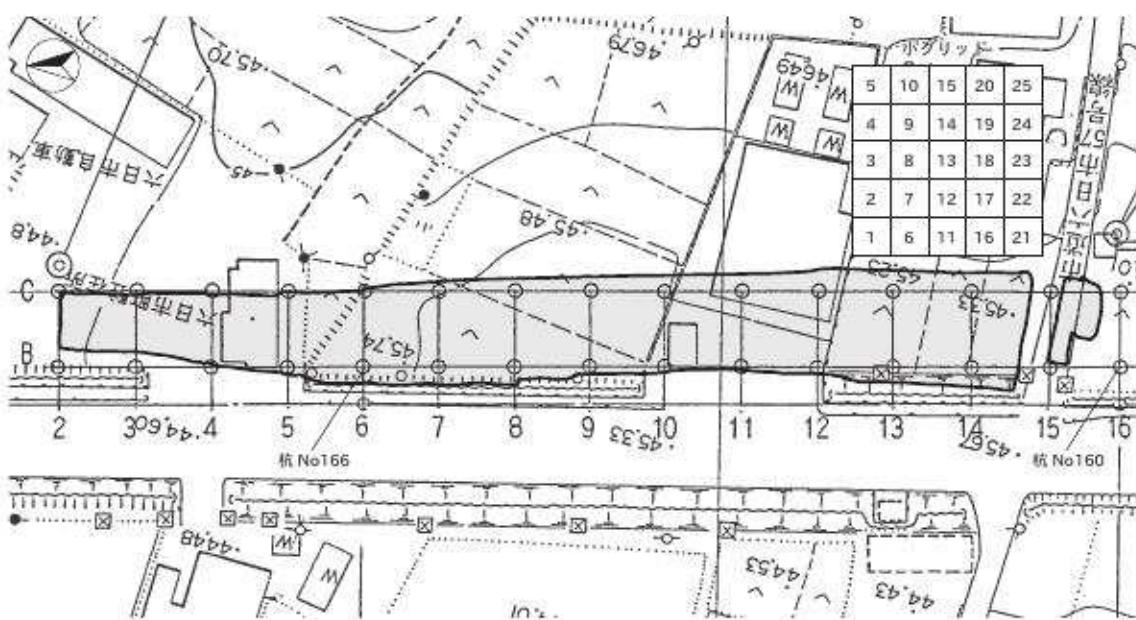
II層 暗茶褐色土 しまりやや強い。地山粒(径2~5mm)、地山ブロック(径約2cm)全体に含む。炭化粒(径1~2mm) 少量含む。

III層 黒褐色土 しまりやや弱い。地山粒(径2~5mm)、地山ブロック(径約2cm) 少量含む。中世の遺物包含層。

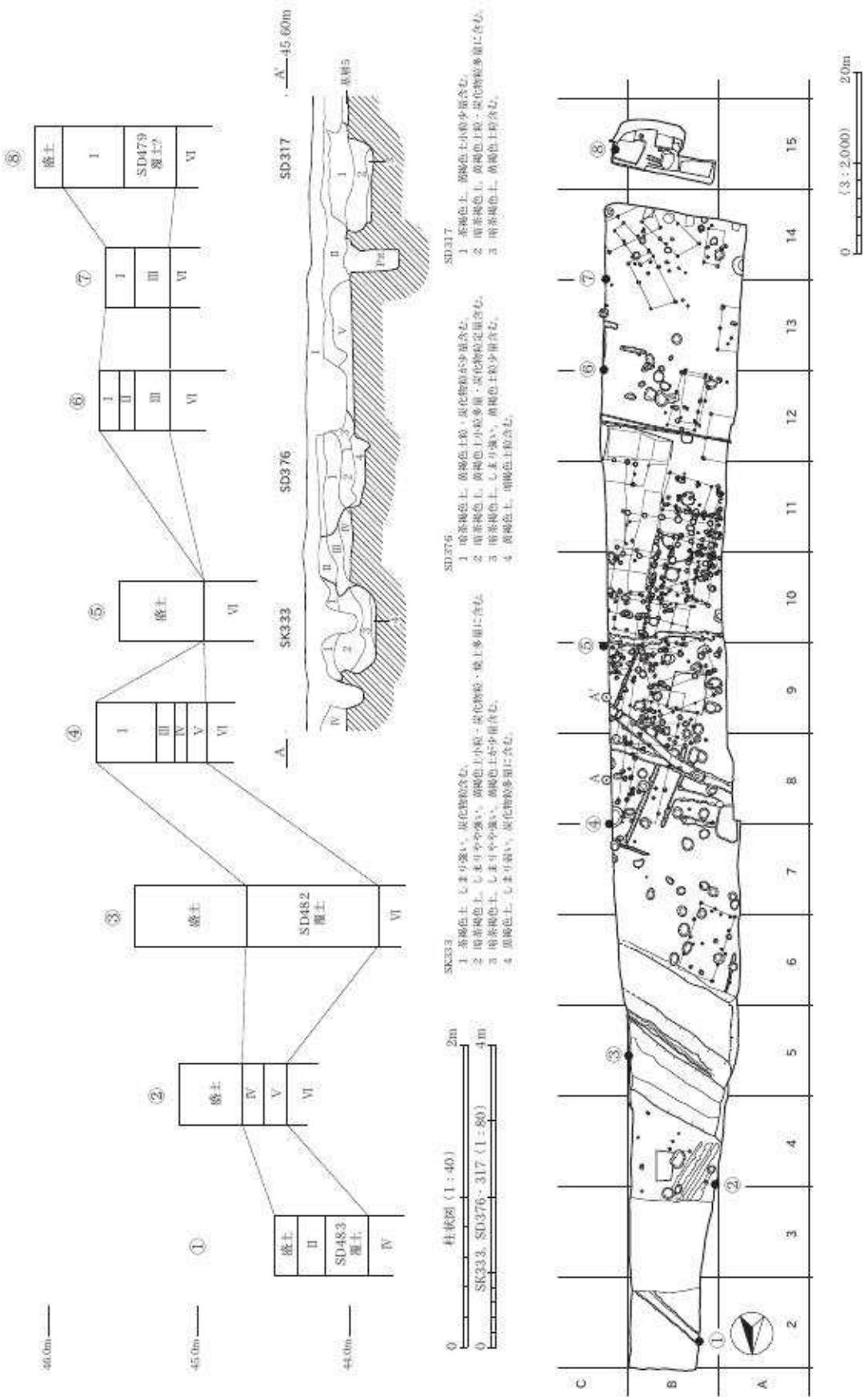
IV層 茶褐色土 しまり強い。炭化物・焼土ごく少量混じる。縄文時代の遺物包含層か。

V層 明茶褐色土 IV層とVI層の漸移層。

VI層(地山) 黄褐色土



第7図 グリッドの設定



第8図 基本層序

## 第IV章 遺構

### 1 概要

第II章2で述べたように中湯館跡は東西約70m、南北約90mのやや縦長の方形単郭式の館と推測する。三方に巡る堀の規模も含めると東西・南北とも100m強である。平面形は、北縁が大きく北に、西縁はわずかに東、東縁はわずかにかに西、南縁はわずかに北に振れている略台形であるが、方1町の区画を意識して作られた館である可能性が高い(第6図)。調査区は館の中央やや東寄りを南北に縦断する。

遺構は掘立柱建物30、井戸11、土坑65、溝14、不明遺構4、ピット多数を検出した。遺構の年代は中世のものが大半を占めるが、土坑やピットには縄文時代のものも存在すると考えている。

遺構種別の略号は、掘立柱建物:SB、井戸:SE、土坑:SK、溝:SD、ピット:P、不明遺構:SXとした。遺構番号は井戸・土坑・不明遺構・ピットは連番としたが、掘立柱建物は整理時に図上復元したものが大半であり、井戸・土坑・溝・不明遺構・ピットとは別に連番とした。本文・観察表における平面形・断面形・土層堆積状況の記載は第9図、ピットの堆積状況は第10図に準拠する。

### 2 各説

#### 溝・土塁

北堀(図版4・5・28・29) 4・5ABにある幅約6.5m、深さ約1.3mの大規模な溝。館の北側の堀と考えている。方向はN-62°-Eである。断面形は台形状、覆土はレンズ状堆積である。北堀の北側上端と館の南端の溝と推測するSD479の南側上端の距離は約103mである。

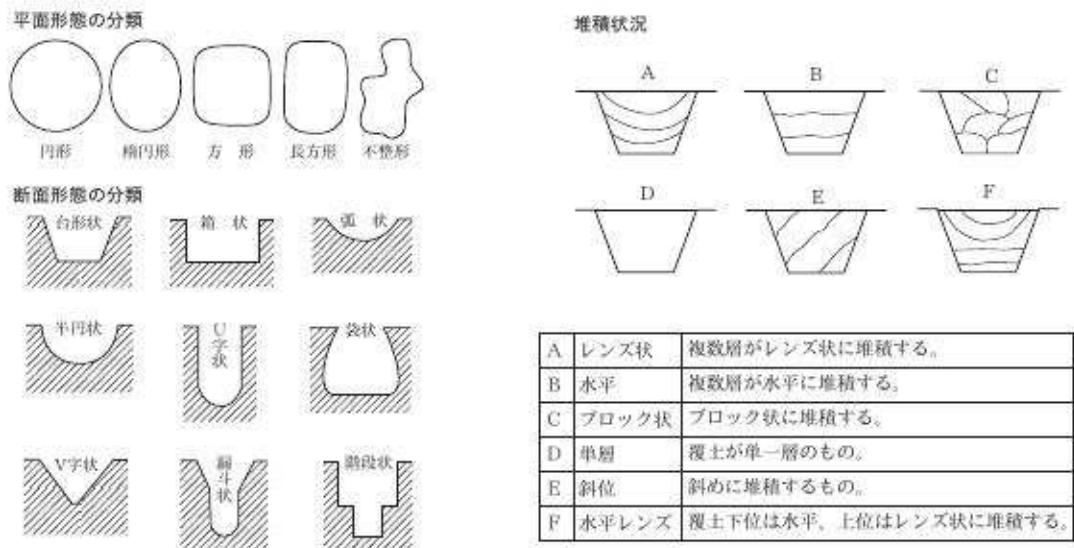
SD482(図版4・5・28) 5Bにある幅約1m、深さ48cmの溝。北堀の南側に隣接して存在し、北堀と平行する。北堀との切り合い関係は不明であるが土塁構築以前の遺構である可能性がある。

土塁(図版4・5・29) 幅は9.4mで、SD482の南側に並行して構築されている。中世の遺物包含層であるⅢ層の上面から盛土が行われている。後世の削平により、調査で確認できた盛土厚は約40cmであったが本来はもっと高かったものと考えている。

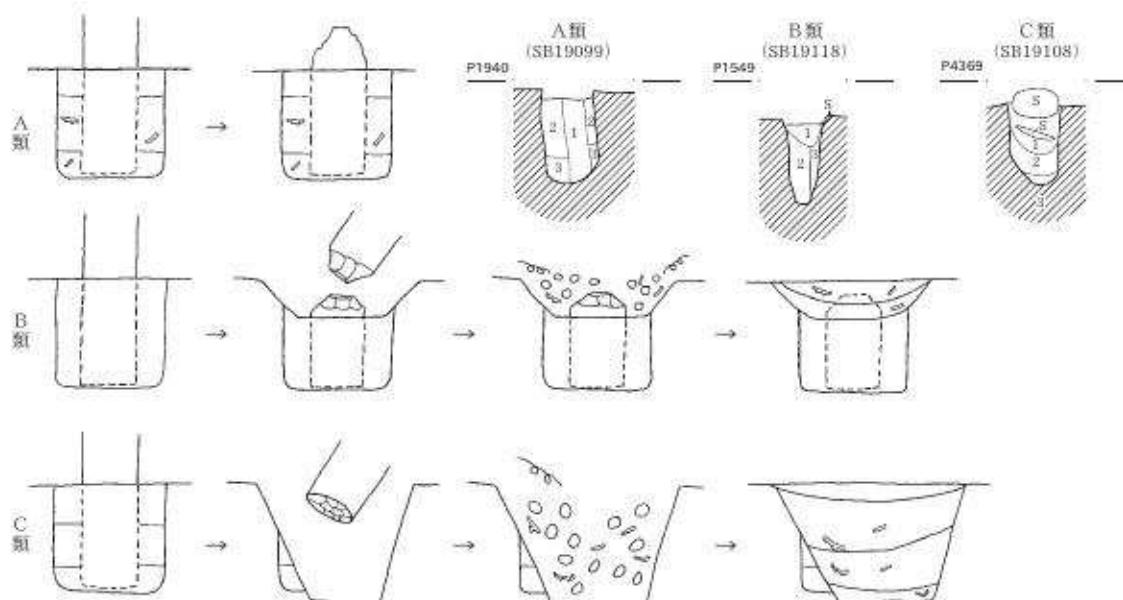
SD479(図版14・15・34) 15Bにある幅45cm、深さ12cmの溝。館の南端を区画する溝と考える。上部を搅乱により壊されており、本来はこれより規模の大きい溝であったと推測できるが、SD479の遺構底面の標高が約44.5mで、14Bの遺構検出面の標高が14.7~14.9mであることを考えると、SD482のような大規模な溝ではなかった可能性が高い。明治36年の地籍図(第6図)で館南端の堀と推測される落ち込みが未確認なこともこのことを裏付けている。

SD252(図版8・9・47) 10ABC・11ABCの境界付近にある東西方向の溝。北堀北側上端とSD479南側上端の中間付近に位置し、距離は約50mである。青磁鉢(図版25・5)、瀬戸焼・美濃焼天目椀(図版25・7・8)などが出土した。

SD317・376(図版8・9・30・31・47) 8ABC・9BCにある西北西-東南東方向の溝。SD317が



第9図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類 (春日浩, 2012を転載)



分類	特徴	形成過程(案)	出土遺物	備考
A類	柱根(痕)がピットの検出面付近から確認できる。	柱が立ち腐れるか、検出面より上位で切断される。	椭形内の遺物は建物構築以前、柱痕内の遺物は建物廃絶後に含まれたもので、建物機能時の遺物が含まれている可能性もある。	B類の上部が後世に削平されたものも含まれる。
B類	上部がレンズ状堆積で、下部に柱根(痕)が確認できる。	検出面より下位、柱底面より上位で柱を切断する。根腐れ部分で柱を切断した可能性などが考えられる。	椭形内の遺物は建物構築以前、上部と柱痕内の建物は建物廃絶後に含まれたもので、建物機能時の遺物が含まれている可能性もある。	柱根(痕)が斜めに入っている場合、A類をB類と誤認する可能性がある。
C類	柱根(痕)が確認できない。	柱底面まで掘り下げ柱を完全に抜き取る。抜き取り時に生じた穴が埋没する。	ピット内の遺物は基本的に建物廃絶後に含まれたもの。	セクション図の位置によっては、セクションに柱根(痕)が係らずA・B類をC類と誤認する場合がある。

第10図 ピット覆土の分類 (春日浩, 2012を転載)

SD376 より新しい。SD317 は SK318・SE320 より古く、SD286・3227 と直行する。SD376 は SD355・356・367 と平行し、SD358・368 と直行する。SD252 と SD317・376 の方向が異なるのは、SD317・376 が北堀の方向に規制されたのに対し、SD252 は館の東・西・南縁の形状に規制された結果と推測する。SD317 は瀬戸焼・美濃焼瓶子（図版 25-11）、珠洲焼壺 R 種（図版 25-21）などが出土した。

### 掘立柱建物

**概要** 分布状況は 9ABC～11ABC に集中（20 棟）するが、このほか 6AB に 1 棟、12～14ABC に 9 棟確認できる。梁間 1 間の建物が大半を占める。主軸方位により I 類：N-29°～40°-W・N-69°-E、II 類：N-70°～75°-W・N-13°～23°-E、III 類：N-5°～10°-E・N-78°～82°-W の 3 種に分類できる。また、平均桁行寸法は 1.9m 以下の A 類と 2.0m 以上の B 類に大別可能である。建物の面積は 13.9m<sup>2</sup> 以下が 3 棟、14～18.9m<sup>2</sup> が 8 棟、19～39.9m<sup>2</sup> が 7 棟、40～59.9m<sup>2</sup> が 4 棟確認できる。

**SB2**（図版 8-9-48） 8-9BC にある 1 × 6 間の南北棟建物。主軸方位は II 類、桁行平均寸法 B 類である。SB5（主軸方位 II 類・平均桁行寸法 A 類）、SB6・7（主軸方位 I 類）、SB29（主軸方位 III 類・平均桁行寸法 B 類）などと重複する。

**SB3**（図版 8-17） 8・9C にある南北棟建物。建物の一部が調査区外に及ぶため全形は不明だが、桁行 4 間の棟持柱建物の可能性が高いと考えている。主軸方位は III 類である。SB4（主軸方位 II 類・平均桁行寸法 B 類）と重複する。棟持柱と考えた P1004 が梁間の中央付近に位置すると考えれば梁間は約 4.2m で、面積は 58.4m<sup>2</sup> となる。

**SB10・11**（図版 10・19・49） SB10 は 9・10BC にある東西棟建物、SB11 は 9・10・11BC に所在する南北棟建物である。P163（SB10）と P164（SB11）は重複し、P163（SB10）が古い。

SB10 は観察表では梁間 2 間としたが、P250 が棟持柱の可能性もある。主軸方位は II 類、平均桁行寸法は A 類である。SB11 のほかに SB8・9（ともに主軸方位 II 類・平均桁行寸法 B 類）と重複する。

SB11 は、P154・284 を壁芯棟持柱と考えたが、梁間 2 間の建物の可能性もある。主軸方位は II 類、平均桁行寸法は B 類である。面積は 58.1m<sup>2</sup> で、今回の調査で全形の明らかとなった建物の中では最も規模が大きい。SB8・9、SB14（主軸方位 III 類）と重複する。P272 からは瀬戸瓶子（図版 25-11）

**SB14・20**（図版 10・20・21・50） 10・11BC にある桁行 5 間の棟持柱建物。柱穴の位置から P409 は棟持柱と判断した。主軸方位は III 類、平均桁行寸法は A 類である。SB14 の P171 は P1030（SB20）と重複しており、P171 が古い。

SB20 は主軸方位 I 類の建物である。SB20 のほか SB11・15・17（主軸方位 II 類・平均桁行寸法 B 類）、SB12（主軸方位 III 類・平均桁行寸法 B 類）、SB13（主軸方位 II 類・平均桁行寸法 A 類）などと重複する。P126 からは珠洲焼片口鉢（図版 25-22）が出土した

**SB16・17**（図版 10・21・22・51） ともに 10・11AB にある南北棟建物。P398A（SB17）と P398B（SB16）が重複し、P398B（SB16）が古い。SB16 は主軸方位 III 類、平均桁行寸法 B 類であり、SB17 のほかに SB15（主軸方位 II 類・平均桁行寸法 B 類）、SB20（主軸方位 I 類）などと重複する。

SB17 は主軸方位 II 類、平均桁行寸法 B 類であり、SB16 のほかに SB12（主軸方位 III 類・平均桁行寸法 B 類）、SB15・20 などと重複する。

掘立柱建物（のピット）の切り合い関係をまとめると、主軸方位 II 類・平均桁行寸法 A 類（SB10）が主軸方向 II 類・平均桁行寸法 B 類（SB11）より古い事例、主軸方向 III 類（SB14）が、主軸方向 I 類（SB20）



第 11 図 振立柱建物の分布状況

より古い事例、主軸方向Ⅲ類 (SB16) が主軸方向Ⅱ類・平均桁行寸法B類 (SB17) より古い事例がある。主軸方位や平均桁行寸法の近似した建物が、時期的にまとまりがあるという確証はないが、主軸方向Ⅱ類・平均桁行寸法A類の建物および主軸方向Ⅲ類の建物は相対的に古い時期、主軸方向Ⅱ類・平均桁行寸法B類の建物および主軸方向Ⅰ類の建物は相対的に新しい時期の建物の可能性がある。

## 井 戸

11基検出したがすべて素掘りである。覆土の堆積状況はレンズ状が多い。分布状況は7・8BCに比較的多く(5基)確認できるが、9B(SE319)・10A(SE417)、13C(SE60)にも点在し、北堀の北側3・4B(SE468・469)にも確認できる。SE335(図版12・13・35)は青磁小椀(図版25・2)、SE469(図版2・3・36)は珠洲焼甕(図版26・25)が出土した。また、SE374(図版6・7・36)は珠洲焼片口鉢(図版25・15)が出土したほか、底面から大型の碟が出土した。

## 土 坑

6B・8B・12B・14Bで特に多く確認できる。平面形は円形、断面形は弧状、堆積状況はレンズ状のものが多い。時期は大半が中世と考えるが、縄文時代のものも存在する可能性がある。

SK76(図版12・13・39)からは珠洲焼片口鉢(図版25・16)、SK311(図版8・9・42)からは白磁椀(図版25・6)、SK365(図版8・9・43)からは珠洲焼片口鉢(図版25・14)・甕(図版26・23)、SK379(図版6・7・44)からは珠洲焼片口鉢(図版25・15)、SK418(図版8・9・46)からは珠洲焼甕(図版26・25)、SK426(図版8・9・46)からは青磁鉢(図版25・5)が出土した。また、SK95(図版12・13・40)は人頭大かこれより大型の碟で充填されていた。SK69(図版12・13・38)は拳大の碟が多数出土した。

SK292(図版8・9)は縄文土器深鉢(図版26・26)が出土しており、中世の土器・陶磁器は出土していない。また、SK315(図版8)・SK427(図版6)・SK428(図版6)からも縄文土器以外の土器・陶磁器は出土していない。これらの遺構は縄文時代の遺構である可能性がある。

## ビ ッ ト

ビットは館内部の6～14ABCで多数検出した。特に9・10BCは多くのビットが存在する。柱痕があるが建物として復元できなかつたビットも少なくない。

また、北堀より北の3・4B(図版2)、館の南限を示す溝SD479より南の15B(図版14)でもビットを検出した。3・4Bにはビットのほか井戸(SE468・469)、土坑(SK453・454)も確認できる。自明のことであるかもしれないが、館の外側が耕地や荒地ばかりではなく、集落(居住域)が存在したことが推測できる。

# 第V章 遺物

## 1 概要

遺物には土器・陶磁器、石器、金属製品、木製品がある。出土量は土器・陶磁器が平箱（内法 54cm × 幅 34cm × 深さ 10cm）で 3 箱、石製品・土製品 2 箱、木器 1 箱、金属製品（鉄滓含む）が 0.5 箱である。土器・陶磁器、石器・石製品、木製品、金属製品の順に報告する。

## 2 土器・陶磁器

### A 概要

土器・陶磁器は中世のものが多いが（131 点）、縄文時代のものも定量あり（64 点）、古代のもの（15 点）も少量確認できる。28 点図示した（図版 25・26 1～28）。

中世の土陶・磁器には土師質土器・輸入陶磁器（青磁・白磁）・瀬戸焼・美濃焼・瓦器・瓷器系陶器・珠洲焼などがある。土師質土器の分類は、水澤などの論考〔水澤 2005〕に従った。輸入陶磁器は山本（大宰府）〔2000・2010〕・上田〔1982〕・森田〔1982〕の分類、瀬戸焼・美濃焼（大窯含む）は藤澤〔1993・2008〕の分類・編年、珠洲焼は吉岡〔1994・2003〕の分類・編年を用いる。

### B 各節

1 は手づくね整形の土師質土器皿で水澤分類〔水澤 2005〕の T2 類である。口縁端部をわずかに上方につまむ。15 世紀中葉以降増加するものである。

2～5 は青磁。2 は無紋で内彎する口縁となる小椀である。上田分類〔上田 1982〕の E 類であり 14 世紀後半から 15 世紀前半のものである。SE335 から出土した。3 は小椀の底部破片で大宰府分類〔山本 2000〕の III 類である。外面に鎬蓮弁紋がある。13 世紀後半を中心とする時期のものである。4 は椀の底部破片で無紋である。上田分類の D II 類もしくは E II 類であり 14 世紀後半から 15 世紀前半のものである。5 は口径が 20cm を超えることから鉢とした。口縁端部付近が屈曲する。外面に鎬蓮弁紋があり、内面にも文様がある。大宰府分類・上田分類に無い器種である。鎬蓮弁紋があることから 13～14 世紀のものと考える。SK426・SD252 などから出土している。

6 は白磁椀。口端端部が外反する。森田分類〔森田 1982〕の E 群であり、15 世紀後半のものである。SK311 から出土した。

7～11 は瀬戸焼もしくは美濃焼。7・8 は天目椀で同一個体の可能性が高い。ともに黒褐色の釉薬が掛かる。古瀬戸後期様式（14 世紀

種類	器種	残存率	破片数
縄文土器	深鉢	7	64
土師器	無台椀		2
土師器	有×無台椀		1
土師器	長胴甕		5
土師器	長胴甕×鏡		5
須恵器	甕		1
須恵器	小片		1
土師質	皿	8	3
青磁	小椀・椀	4	5
青磁	鉢	3	5
青磁	香炉	0.5	1
白磁	椀	0.5	1
瀬戸・美濃	天目椀	2	4
瀬戸・美濃	端反皿		1
瀬戸・美濃	直縁大皿	5	3
瀬戸・美濃	花瓶		1
瀬戸・美濃	瓶子		15
瓦器	風炉など	3	14
瓷器系陶器	桶鉢	0.5	1
瓷器系陶器	甕×壺		1
珠洲	片口鉢	27	22
珠洲	壺R種		2
珠洲	壺T種	6	1
珠洲	甕	2	5
珠洲	甕×壺T種		46
合計		68.5	210

第 1 表 土器・陶磁器一覧

後半～15世紀末)のものと考える。7はSD252から出土した。9・10は直線大皿としたが楕形鉢の可能性がある。ともに灰釉が掛かる。口縁部の破片のみで詳細な時期は不明だが古瀬戸後期様式煮物の可能性が高い。9はSD481から出土した。11は瓶子であり、灰釉が掛かる。口縁部を欠くため細かな時期を確定することができないが古瀬戸後期様式のⅡ～Ⅲ期(14世紀末～15世紀前半)のものと考える。

12・13は瓦器。ともに風炉と考える。13はスタンプによる雷文がある。年代は、15世紀を中心とするものと考える。

14～21・23～26は珠洲焼。14～19は片口鉢で14・15は吉岡編年〔吉岡1994〕のⅣ期(13世紀末～14世紀)、16はⅥ期(15世紀後半)、17はⅤ期(15世紀前半)のものである。14はSK365、15はSK379・SD358・SE374、16はSK76から出土した。18・19は底部の破片で鉗目の様子から18はⅤ期以降、19はⅣ期以前のものである。20は壺T種でⅣ～Ⅴ期のものと考える。20は壺R種の底部破片である。外面は静止糸切りでⅠ期(12世紀後半)ではなく、それ以降のものである。23～26は甕。23・24は口縁端部の形状からⅣ3期～Ⅴ期(14世紀後半～15世紀前半)のものである。25・26は底部の破片である。23はSK365、25はSE469、26はSK418から出土した。

22は越前焼きの播鉢である。口縁部の形状から15世紀後半から16世紀のものと考える。

27・28は縄文土器深鉢。27は波状口縁で、口縁端部付近は無紋、胴部にはLR縄文を施す。28は無紋である。ともに中期後葉～後期初頭のものであろう。

### 3 石 器

石器には縄文時代のものと中世のものがある。剥片なども含め38点出土しており、10点図示した(図版26・27 29～38)。

29～31・33は砥石。29は上面に切断痕がある。30は上下端を欠損する。31は右側縁が弧状となる特異な形状である。33は重さ8kgを超える大型の砥石である。正面に細かな傷が見られ、金属器の砥石として使用したことがわかる。石材は29・30が凝灰岩、31・33が砂岩である。4点とも中世の砥石と考える。

32は石臼の上臼。石材は花崗岩である。調査区東側の畑地からの採集品で、中世よりも新しい時期のものの可能性がある。

34・35は磨石類で、石材は2点とも安山岩である。34はSD317から出土した。SD317は中世の遺構であり、34も中世の遺物の可能性がある。

36は頁岩の剥片を素材としている。右側縁には自然面が残る。縄文時代の三脚石器の可能性がある。

37・38は打製石斧。37は薄手で石材は粘板岩、38は厚手で下部を欠損する。石材は無斑晶質安山岩である。2点ともに自然面が一部に残存し、38は主要剥離面が確認できない。2点とも縄文時代の石器である。

## 4 木 器

木器は主に井戸から出土した。すべて中世のものと考えている。10点図化した(図版27 39~48)。  
 39はSE469から出土した曲物である。底板には3か所(以上)の木釘があり、木取りは柾目である。  
 40・41はSE60から出土した。40は指物の側板で一部が炭化する。右側縁とした側縁に木釘が2か所ずつある。41は柾目の板材である。  
 42~48はSE320から出土した。44は折敷の可能性がある。46・47は心去りの棒状木製品で、柄杓の柄の可能性が高い。48は曲物の側板である。

## 5 金 属 製 品

銭貨を3点、釘6点を図化した(図版27 49~57)。  
 49~51は銭貨。いずれも北宋銭である。50はSK311から出土した。SK311からはもう1点銭貨が出土しているが、遺存状態が悪く文字を判読できない。このほか11B7から元豊通寶(北宋 初鑄1078年)が出土した。  
 52~57は釘。ビットからの出土が多い。52はSB7のP255、54はSB9のP232、55はSB20のP472から出土した。図化したもののはか、SK365・SD376・P378(9B19)からも出土している。観察表では頂部の幅を「幅1」、断面図の幅を「幅2」とした。  
 釘以外ではSK67から鍔(鋤)先の小片、SE364・SD252から板状の鉄片が出土した。鉄滓・フイゴ羽口も少量だが出土している。

## 第VI章 まとめ

### 1 中世の掘立柱建物について

中湯館跡では多数のピットが検出され、30棟の掘立柱建物を復元した。掘立柱建物の大半は棟持柱建物を含む梁間1間の建物であり、他の建物（総柱建物など）は少ない（第12図上段）。館跡から出土した中世の土器・陶磁器は上限が13世紀、下限が15世紀末～16世紀初頭で主体を占めるのは14世紀後半から15世紀である。建物の年代も14世紀後半から15世紀を中心とし、13世紀～16世紀初頭の中に収るものが大半と考える。近隣（新潟県中越地区）の近接した時期の遺跡から検出された建物と比較し、当期に梁間1間の建物が一般的であることを確認する。

長岡市奈良崎遺跡〔春日ほか2002〕は長岡市西部、海岸付近の丘陵上に所在する遺跡である。南北朝の争乱を契機に造成した山城跡で、削平段・大型の溝などが確認され、削平段を中心に掘立柱建物を33棟検出した。遺物の主体は15世紀で、建物のほとんどが棟持柱建物を含む梁間1間の建物である（第12図下段）。

三貫梨遺跡〔駒形1987〕は長岡市柄吉町に所在する遺跡で、中湯館の北西約9kmに位置する（8p第5図31）。15世紀前半を中心とする遺跡で、長軸13m・短軸6.3mで4m×1.4mの張り出しを持つ建物を検出した（第13図左上）。この建物は3×7間の総柱建物の可能性もあるが、下屋もしくは縁がある桁行7間の棟持柱建物と解釈することも可能であろう。

ソデクネ遺跡〔駒形2003〕も長岡市柄吉町に所在する遺跡で、中湯館跡の北西約10.5km、三貫梨遺跡とは直線距離で1.5kmである（8p第5図26）。遺跡の年代は15世紀後半～16世紀前半を中心とする。掘立柱建物を8棟検出した（第13図右上）。40m<sup>2</sup>以下の小規模な建物が大半を占めるが、建物のほとんどが棟持柱建物を含む梁間1間の建物である。

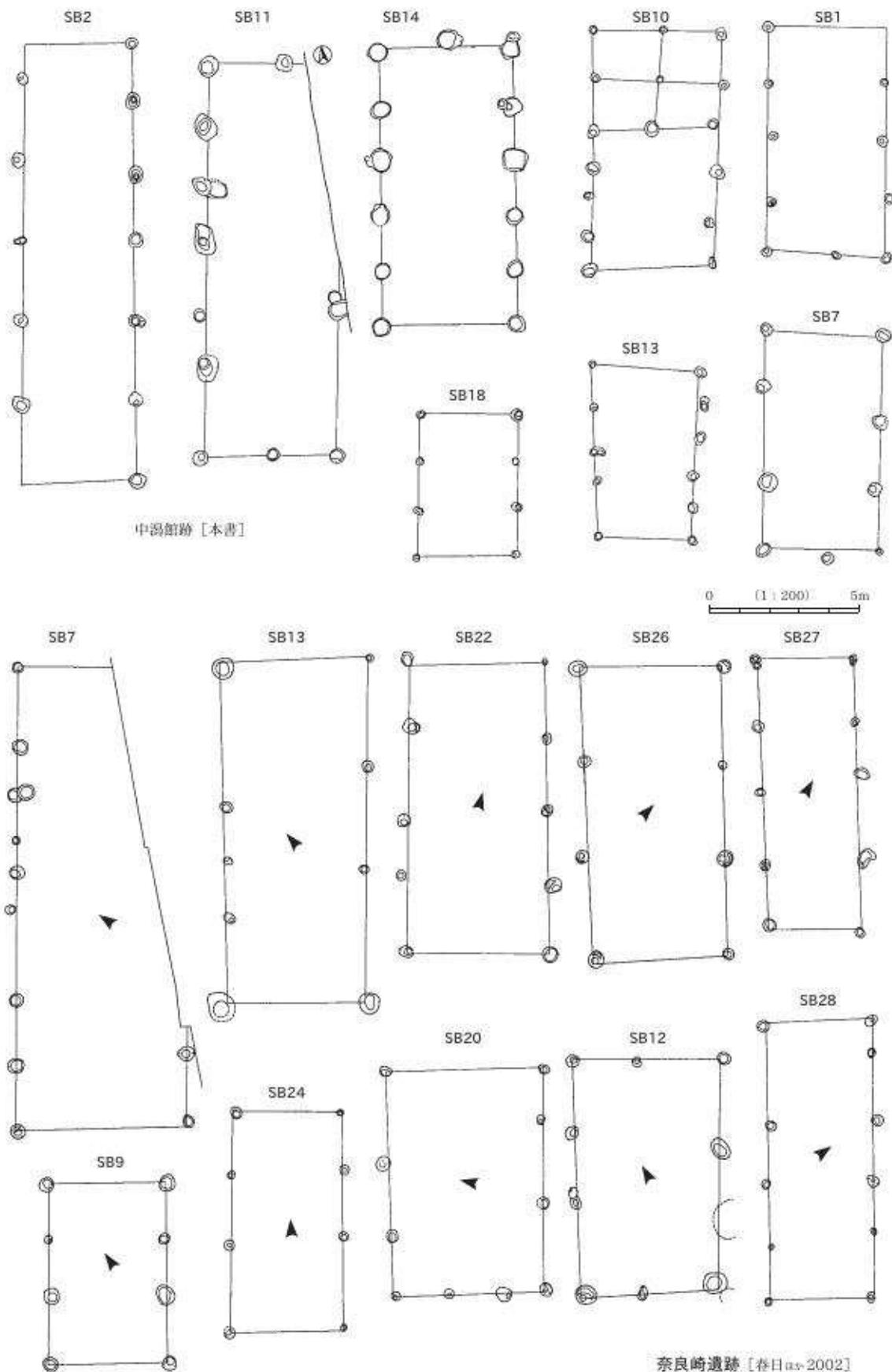
十日町市伊達八幡館跡〔菅沼ほか2006〕は十日町市大字伊達に所在し、信濃川右岸の河岸段丘上に位置する。中世の土器・陶磁器は12～16世紀のものが確認できるが、主体を占めるのは15世紀から16世紀前半である。銅製の仏具が5点出土している。報告書では中世の有力氏族鳥山氏との関連が指摘されている。主郭・副郭・郭外合わせて49棟の掘立柱建物を検出した（第13図下・第14図）。掘立柱建物には主郭建物13のように総柱建物も確認できるが、棟持柱建物を含む梁間1間の建物である。

見附市坂井遺跡〔小田ほか2006〕は刈谷田川右岸の沖積地微高地上に位置する遺跡で見附市坂井字下屋敷ほかに所在する。中世の土器・陶磁器は13世紀～15世紀のものが出土しているが、主体を占めるのは14世紀後半から15世紀である。掘立柱建物は15棟検出した。30m<sup>2</sup>以下の小規模な建物が多く、梁間1間のものが大半である（第15図）。

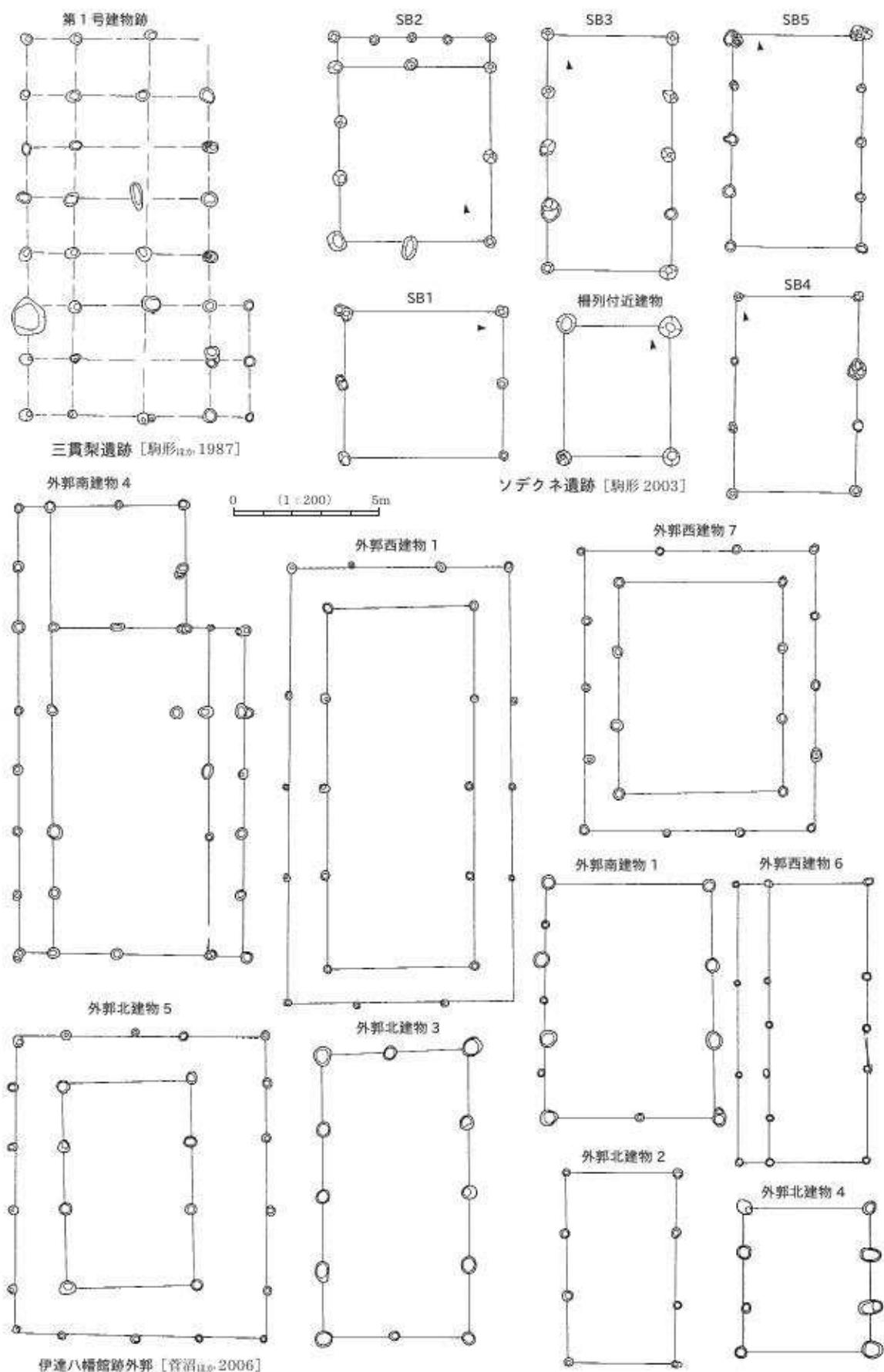
以上のように、新潟県中越地区の14世紀後半～15世紀の掘立柱建物は、長岡市三貫梨遺跡1号建物跡や十日町市伊達八幡館跡主郭建物13のように総柱建物となるものが存在するがこれらは少数派で、棟持柱建物を含む梁間1間建物が主体を占める。中湯館跡で検出した掘立柱建物は中越地域の14世紀後半～15世紀の掘立柱建物の形態としては一般的なものである。

なお、富山県では中世前期（12世紀後半～13世紀）では掘立柱建物の80%を総柱建物が占め、中世中

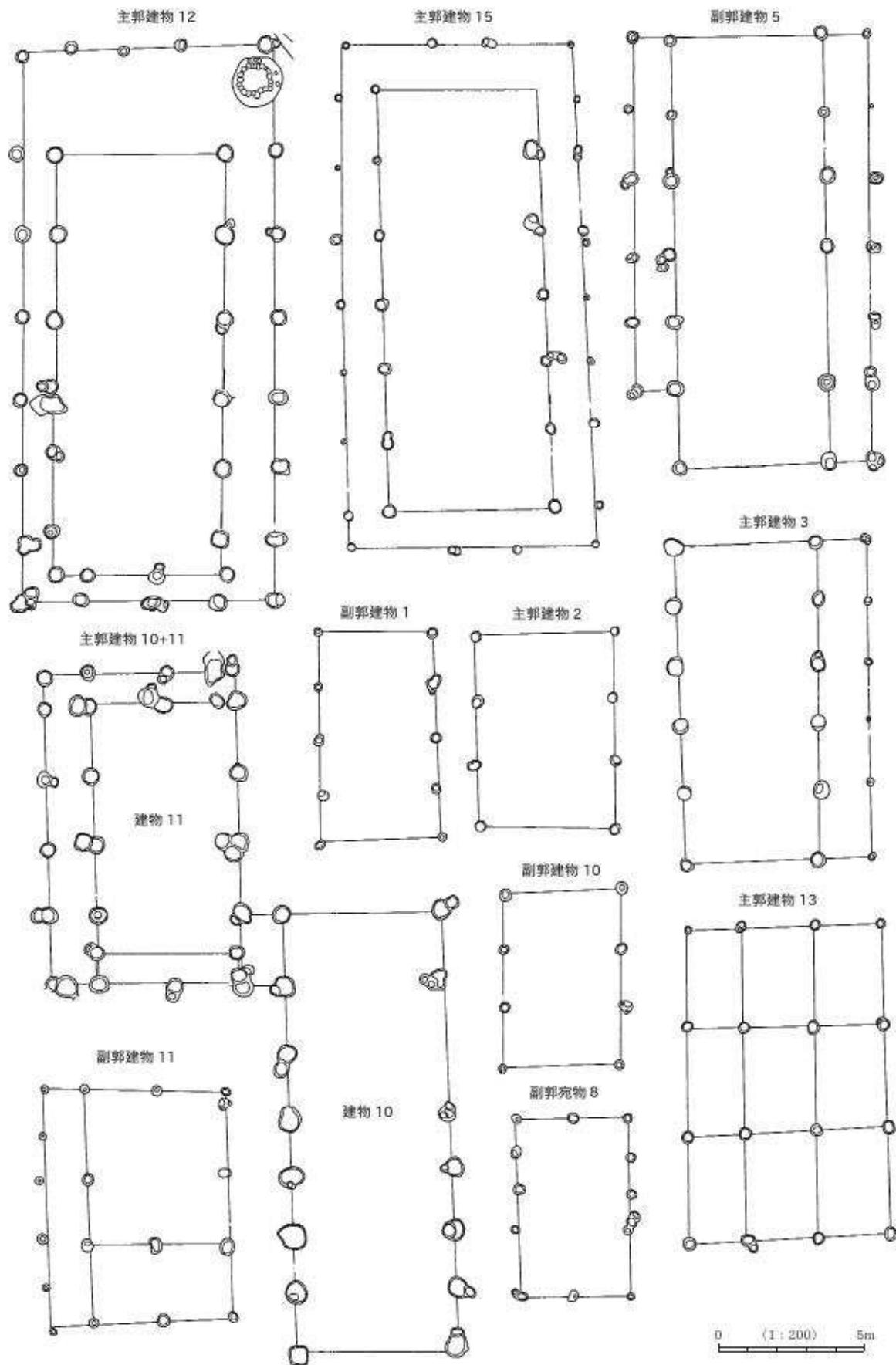
1 中世の掘立柱建物について



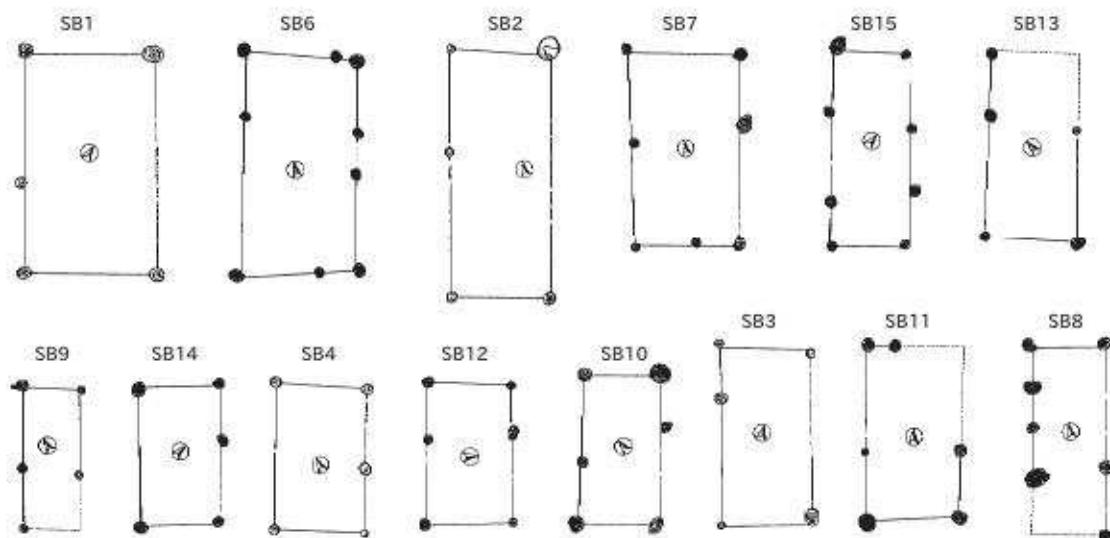
第12図 長岡市中湯館跡・奈良崎遺跡の掘立柱建物



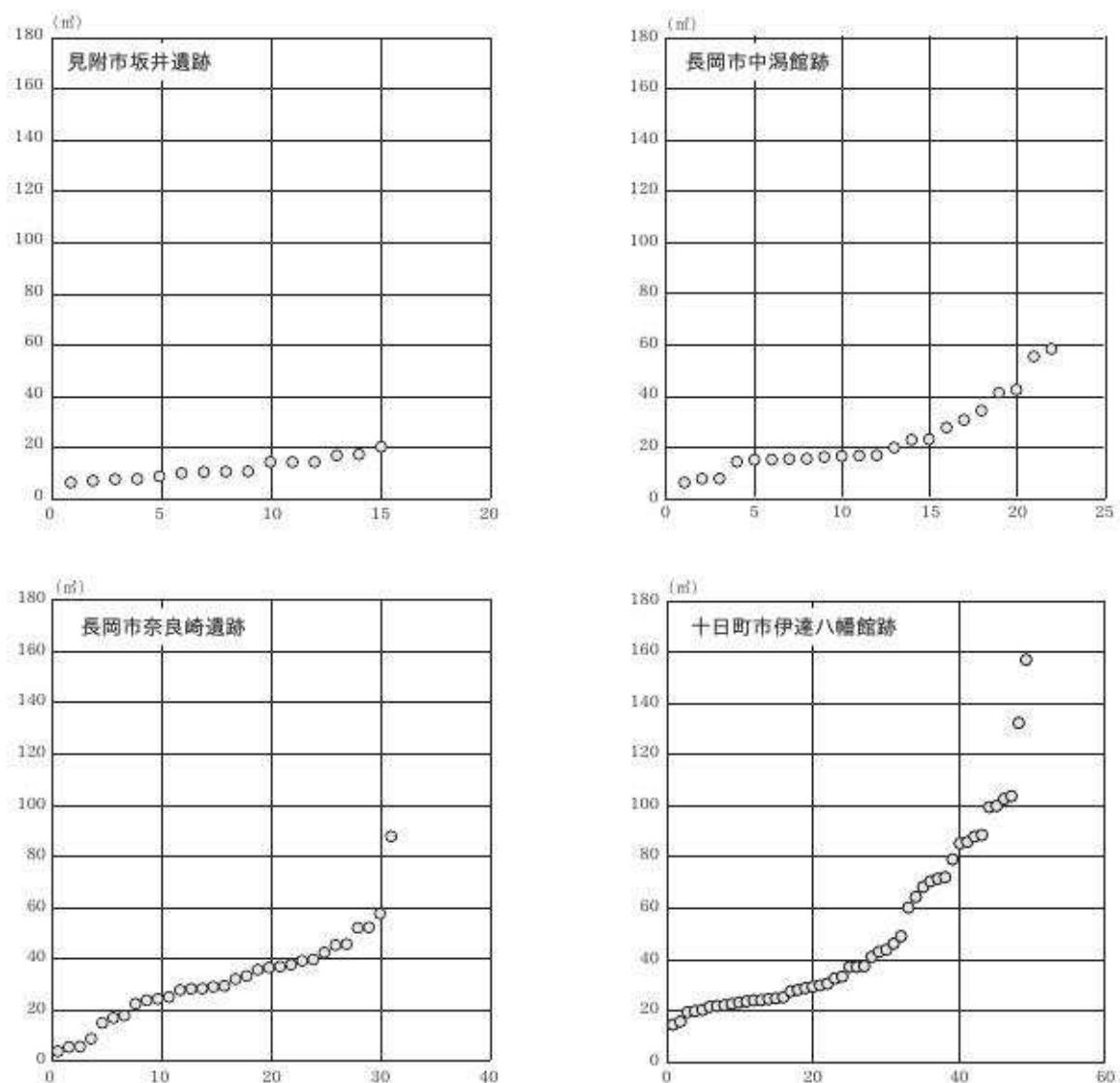
第13図 長岡市三貴梨遺跡・ソデクネ遺跡、十日町市伊達八幡館跡外郭の掘立柱建物



第14図 十日町市伊達八幡館跡主郭・副郭〔菅沼ほか, 2005〕の掘立柱建物



第15図 見附市坂井遺跡〔小田ほか2006〕の掘立柱建物



第16図 掘立柱建物の面積

期（14～15世紀）でも掘立柱建物の約50%を総柱建物が占めるという指摘がある〔高梨2004〕。新潟県中越地域ではより早く総柱建物が減少し、梁間1間の建物が定着した可能性がある。また、新潟県北部の村上市田屋道遺跡〔大島ほか2008〕は13～14世紀を中心とする遺跡であるが、総柱建物は少なく、梁間1間の建物が多い。総柱建物の多寡や梁間1間の建物の定着時期は越後内部でも地域差があった可能性がある。

## 2 中潟館跡と石坂氏

建物の規模と輸入陶磁器の1点出土面積（調査面積÷出土輸入陶磁器点数）〔山本2010〕について検討し、中潟館跡の性格について考える。また、中潟館は石坂氏の居館とする伝承があるが、石坂氏との関連についても触れる。

第16図に、見附市坂井遺跡〔小田2006〕、長岡市中潟館跡〔本書〕、同市奈良崎遺跡〔春日ほか2002〕、十日町市伊達八幡館跡〔菅沼ほか2005〕で検出された建物の面積をグラフで示した。建物の面積は下屋もしくは縁と考える施設を含んだ面積である。

見附市坂井遺跡は18.9m<sup>2</sup>以下の建物が大半で19～39.9m<sup>2</sup>の建物は1棟のみである。中潟館跡は13.9m<sup>2</sup>以下が3棟、14～18.9m<sup>2</sup>が8棟、19～39.9m<sup>2</sup>が7棟、40～58.9m<sup>2</sup>が4棟確認できる。長岡市奈良崎遺跡は13.9m<sup>2</sup>以下が2棟、14～18.9m<sup>2</sup>が3棟、19～39.9m<sup>2</sup>が17棟、40～58.9m<sup>2</sup>が6棟、80m<sup>2</sup>以上が1棟確認できる。十日町市伊達八幡館跡は13.9m<sup>2</sup>以下が1棟、14～18.9m<sup>2</sup>が2棟、19～39.9m<sup>2</sup>が24棟、40～59.9m<sup>2</sup>が4棟、59～79.9m<sup>2</sup>が7棟、80m<sup>2</sup>以上が10棟確認できる。

次に輸入陶磁器の1点出土面積を確認する。見附市坂井遺跡が384m<sup>2</sup>、中潟館跡が142m<sup>2</sup>、奈良崎遺跡が86m<sup>2</sup>、伊達八幡館跡が76m<sup>2</sup>である。建物の面積と輸入陶磁器の1点出土面積の検討結果は概ね調和的である。このことから、中潟館跡は坂井遺跡より上位で、奈良崎遺跡・伊達八幡館跡より下位の遺跡と評価することもできる。

文明一五年（1483）の長尾・飯沼氏等知行検地帳（長岡市史資料編2164）によると、中潟館跡が所在する志度野岐荘には料所や多くの家臣・寺社給分があり、その合計は53万余刈であったが、そのうち石坂氏分は約20万刈であった〔竹内編1989〕。中潟館を居館としたという石坂氏は志度野岐荘のなかでも屈指の有力氏族と推測でき、建物規模や輸入陶磁器の1点出土面積の検討結果は、石坂氏の居館としてはやや物足りない印象を受ける。ただし、今回の調査範囲は限定的である。堀も含めるとほぼ方1町となる館の規模は決して小規模ではない。出土遺物には瓦器風炉や古瀬戸瓶子などの優品も存在する。調査区外に石坂氏の居館に見合った施設が存在している可能性があり、上記の検討結果は、中潟館が石坂氏の居館でなかったことを示すものとはならない。

遺跡名ほか	調査面積 (m <sup>2</sup> )	輸入陶磁 点数(点)	1点出土 面積(m <sup>2</sup> )
ソデクネ遺跡	9,220	24	384
坂井遺跡	7,650	20	383
中潟館跡	1,700	12	142
奈良崎遺跡	17,580	205	86
伊達八幡館跡	12,000	158	76
三貫梨遺跡(二次)	1,550	109	14

第2表 輸入陶磁器の1点出土面積

## 引用・参考文献

- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 江口友子 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第92集 金塚遺跡・三仏生遺跡・割目A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 遠藤孝司 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第71集 堂付遺跡・百塚東E遺跡・百塚西C遺跡・割目B遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 越路町 1998a 『越路町史』別編1 自然
- 越路町 1998b 『越路町史』資料編1 原始・古代・中世
- 越路町 2001 『越路町史』通史編 上巻
- 大島英俊 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第181集 田屋道遺跡I 宮の越遺跡I』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第169集 坂井遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林巖雄 1991 『地域地質研究報告 長岡地域の地質』 通商産業省工業技術院地質調査所
- 春日真実 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第116集 奈良崎遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第228集 山岸遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 駒形敏朗 1987 『三貴梨遺跡－第2次発掘調査－』
- 駒形敏朗 1998a 『外新田遺跡』 長岡市教育委員会
- 駒形敏朗 2003 『ソデクネ遺跡』 長岡市教育委員会
- 駒形敏朗 1977 『藤橋遺跡』 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会
- 駒形敏朗 1981 『岩野原遺跡』 長岡市教育委員会
- 駒形敏朗 1994 『2妙見館跡』『長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会
- 駒形敏朗 1998 『中道遺跡』 長岡市教育委員会
- 品田高志 1999 「越後における中世後期の土師器III—京都系土師器第2波の流入と展開—」『中世土師器の基礎研究』 XIV 日本中世土器研究会
- 菅沼 亘 2008 『十日町市埋蔵文化財調査報告書第26集 伊達八幡館跡発掘調査報告書』 十日町市教育委員会
- 高梨清志 2004 「越中（富山県）の様相」『掘立柱建物から礎石建物へ』 北陸中世考古学研究会
- 竹内理三編 1989 「支度野畠莊」『角川地名大辞典 15 新潟県』 角川出版
- 高野裕子 2004 「越後の様相」『掘立柱建物から礎石建物へ』 北陸中世考古学研究会
- 鶴巻康志 1999 「第5章 中近世 第2節B 中世後期」『新潟県の考古学』 高志書院
- 長岡市 1992 『長岡市史』資料編1 考古
- 長岡市 1993 『長岡市史』資料編2 古代・中世・近世1
- 長岡市 1996 『長岡市史』通史編 上巻
- 新潟県農地部農地整備課編 1977 『土地分類基本調査 小千谷』
- 新潟県 1986 『新潟県史』通史編1 原始・古代
- 新潟県 1987 『新潟県史』通史編2 中世
- 新潟県教育委員会 1987 『新潟県中世城館跡等分布調査報告書』
- 新潟第四紀グループ編 1993 『越路の大地』上巻 越路町教育委員会
- 新田康則 2011 『浦畑遺跡II』 新潟県長岡市教育委員会
- 新田康則・石坂圭介 2011 『多賀屋敷遺跡IV』 新潟県長岡市教育委員会

- 藤澤良祐 1993 『瀬戸市史 国歴史編四』 愛知県瀬戸市
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 藤巻正信 1991 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第29集 城之腰遺跡』 新潟県教育委員会
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟考古学会
- 宮田進一 1994 「第IV章 まとめ 2 掘立柱建物」『梅原護摩堂遺跡発掘調査報告書(遺構編)』 財団法人富山県文化振興財團
- 宮本長二郎 1999 「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間－関口欣也先生退官記念論文集－』 関口欣也先生退官記念論文集刊行会編 中央公論美術出版
- 宮本長二郎 2002 「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター 研究紀要』第16号 財団法人秋田県埋蔵文化財センター
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 横山勝栄 1987 『新潟県中世城館跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- 山本信夫 2000 『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』 太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2010 「貿易陶磁の分類・編年研究の現状と課題」『貿易陶磁研究』No.30 日本貿易陶磁研究会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 「珠洲焼概論」『珠洲焼概論』平成15年度埋蔵文化財専門職員実務研修資料集 新潟県教育庁文化行政課

## 凡例

## 遺構観察表

- 長軸・短軸・深さ・桁行・梁間などの数値の後に付されている「+」は欠損や調査区外に伸びているなどの理由で、実際の規模が記入された数値よりも大きくなる可能性があることを表している。
- 出土土器・陶磁器などに記入されている「×」は「または」と同義である。
- グリッドは主要なものを記入しており、網羅的ではない。
- 分割図は主要なものを記入しており、網羅的ではない。
- 長軸・短軸・深さは最大値を示した。
- 出土土器・陶磁器の( )内の番号は遺物の報告番号に一致する。
- 備考には遺構の切り合い関係や、棟持柱と判断したピット名などを記入した。遺構の切り合い関係は、溝・土坑や建物との切り合い関係を主に記入し、建物を構成しないピットとの切り合い関係は省略したものもある。
- 掘立柱建物の桁行・梁間の数値は、図上の天地・左右で間数が異なる場合は多い方を記入した。
- 棟持柱建物の梁間は1間とした。
- 梁間2間の掘立柱建物か壁芯棟持柱建物かの判断は、ピットの規模などを考慮し判断したが、恣意的な部分が無いとは言えない。
- 掘立柱建物の平均桁行寸法は長さ+桁行(間数)、平均梁間寸法は幅+梁間(間数)によって得られた数値である。
- 掘立柱建物の面積は、長さと幅の積により求めた。ただし建物を構成するピットを結んだ線が正方形・長方形とならない場合は、長さと幅の積が面積と一致しないものがある。
- ピット・土坑・井戸・溝の平面形・断面形・堆積状況は第9・10図の分類に一致する。

## 遺物観察表

- 石器・木器・金属器の長・幅・厚は現存値を記入した。
- 金属器(釘)観察表の幅1は頂部の幅、幅2は断面図の幅を記入した。

掘立柱建物観察表

建物名	側別岡	分割図	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	桁行	梁間	平均桁行寸法(m)	平均梁間寸法(m)	主軸方位	面積(sf)	出土土器・陶磁器	備考
SB1	岡版16	図版6	6AB 7AB	7.4	4.1	4	1	-1.9	4.1	N-23°-E	30.3	珠洲甕×壺T	SD317・376、SK365との切り合い不明
SB2	岡版16	図版8	8BC 9BC	14.5	3.8	6	1	2.4	3.8	N-13°-E	55.1		
SB3	岡版17	図版8	8・9C	13.9	-	4	1?	3.5	-	N-5°-E	-	珠洲甕×壺T	P1004は棟持柱か
SB4	岡版17	図版8	9C	8.6	2.4+	3	1?	2.9	-	N-6°-E	20.6+	縄文深鉢	SD286・317・376との切り合ひ不明、P283は棟持柱か
SB5	岡版16	図版8	8・9C	5.3	3.4	3	2	1.8	1.7	N-71°-W	16.2		
SB6	岡版17	図版8	9B	6.2	3.5	3	1	-2.1	3.5	N-69°-E	5.9		
SB7	岡版18	図版8	9・10B	7.2	3.8	3	1?	2.4	3.8	N-69°-E	27.4		
SB8	岡版17	岡版10	9BC 10BC	2.2+	3.9	1+	1	-	3.9	N-70°-E	8.6+	珠洲片口鉢・甕×壺T	P424は棟持柱か
SB9	岡版18	岡版10	9BC 10BC	8.6+	4.9	3+	1	2.2	4.9	N-75°-W	42.1	縄文深鉢、土師小片	SB11より新
SB10	岡版19	岡版10	9BC 10BC	8	4.3	6	2	1.3	2.2	N-75°-W	34.0		SB11より古い。中柱あり
SB11	岡版19	岡版10	9BC 10BC 11BC	13.2	4.4	6	1	-2.2	4.4	N-15°-E	58.1	漏戸瓶子(11)、珠洲甕×壺T	SB10より新、P154・284は棟持柱と考えた
SB12	岡版20	岡版10	10・11B	9.6	2.4	3	1	3.2	2.4	N-10°-E	22.6		SB14との切り合ひ不明
SB13	岡版18	岡版10	10・11B	6.7	3.6	4	1	-1.7	3.4	N-14°-E	22.8		SK119との切り合ひ不明
SB14	岡版20・21	岡版10	10BC 11BC	9.3	4.4	5	1?	1.9	3.4	N-82°-W	40.9	珠洲片口鉢(22)	SB1・SK1682との切り合ひ不明、P409は棟持柱と考えた
SB15	岡版21	岡版10	11B	6.3	2.6	3	1	-2.1	2.6	N-70°-W	16.4	瓦器組炉	
SB16	岡版21	岡版10	10AB 11AB	8.6	-	4	-	2.2	-	N-10°-E	-		SB17より古
SB17	岡版22	岡版10	10AB 11AB	6.9	2.3	3	1	2.3	2.3	N-19°-E	15.9		SB16より新
SB18	岡版22	岡版10	11B	4.8	3.3	3	1	1.6	3.3	N-70°-W			
SB19	岡版22	岡版10	11BC	2.4+	2.2	1+	1	2.4	2.2	N-78°-W	5.3+		P1029は棟持柱と考えた
SB20	岡版22	岡版10	10AB	6.9	2.3	3	1	2.3	2.3	N-72°-W	15.2		
SB21	岡版21	岡版12	12B	5.9	3	3	1	2.0	3.0	N-13°-E	16.5		P84は棟持柱と考えた
SB22	岡版22	岡版12	12B	5.6	2.7	3	1	1.9	2.5	N-15°-E	14.0		
SB23	岡版22	岡版12	13A	4.8	-	2	-	2.4	-	N-9°-E	-		
SB24	岡版22	岡版12	13・14B	6	2.6	2	1?	3.0	2.6	N-29°-W	15.1		
SB25	岡版22	岡版14	14AB	3.9	1.9	2	1	2.0	1.9	N-10°-E	7.4		
SB26	岡版24	岡版14	14B	6.1	2.6	2	1	3.1	1.6	N-40°-W	14.8		
SB27	岡版22	岡版14	14BC	4.9	1.6	3	1	1.6	1.5	N-38°-W	7.4		
SB28	岡版24	岡版14	14BC	6.3	3.1	3	1	2.1	3.1	N-65°-E	19.5		
SB29	岡版24	岡版8	8・9B	5.9	2.5	3	1	2.0	2.5	N-82°-W	14.8		SD317との切り合ひ不明
SB30	岡版24	岡版12	12AB	5	2.6+	2	-	2.5	-	N-13°-E	13.0+		

## 観察表

掘立柱を構成するピット観察表(1)

建物	ピット	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	覆土堆積	断面図・写真	出土土器・陶磁器	備考
SB1	P448	6B6	45	40	44	44.16				
SB1	P447	6B11	35	30	64	43.95				
SB1	P446	6A20	35	30	51	44.05				
SB1	P442	6A25	35	30	75	43.93				
SB1	P441	6A25	35	30	54	44.13				
SB1	P437	6B12	30	25	40	44.03				SK393との切り合い不明
SB1	P436	6B17	40	35	—	—				
SB1	P435	6B22	35	35	45	44.29				
SB1	P433	7B1	40	30	62	44.13				
SB1	P431	7B1	30	30	51	44.19				
SB2	P352	8B4	45	35	18	44.66		断面図×竪T		
SB2	P360	8B8・9	60	50	67	44.18				
SB2	P1001	8B13	45	30	15	44.45				SD376との切り合い不明
SB2	P1002	8B23	55	45	—	—				
SB2	P312	8B2・3	65	50	66	44.20	A類	断面図16E・48		
SB2	P349	8C1	40+	40	54	44.45				SK365との切り合い不明
SB2	P342	8B10・8C6	55	45	41	44.57				
SB2	P337	8B15	60	50	—	44.47				
SB2	P331	8B20	50	45+	27	44.60				SD376との切り合い不明
SB2	P318	8B25	60	45+	42	44.30				SD317との切り合い不明
SB2	P1003	9B9・10	55	45+	45	44.46				
SB2	P280	9B14	65	50	74	44.17				
SB3	P346	8C6	55	45+	36	44.62				P345との切り合い不明
SB3	P332	8C11	50	50	26	44.64				
SB3	P326	8C21	45	40	60	44.26				
SB3	P288	9B10	35	30	61	44.36				
SB3	P287	9B15・20	50	35	62	44.36				断面図×竪T
SB3	P1004	9C16	50	45	33	44.72				
SB4	P354	8C21	95	80	34	44.53	C類	断面図17C	縄文深鉢	SD376との切り合い不明
SB4	P1005	9C1・6	95	65	69	44.34	C類	断面図17D		SD317との切り合い不明
SB4	P285	9C11	80	55	75	44.27	A類	断面図17E		SD286との切り合い不明
SB4	P276	9B20	70	55	28	44.78	A類	断面図17F・49		SD286との切り合い不明
SB4	P283	9C16・21	80+	40+	51	44.58		断面図49		
SB5	P1006	9B7	30	25	36	44.30				
SB5	P387	9B8	35	35	61	44.15				
SB5	P325	9B8	35	30	63	44.25				
SB5	P1007	9B9	35	30	37	44.57				
SB5	P316	8B22	40	35	48	44.25				
SB5	P309	8B23	35	30	—	—				
SB5	P302	9B4・5	55	35	38	44.52				SK304との切り合い不明
SB5	P1008	9B5	55	50	63	44.27				
SB5	P474	9B4・5	55	45	52	44.55				
SB5	P1009	9B9	45	40	42	44.50				
SB6	P298	9B4・9	50	35	42	44.52				
SB6	P388	9B8	35	35	36	44.47				
SB6	P1010	9B7	25	20	24	44.37				
SB6	P1011	9B6・11	40	35	26	44.46				
SB6	P290	9B14	30	25	29	44.32				
SB6	P1012	9B16・17	35	30	37	44.53				
SB7	P1013	9B14	50	45	51	44.42				
SB7	P1014	9B13	50	45	32	44.58				
SB7	P1015	9B12・17	65	60	43	44.18				
SB7	P422	9B16	55	45	57	44.20				
SB7	P475	9B20・25	55	45	48	44.52				
SB7	P264	9B23・24	75	45	29	44.68				
SB7	P255	9B22	45	45+	43	44.34				P256との切り合い不明
SB7	P1016	10B1	25	20	13	44.38				SD252検削後に検出
SB7	P424	9B21	45	45	37	44.41				
SB8	P224	10B9・10	85	75	57	44.37	A類	断面図17D・49	断面図口鉢・甕×竪T	
SB8	P221	10C6	55	45	82	44.14	C類	断面図17E・49		P223より新
SB8	P1017	9B25	90	45	43	44.62				
SB8	P281	9C21	60	45	36	44.73				
SB9	P415	10B8・13	55	55	57	44.33				
SB9	P232	10B14・15	50	45	57	44.35	C類	断面図18D・48	縄文深鉢、土師小片	
SB9	P220	10C11	100	65	50	44.47				
SB9	P169	10C11	45+	45	58	44.39				P209 (SB11) より新
SB9	P261	9B22・23	65	55	36	44.54				
SB9	P265	9B24	55	50	64	44.36				
SB9	P1019	9B25	45	35	47	44.33				SD286との切り合い不明
SB9	P1020	10C1	40	20+	—	—				SD252との切り合い不明

掘立柱を構成するピット観察表(2)

建物	ピット	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	覆土堆積	断面図・写真	出土土器・陶磁器	備考
SB10	P203	10B7・12	30	25	26	44.46				
SB10	P198	10B13	30	30	48	44.32				
SB10	P237	10B14	50	35	77	44.14				
SB10	P163	10B14	50	45	78	44.70	A類	図版19G・49		P164 (SB11) より古
SB10	P218	10B15	40	25	20	44.70				
SB10	P219	10B15	45	35	74	44.26				
SB10	P210	10C11	60	50	63	44.38	C類	図版19H		
SB10	P250	10B2	30	25	25	44.46				
SB10	P249	10B8	30	25	42	44.35				
SB10	P227	10B9	50	45	58	44.32				SK226との切り合い不明
SB10	P256	9B22・23	35+	35	33	44.38				
SB10	P258	9B23/10B3	40	30+	37	44.50				
SB10	P1021	10B4	35	35	47	44.22				
SB10	P253A	10B5	55	40	57	44.30				P253A (SB11) より新
SB10	P229	10B5	35	35	41	44.56				
SB10	P228	10C1	40	25	32	44.70				
SB11	P272	9B20	70	65	62	44.38	C類	図版19E	瀬戸陶子 (11)	
SB11	P267	9B25	80	70	85	44.13				SD286との切り合い不明
SB11	P253A	10B4・5	75	55	60	44.33	A類	図版19F・49		P253A (SB10) より新
SB11	P225	10B9・10	100	70	97	43.96	C類	図版19G・49		SK226との切り合い不明
SB11	P164	10B14	90	70	105	43.92	A類	図版19H・49		P163 (SB10) より新
SB11	P162	10B19	105	75	101	43.95	C類	図版19I		
SB11	P168	10B24	60	50	67	44.26	C類	図版11F		SK168より新
SB11	P209	10C11	45	35+	22	44.76	C類	図版19I		
SB11	P208	10C12	60+	55	46	44.48	C類	図版19J	珠洲窯×奈T	
SB11	P152	11C1	60	60	39	44.74				
SB11	P284	9C16	55	50	32	44.74				
SB11	P154	11B5	50	45	52	44.31				
SB12	P194	10B6・11	50	50	51	44.20	A類	図版20E・50		
SB12	P1023	10B16	50	50	25	44.51				
SB12	P1024	11B1	55	45	56	44.21				P409 (SB14) との切り合い不明
SB12	P187	10B12	50	40	71	44.00				
SB12	P402	11A10/11B6	45	40	73	44.00	B類	図版20F・49		
SB12	P172	10B17・22	55	45	26	44.59				
SB12	P1025	11B2	55	55	33	44.51				
SB12	P107	11B7・12	50	40	81	43.88	C類	図版20G・50		
SB13	P1026	10B12	30	20	35	44.39				
SB13	P192	10B17	30	30	37	44.44				
SB13	P244	10B17	50	30+	38	44.45				
SB13	P214	10B22	30	20	30	44.47				
SB13	P138B	11B1	30	25	49	44.32				
SB13	P204	10B14・19	45	30	32	44.60				P205との切り合い不明
SB13	P179	10B19	30+	30	46	44.45				
SB13	P137	10B23	40+	35	58	44.34				P241との切り合い不明
SB13	P169	10B23	40	35	86	44.00				
SB13	P117	11B3	40	35	30	44.31				SK119との切り合い不明
SB13	P115	11B3	35	30	27	44.30				SK119との切り合い不明
SB14	P128	11B6	75	60	43	44.38	C類	図版20F・50		
SB14	P108	11B7	75	60	58	44.23	A類	図版20G・50		
SB14	P112	11B8	90	80	70	44.12	C類	図版20H		
SB14	P126	11B8・9	75	65	51	44.34	C類	図版20I・50	珠洲片口鉢 (22)	
SB14	P147	11B10・15	55	50	23	44.43	A類	図版20J・50		
SB14	P145	11B10/11C6	65	60	29	44.66				
SB14	P414	10B21	105	60	46	44.31	C類	図版20K・50		
SB14	P171	10B22	70	65	64	44.19	C類	図版21L・50		
SB14	P170	10B23	85	80	65	44.22	A類	図版21M		
SB14	P166	10B24	65	60	70	44.24	A類	図版21N・50		SK168との切り合い不明
SB14	P155	10B25	65	55	30	44.34				
SB14	P153	10C21	65	55	46	44.48	C類	図版21O・50		
SB14	P409	11B1	80	70	20	44.59				
SB15	P429	11A10	70	45	79	43.92				
SB15	P106A	11B6・11	65	40+	51	44.26		図版51		
SB15	P133	11B12	70	35	63	44.17				
SB15	P132	11B13	50	30	58	44.24				
SB15	P125	11B14	30	30	17	44.71				
SB15	P130	11B1	50	45	54	44.28	B類	図版21E・51	H器風炉	
SB15	P111	11B2・3	50	45	—	—	C類	図版21F・51		
SB15	P127	11B9	45	45	52	44.36	C類	図版21G・51		

観察表

掘立柱を構成するピット観察表(3)

建物	ピット	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	覆土堆積	断面図・写真	出土土器・陶磁器	備考
SB16	P419	10B16	50	50	35	44.44	C類	図版21B・51		
SB16	P411	10B21	80	65	65	44.12	C類	図版21C・51		
SB16	P405	11A5/11B1	85	70	80	43.97	C類	図版21D・51		
SB16	P401	11A15/11B11	75	55	33	44.35				
SB16	P398A	11A20	55	40	68	43.99				P398A (SB17) より古
SB17	P1027	10A25	65	40+	68	44.13				
SB17	P140	10B21/11B1	60	50	64	44.16				
SB17	P129	11B1・6	45	40	61	44.20	A類	図版22C・51		
SB17	P135	11B6・11	50	40	22	44.54				
SB17	P398A	11A20/11B16	70	55	19	44.49	C類	図版22D		P398B (SB16) より新
SB18	P103	11B16	30	25	58	44.15				
SB18	P102	11B17	25	25	62	44.16				
SB18	P99	11B22	35	25	85	43.96				
SB18	P98	11B23	25	25	77	44.09				
SB18	P106B	11B11	40+	35	112	43.68				
SB18	P134	11B12	60	40+	87	43.92	A類	図版22E		
SB18	P1028	11B13	40	30	74	44.09				
SB18	P123	11B14	30+	20	70	44.37				
SB19	P141	11B25	50	50	37	44.56				
SB19	P395	11C21/12C1	45	35						
SB19	P144	11B20	45	45	35	44.52				
SB19	P1029	11C25	30	30	75	44.05				
SB20	P184	10B14	35	30	49	44.39	A類	図版22E・51		
SB20	P176	10B13	45	30	40	44.46				
SB20	P246B	10B17	30	20	15	44.64				
SB20	P416	10A20/10B16	30	30	32	44.40				
SB20	P241	10B23	35	30+	33	44.60				P137 (SB13) との切り合い不規
SB20	P1030	10B22	30	30	72	44.09				P171 (SB14) より新
SB20	P472	10B21/11B1	35	35	74	44.03				
SB21	P92	12B7	35	30	51	44.30				
SB21	P81	12B12	40	30	56	44.24				
SB21	P74	12B16・17	35	30+	36	44.43				
SB21	P1031	12B21	40	35	72	44.03				
SB21	P84	12B7・8	45	40	28	44.57				
SB21	P86	12B8・13	30	25	53	44.35	A類	図版22E		
SB21	P78	12B13	25	25	54	44.33	C類	図版22F		P79より古
SB21	P43	12B18	35	30	47	44.35				
SB21	P89	12B22・23	45	35+	70	44.13	C類	図版22G		
SB22	P80	12B7・12	40	35	61	44.19	A類	図版23 E		
SB22	P75	12B16	30	30	41	44.36				
SB22	P1032	12B16・21	40	30	58	44.16				
SB22	P1033	12B21	45	35+	46	44.29				
SB22	P83	12B13	60	55	58	44.28	C類	図版23F		
SB22	P88	12B22/13B2	35+	30	58	44.25	C類	図版23G		
SB23	P414	13A10/13B6	40	35	42	44.25				
SB23	P52	13A15	45	40	25	44.41				
SB23	P51	13A20	65	50	54	44.14				
SB24	P55	13B18	40	35	12	44.69				
SB24	P43	14B4	50	40	20	44.66				
SB24	P1	14B9	35+	30	63	44.26	A類	図版23E・51		
SB24	P56	13B19	30	30	19	44.65				
SB24	P57	13B25	45	30	31	44.60				
SB24	P14	14B5	40	35	33	44.56				瓦器風炉 (12)
SB25	P39	14A5/14B1	45	40	47	44.19				
SB25	P36	14B10	50	35	40	44.33	C類	図版23F		
SB25	P28	14B1	40	20	44	44.29	A×C類	図版23G		
SB25	P26	14B6	50	30	21	44.56				
SB25	P30	14B11	25	25	20	44.58				
SB26	P25	14B6・11	35	30	29	44.53				
SB26	P34	14B13・18	35	20	31	44.55				
SB26	P24	14B8	35	35	62	44.23	A×C類	図版24E		
SB26	P18	14B9・14	40	35	41	44.50				
SB26	P12	14B15	30	30	26	44.72				
SB27	P44	14B9	25	20	43	44.43				
SB27	P7	14B15	30	25	28	44.68				
SB27	P5	14C16	30	25	50	44.47	C類	図版23E		
SB27	P16	14B5	40	25	21	44.65				
SB27	P1034	14B10	30	25	21	44.69				
SB27	P13	14C11	25	25	27	44.65				
SB27	P6	14C11	30	25	34	44.61				

掘立柱を構成するピット観察表(4)

建物	ピット	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	覆土堆積	断面図・写真	出土土器・陶磁器	備考
SB28	P3	14C6・7	45	40	55	44.43				
SB28	P11	14C6	30	25	45	44.48	A×C類	図版24C		
SB28	P8	14B15	20	20	18	44.77				
SB28	P17	14B14	35	35	23	44.71	C類	図版24D		
SB28	P4	14C16	30	25	42	44.58	C類	図版24E		
SB29	P473	9B2	85	65	43	44.40				
SB29	P299	9B3・4	85	60	60	44.27	C類	図版24E		
SB29	P1035	9B5	65	65	64	44.28				SD317との切り合い不明
SB29	P308	8B22	60	55	72	44.24				
SB29	P316	8B23	55	55	60	44.41				
SB29	P1036	8B24	40	35	63	44.42				SD317との切り合い不明
SB29	P328	8B25	40	35	29	44.77				
SB30	P114	12B1	45	35	73	43.92	C類	図版24B		
SB30	P386	12B6	30	15+	58	44.24				
SB30	P82	12B11	35	30	47	44.31	C類	図版24C		

土坑・井戸・溝等観察表(1)

造構 略号番号	造構 グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	堆積状況	平面図	断面図	写真	出土土器・陶磁器	備考
SK 2	14B10	82	78	11	円形	弧状	レンズ状	図版14	図版15E	図版37		
SK 20	14B15	74	68	10	円形	弧状	レンズ状	図版14	図版15F	図版37		
SK 22	14B8	78	66	21	円形	弧状	レンズ状	図版14	図版15D	図版37		
SK 31	14B11	72	68	37	円形	輪状	レンズ状	図版14	図版15C	—		
SK 32	14B11	75	55+	25	円形	—	—	図版14	—	—		
SK 37	14B6	102	64	20	不整形	箱状	レンズ状	図版14	図版15B	図版37		
SK 38	14A10	114	98	31	不整形	弧状	レンズ状	図版14	図版15A	図版38		
SK 47	14C16	100	98	69	円形	弧状	单層?	図版14	図版15G	図版38		
SE 60	13C12	104	102	265	円形	U字状	—	図版12	図版13K	図版34	土筋小片	
SX 61	13C11	156+	83	17	—	V字状	レンズ状	図版12	図版13M	—		
SX 62	13B5	296	62	13	—	弧状	レンズ状	図版12	図版13L			
SK 63	13B8	116	112	39	円形	弧状	—	図版12	—	—		
SK 69	12B25	72	54	49	梢円形	半円状	レンズ状	図版12	図版13HII	図版38		小躑躅多数出土
SK 70	12B18	118	95	26	梢円形	弧状	斜位	図版12	図版13J	図版38		
SK 71	12B24	148	118	27	円形	輪状	斜位	図版12	図版13E	図版39		
SK 72	12B19	148	120	26	方形	弧状	レンズ状	図版12	図版13D	図版39		
SK 76	12B20	122	88	79	梢円形	半円状	レンズ状	図版12	図版13G	図版39	珠渦片口鉢(16)	
SK 87	12B21	130	102	45	梢円形	箱型	レンズ状	図版12	図版13F	図版39		
SK 93	12B18	148+	104	45	梢円形	台形状	レンズ状	図版12	図版13C	図版40	P437より古	
SK 94	12B19	202	120	41	梢円形	台形状	レンズ状	図版12	図版13C	図版40	P437より新	
SK 95	12B7	132	128	38	円形	半円状	单層	図版12	図版13AB	図版40	大型礫充填	
SK 104	11B12	164	156	36	円形	台形状	レンズ状	図版10	図版11E	図版40	鏡文深鉢(27), 主 前無台脚・長茎×鍋	
SX 109	13C2	448+	28+	21	—	弧状	レンズ状	図版12	図版13M	—		
SK 119	11B3	194	172	33	不整形	台形状	レンズ状	図版10	図版11CD	図版41		
SK 136	10B18	156	154	29	円形	箱状	レンズ状	図版10	図版11B	図版40	渾沌平鏡	
SK 168	11B4	216	80+	25	梢円形	—	レンズ状	図版10	図版11F	—	P167(SB11)より古	
SK 213	10C21	160	95	26	梢円形	—	—	図版10	—	—		
SK 226	10B9	131	94	10	梢円形	弧状	单層	図版10	—	—	P225(SB11)・227 (SB10)との切り合い不明	
SD 252	10ABC	—	102	25	—	弧状	レンズ状	図版8	図版9PQ	図版47	青磁鉢(5), 濁戸 天目樹(7-8)	東-西方向。SD286との切り 合い不明
SD 286	9BC	—	42	20	—	弧状	—	図版8	—	図版47		SD482に直行、SD252との切 り合い不明
SK 292	9B9	108	96	19	円形	台形状	レンズ状	図版8	図版9M	—	鏡文深鉢(26)	
SK 293	9B10	132	106	32	長方形	台形状	レンズ状	図版8	図版9L	図版42		
SK 304	9B3	110	100	20	不整形	—	—	図版8	—	—		
SK 310	8B22	102	98	34	円形	階段状	レンズ状	図版8	図版9D	図版42	珠渦甕×竪T	
SK 311	9B1	126	118	28	円形	弧状	レンズ状	図版8	図版9E	図版42	白磁碗(6), 鏡文 深鉢	P1009との切り合い不明
SK 315	8B22	95	60	31	梢円	—	—	図版8	—	—	鏡文深鉢	
SD 317	8AB+ 9BC	—	108	38	—	台形状	レンズ状	図版8	図版9AO	図版47	瀬戸粗子(11), 瀬 洲奈R(21), 銀× 竪T	SD376より新; SK318 - SE320より古
SK 318	8B18	110+	80+	22	円形	台形状	プロック状	図版8	図版9A	—		SD317より新
SE 319	9B18	152	122	252	円形	瘤斗状	单層	図版8	図版9N	図版34	珠渦甕×竪T	
SE 320	8B11	172	138	312	梢円形	箱状	—	図版8	—	図版35	青磁碗泡足b, 珠渦 甕×竪T	SD317より古

## 観察表

土坑・井戸・溝等観察表（2）

遺構 番号	造構 番号	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	堆積状況	平面図	断面図	写真	出土土器・陶磁器	備考
SD 322	BB17	—	58	12	—	弧状	レンズ状	岡版8	岡版9C	—			
SK 323	BB17	172	118	19	長方形	台形状	レンズ状	岡版8	岡版9B	岡版42			
SK 324	BB16	120+	126	23	長方形	箱状	単層	岡版8	岡版9B	岡版42	珠洲片口鉢		
SK 333	BC16	130+	42+	31	円形?	台形状	レンズ状	岡版8	第8図 (13p)	—			
SK 334	BC11	102	70	55	梢円形	箱状	—	岡版8	—	—			
SE 335	BC15	112	112	284	円形	箱状	レンズ状	岡版8	岡版9K	岡版35	青磁小碗(5)、上部 長颈×箱、鏡文深鉢		
SK 343	BB10	130	115	56	円形	台形状	レンズ状	岡版6	岡版7R	岡版43		SD344より古	
SD 344	7・8B	—	65	20	—	半円状	単層	岡版8	岡版7R	岡版48		SK343より新	
SK 347	BB5	110	65	26	不整形	箱状	レンズ状	岡版8	岡版9J	岡版43		P348との切り合い不明	
SD 355	7・8B	—	110	20	—	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7J	岡版47		SD482と平行、SX47 との切り合い不明	
SD 356	8B	—	145	21	—	弧状	—	岡版6	—	—		SD482と平行、 SD358に直行	
SK 357	BB1	130	110	24	円形	箱状	レンズ状	岡版6	岡版7L	岡版43			
SD 358	7・8B	—	60	10	—	弧状	単層?	岡版8	—	岡版48	珠洲片口鉢(15)	SD482に直行、SD317・376 との切り合い不明	
SK 359	BB3	115	111	12	円形	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7K	—			
SE 362	7B24	120	105	246	梢円形	箱状	レンズ状	岡版6	岡版7Q	岡版35			
SK 363	7C21	85	60+	101	梢円形	U字状	斜位	岡版8	岡版9H	—		柱穴か	
SE 364	7C16	145	115	254	梢円形	U字状	単層?	岡版6	岡版7M	岡版35			
SK 365	SC1	235	120+	63	—	台形状	レンズ状	岡版8	岡版9I	岡版43	珠洲片口鉢(14)、 甕(23)	井戸か	
SE 366	7C11	120	60+	101	—	U字状	レンズ状	岡版6	岡版7M	岡版36			
SD 367	7BC	—	30	8	—	弧状	単層	岡版6	岡版7P	岡版48	鏡文深鉢	SD482と平行、SE364との切 り合い不明	
SK 370	7B15	125	85	12	不整形	弧状	斜位	岡版6	岡版7O	—			
SK 372	7B9	130	90	30	梢円形	半円状	レンズ状	岡版6	岡版7N	岡版44			
SK 373	7B8	105	65	16	梢円形	—	—	岡版6	—	—			
SE 374	7B8	95	90	172	円形	箱状	レンズ状	岡版6	岡版7F	岡版36	珠洲片口鉢(15)		
SK 375	7B17	135	130	24	円形	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7H	—			
SD 376	8BC	—	110	10	—	台形状	レンズ状	岡版8	岡版9O	岡版47	珠洲甕×空T、上部 羽長釜か鍋、伊万里 焼	SD317より古	
SK 379	7B21	115	105	58	円形	箱状	水平	岡版6	岡版7I	岡版44	珠洲片口鉢(15)		
SK 380	7B6	105	95	18	円形	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7G	岡版44		底面に小ビット	
SK 389	7B6	115	100	25	円形	—	—	岡版6	—	—	珠洲甕×空T		
SK 390	7A3	120	105	32	梢円形	箱状	レンズ状	岡版6	岡版7E	岡版44			
SK 391	7B1	120	105	56	梢円形	箱状	水平レンズ	岡版6	岡版7D	岡版45			
SK 392	6B22	145	120	18	梢円形	台形状	斜位	岡版6	岡版7C	岡版45			
SK 393	6B12	155	95	32	梢円形	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7H	岡版45		P437との切り合い不明	
SK 394	6B13	145	105	24	梢円形	弧状	レンズ状	岡版6	岡版7A	岡版45			
SE 417	10A10	135	85+	148	円形	漏斗状	レンズ状	岡版10	岡版11A	岡版36			
SK 418	9B11	145	125	22	円形	弧状	レンズ状	岡版8	岡版9G	岡版46	珠洲甕(26)	P425・SK476との切り合い不明	
SK 426	9B6	120	110+	38	円形	箱状	斜位	岡版8	岡版9F	岡版46	青磁鉢(5)	P430より古	
SK 427	7A5	95	90	48	円形	—	—	岡版6	—	—	鏡文深鉢		
SK 428	7A5	110	80	22	梢円形	弧状	レンズ状	岡版6	—	—	鏡文深鉢		
SK 451	6A15	120	120	34	円形	台形状	単層	岡版6	—	—			
SK 452	6A15	95	90	25	円形	台形状	単層	岡版6	—	岡版48			
SK 453	3B23	130	125	38	円形	弧状	レンズ状	岡版2	岡版3A	岡版46			
SK 454	4B8	195	150	42	梢円形	弧状	斜位	岡版2	岡版3B			大窓端反皿	
SE 468	4B1	90	85		円形	箱状	レンズ状	岡版2	岡版3D	岡版36	珠洲甕×空T、鏡文 深鉢		
SE 469	3B23	115	70+	274	梢円形	箱状	水平レンズ	岡版2	岡版3C	岡版36	珠洲甕(25)		
SK 470	8B6	110	95+	35	円形	半円状	—	岡版8	—	—		SD317との切り合い不明	
SX 471	7A25 8A5	425	225	23	長方形	箱状	—	岡版6	—	—			
SK 476	9B11	90	55	38	梢円形	箱状	—	岡版8	—	岡版46	珠洲片口鉢		
SK 478	15B8	195+	140+	24	—	箱状	レンズ状	岡版14	岡版15H	岡版34			
SD 479	15B9	—	45	12	—	弧状	単層	岡版14	岡版15I	岡版34	越前すり鉢		
SD 481	6A	—		10	—	弧状	単層	岡版6	—	岡版48	瀬戸直絆大皿(10)、 須恵甕	SD482に直行、SK452との切 り合い不明	
SD 482	5B	—	110	35	—	弧状	単層	岡版4	岡版5A	岡版28		北堀との切り合い不明	
SD 483	2B	—	132	34	—	台形状	レンズ状	岡版2	—	岡版48		北西-南東方向	
SK 484	14A9	215+	112+	48	円形?	—	岡版14	—	—				
北堀	4・5B	—	650	132	—	台形状	レンズ状	岡版4	岡版5A	岡版28・29		西北西-東南東方向、館北堀 の掘	
土堀	5B	—			—	台形状	水平?	岡版4	岡版5A	岡版29	珠洲甕×空T	西北西-東南東方向	

土器・陶磁器観察表

番号	種類	器種	グリッド	造構	層位	口径 (mm)	底径 (mm)	色調	調整・分類など	備考
1	土師質	皿	SA25		Ⅲ層			10YR5/4に赤い黄橙	外上・内ヨコナデ。外下不調整	
2	青磁	小碗	SB15	SE335			38	10Y6/2オリーブ灰	龍泉窯上HHD類	被熱
3	青磁	小碗	10B5		Ⅲ		34	7.5GY7/1明緑灰	龍泉窯Ⅲ類	被熱
4	青磁	碗	13B10		IV		50	10Y6/1灰	龍泉窯上HHD×E類	
5	青磁	鉢	6B19 SA5 9B6 10B1・10C1	SK426 SD252	I・覆土 Ⅲ	230		5Y6/3オリーブ灰	外蓮弁文、内副花文?	
6	白磁	碗	9B2	SK311	上層	158		10Y7/1灰白	森田E類	
7	瀬戸・美濃	天目碗	SB3	SD252		130		2.5GY3/1暗オリーブ灰	内外黒褐色釉	
8	瀬戸・美濃	天目碗	7B21		IV		32	2.5GY3/1暗オリーブ灰	外口クロケズリ、内黒褐色釉	
9	瀬戸・美濃	直線大皿		SD481	床付近	220		5Y6/2灰オリーブ	内外口クロナデ。外上・内灰釉	
10	瀬戸・美濃	直線大皿	10B16			300		5Y6/2灰オリーブ	内外口クロナデ・灰釉	
11	瀬戸・美濃	扇子	SA5-7・9B18 8B6 9B10 9B20 10B12	SD317 P295 P272 P177	IV		96	10Y6/2オリーブ灰	内外口クロナデ・外灰釉・沈線、底外不調整	
12	瓦器	風炉	14C1	P14		190		10YR7/4に赤い黄橙	外凸筋	
13	瓦器	風炉	10B16	P193				2.5Y7/3浅黄	外凸筋・雷文、透かしあり	
14	珠洲	片口鉢	8C1	SK365				10Y6/1灰	内外口クロナデ・内鋸目、底外静止系切り	
15	珠洲	片口鉢	7B21-8C1 8B12	SK379 SD358 SE374	覆土 上層	296		10YR6/3に赤い黄橙	内外口クロナデ・内鋸目	
16	珠洲	片口鉢	12B20	SK76	Ⅲ層	360		2.5GY5/1オリーブ灰	内外口クロナデ・内鋸目	内摩耗
17	珠洲	片口鉢	11C11	P126				10Y6/1灰	内外口クロナデ・内鋸目	内摩耗
18	珠洲	片口鉢	9B24		IV層			10YR7/3に赤い黄橙	内外口クロナデ・内鋸目、底外静止系切り	内摩耗
19	珠洲	片口鉢	10B10		IV		140	2.5Y6/2灰灰	内外口クロナデ・内鋸目、底外静止系切り	内・底外摩耗
20	珠洲	壺T種	8B8	P360	床付近	200		N5/灰	口口クロナデ・外平行タタキ、内瓶文当て具	
21	珠洲	壺R種	7A25 9B5	SD317	IV	100		N5/灰	内外口クロナデ・底外静止系切り	外面剥落
22	越前	掃除		SD479	床付近			10YR6/3に赤い黄橙	内外ナデ・内沈線・鋸目	内摩耗
23	珠洲	甕	8C1	SK365				7.5Y6/1灰	口口クロナデ・外平行タタキ、内瓶文当て具	
24	珠洲	甕	14B2		Ⅲ			10Y5/1灰	口口クロナデ・外平行タタキ、内瓶文当て具	
25	珠洲	甕	3B23	SE469	床付近		198	10Y5/1灰	外平行タタキ、内瓶文当て具、底外不調整、砂付着	内面摩耗
26	珠洲	甕	9B11	SK418				7.5Y5/2灰オリーブ	外平行タタキ、底外不調整、砂付着	内摩耗
27	縄文土器	深鉢	9B9	SK292		290		10YR7/4に赤い黄橙	LR織文	
28	縄文土器	深鉢	11B12 11B17	SK104	I IV		120	7.5YR6/6格	内外面無文	

石器観察表

番号	器種	グリッド	造構	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	遺存状況	備考
29	砥石	RA5	SX471		338	406	267	57	凝灰岩	下欠	
30	砥石	SB12	SE320		902	291	200	49	凝灰岩	上下欠	
31	砥石	8C1	SK365		608	513	161	43	砂岩	上下左欠	右側縁が延状
32	石臼	13B10	調査区東川畠地	表採	2,065	1,276	1,091	2,873	花崗岩	左欠	
33	砥石	8B11	SD317		2,997	1,678	1,271	8,100	砂岩	上欠	
34	磨石類	8B18	SD317		956	856	460	500	安山岩	略完	
35	磨石類	13B12		Ⅲ	898	652	376	301	安山岩	略完	
36	三脚石器	11B22		Ⅲ	668	772	253	25	硬質頁岩	略完	
37	打製石斧	4・5B	SD482	床	1,188	552	215	131	無鉱品質安山岩	略完	薄手
38	打製石斧	12A20		IV	990	528	386	217	無鉱品質安山岩	下欠	厚手

## 観察表

### 木器観察表

番号	器種	グリッド	造構	層位	径 (mm)	高 (mm)	底板厚 (mm)	木取り	樹種 (目視)	備考
39	曲物	3B23など	SE469		216	96	8	柾目	スギ	木釘3か所以上

番号	器種	グリッド	造構	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	木取り	樹種 (目視)	遺存状況
40	指物削板	13C12	SE60	底部	158	59	10	追柱目	スギ	木釘跡、一部炭化
41	板材	13C12	SE60	底部	176	54	6	柾目	スギ	
42	板材	8B11・12	SE320	底部	137	47	3	柾目	スギ	
43	板材	8B11・12	SE320		88	31	3	柾目	スギ	
44	板材	8B11・12	SE320	底部	328	56	3	柾目	スギ	底板もしくは折敷か
45	部材	8B11・12	SE320		96	40	3.8	心材丸材	広葉樹?	
46	棒材	8B11・12	SE320		177	15	13	心去材	スギ	柄約の柄か
47	棒材	8B11・12	SE320		190	16	15	心去材	スギ	柄約の柄か
48	曲物削板	8B11・12	SE320		225	11	4	柾目	スギ	ケビキ痕あり

### 錢貨観察表

番号	材質	銘名	グリッド	造構	層位	径 (mm)	重量 (g)	国名	初鋤年 (西暦)
49	銅	皇宋通寶	10B1			2.3	1.9	北宋	1039年
50	銅	宣和通寶	9B1・2	SK311	5層	2.4	2.4	北宋	1119年
51	銅	聖宋元寶	9B19	PS78		2.3	2.6	北宋	1101年

### 金属器(釘)観察表

番号	材質	器種	グリッド	造構	層位	長 (mm)	幅1 (mm)	幅2 (mm)	重量 (g)
52	鉄	釘	10B9	P255 (SB7)		60	9	6	3.2
53	鉄	釘	10B5	P230		59	12	4	3.7
54	鉄	釘	10B5	P232 (SB9)		67	11	5	4.9
55	鉄	釘	10B21	P472 (SB20)		62	12	9	10.2
56	鉄	釘	14A10		III層	63	12	6	9.6
57	鉄	釘	10B12	P177	I層	52+22	14	6	7.5

# 図 版

凡 例 (断面図)

S : 碪

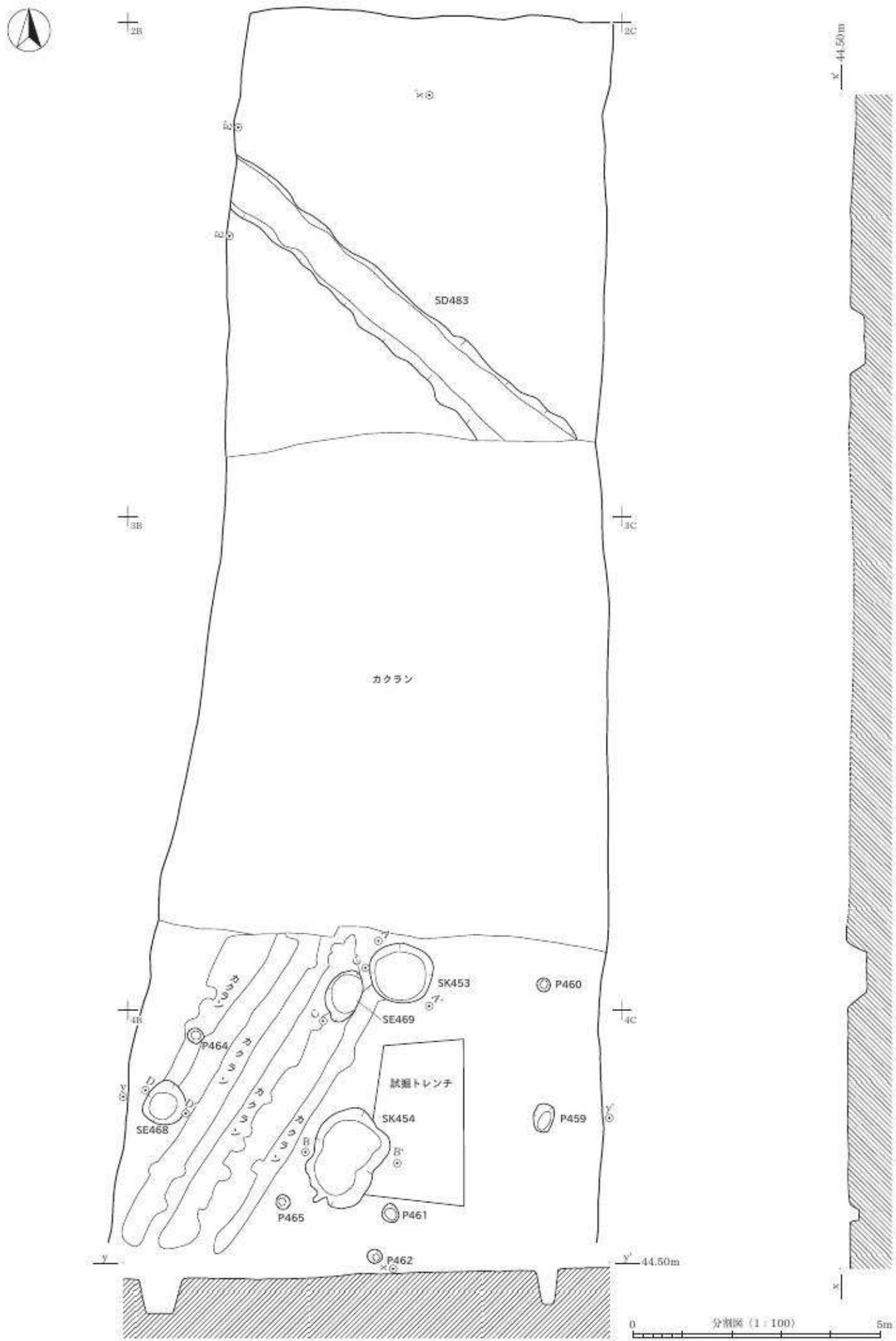
P : 土器・陶磁器

I ~ V : 基本層序の I ~ V 層

全体図

### 図版 1

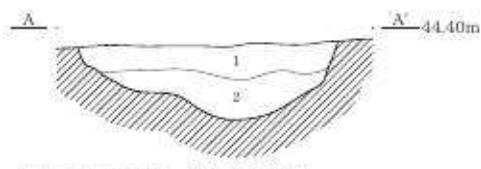




個別図 1

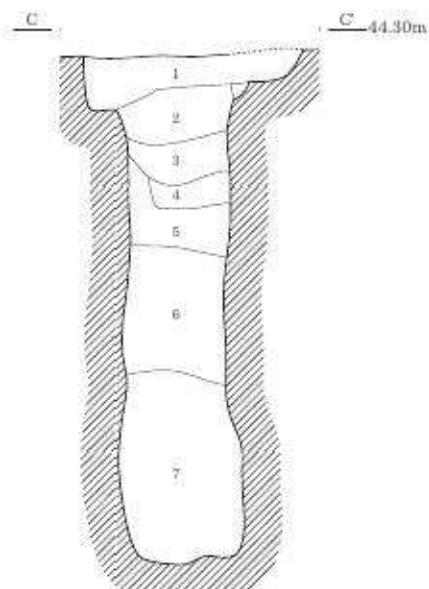
図版 3

SK453



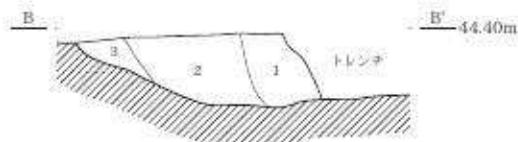
1. 暗茶褐色土。根褐色土・黄褐色土粒少量含む。  
2. 茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土粒含む。

SE469



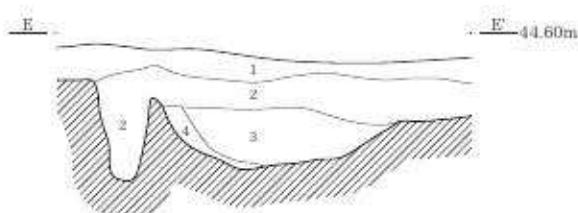
1. 茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土小粒・炭化物粒含む。カクラシ。  
2. 暗茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土小粒量。炭化物粒少量含む。  
3. 暗茶褐色土。しまり弱い。粘性やや弱い。黄褐色土が多量に含む。  
4. 黄褐色土。暗褐色土粒含む。  
5. 黒褐色土。  
6. 暗茶褐色土。しまり弱い。根褐色土・黄褐色土粒含む。  
7. 細青灰色粘質土。子午斜の植物遺体多量に含む。珠浦鏡・木村等が出土。

SK454



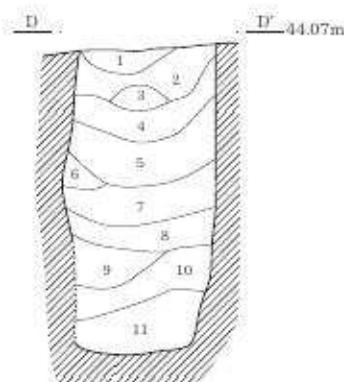
1. 暗茶褐色土。しまり弱い。  
2. 茶褐色土。しまり弱い。  
3. 暗褐色土。黄褐色土粒少量含む。

SD483



1. 黑土。  
2. 茶褐色土。黄褐色粒・炭化物粒含む。基本順序互層か。  
3. 暗茶褐色土。黒褐色土ブロック含む。  
4. 暗褐色土。茶褐色土粒含む。

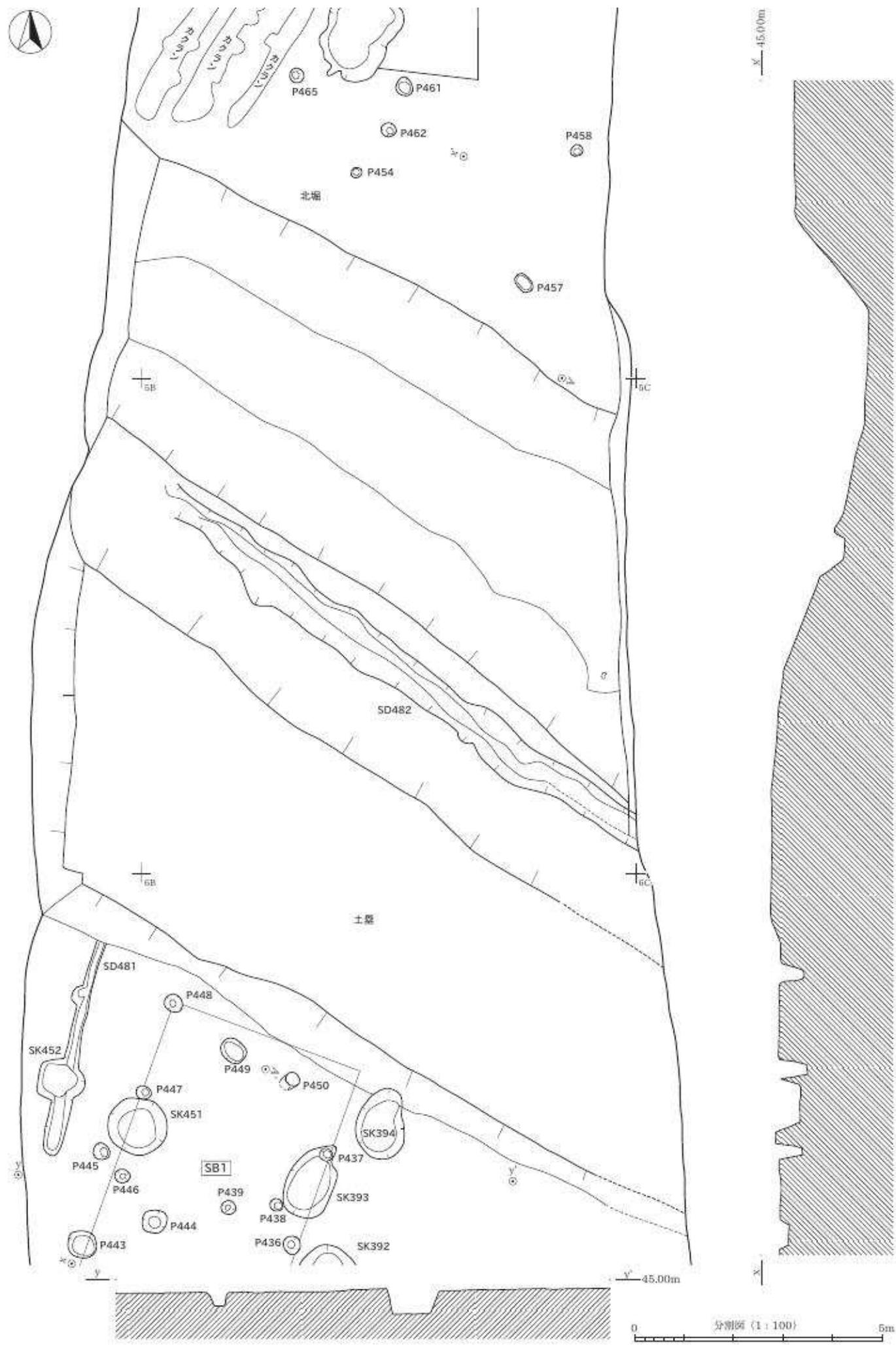
SE468



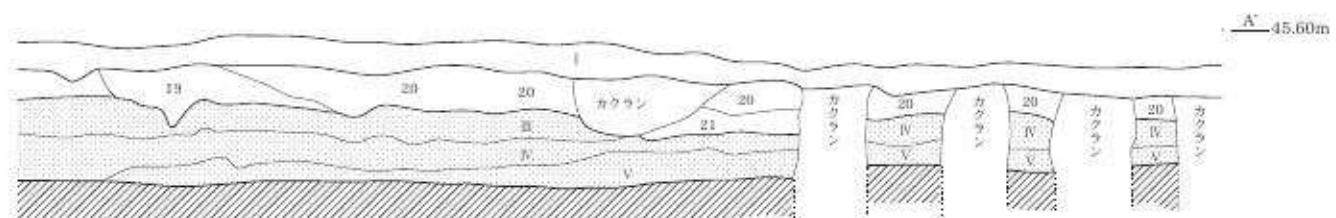
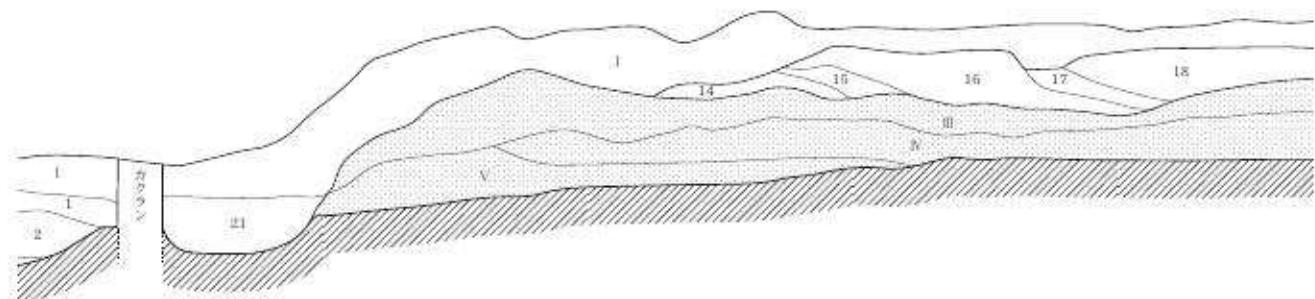
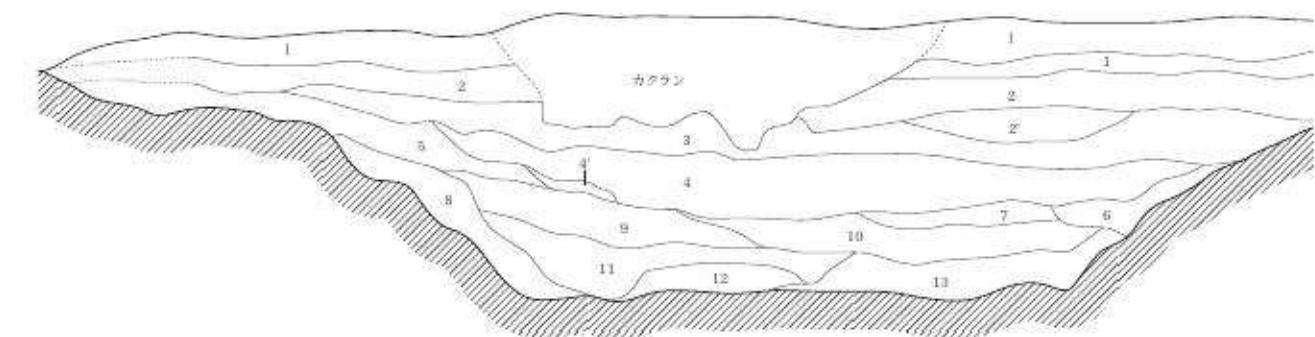
1. 暗褐色土に黄褐色土小粒で多量に含む。  
2. 暗褐色土。黄褐色土小粒含む。  
3. 明黄色褐色土。  
4. 暗茶褐色土。黄褐色土・黒褐色土粒少量含む。  
5. 暗茶褐色土に黄褐色土が多量に含む。  
6. 暗茶褐色土。黄褐色土・黒褐色土粒少量含む。  
7. 黑褐色土。しまり弱い。  
8. 黑褐色土。黄褐色土粒含む。  
9. 黑褐色土。しまり弱い。  
10. 黑褐色土。黄褐色土粒含む。  
11. 黑褐色土。しまり弱い。

図版 4

分割図 2



A



1 表茶褐色土。灰白色小粒含む。

2 茶褐色土。灰白色土粒・黄褐色土粒・炭化物粒含む。

2' 茶褐色土。2より黄褐色土粒が多い。

3 暗茶褐色土。黄褐色土粒・炭化物粒が少里含む。

4 暗茶褐色土。黄褐色土粒・炭化物粒が少里含む。

4' 暗茶褐色土。暗褐色土粒含む。

5 黄茶褐色土。黄褐色土粒少里含む。

6 灰褐色土。灰褐色土粒多量に含む。

7 暗茶褐色土。

8 黄茶褐色土。黄褐色土粒含む。

9 茶褐色土。黄褐色土粒少里含む。

10 暗茶褐色土。黄褐色土粒多量に含む。

11 黄茶褐色土。黄褐色土粒多量に含む。

12 茶褐色土。黄褐色土粒多量に含む。

13 暗茶褐色土。黄褐色土粒がうさ子状に含積する。

14 灰茶褐色土。暗褐色土粒含む。

15 茶褐色土。黄褐色土粒含む。

16 暗茶褐色土。灰茶褐色土・暗褐色土小粒多量に含む。

17 灰茶褐色土。しまり強い。粘性弱い。暗褐色土粒少里含む。

18 黄褐色土。しまり弱い。灰茶褐色土粒多量・暗褐色土粒少里含む。

19 暗茶褐色土。灰茶褐色土・黄褐色土・暗褐色土粒少里含む。しまり強い。

20 暗茶褐色土。

21 暗茶褐色土。黄褐色土粒含む。(SB482 対上)

【層】茶褐色土(耕作土)

田畠 暗茶褐色土。中耕の遺物包含層。土堤下にしか良好な層は残っていない。あとはかなり工作の影響を受けているようだ。

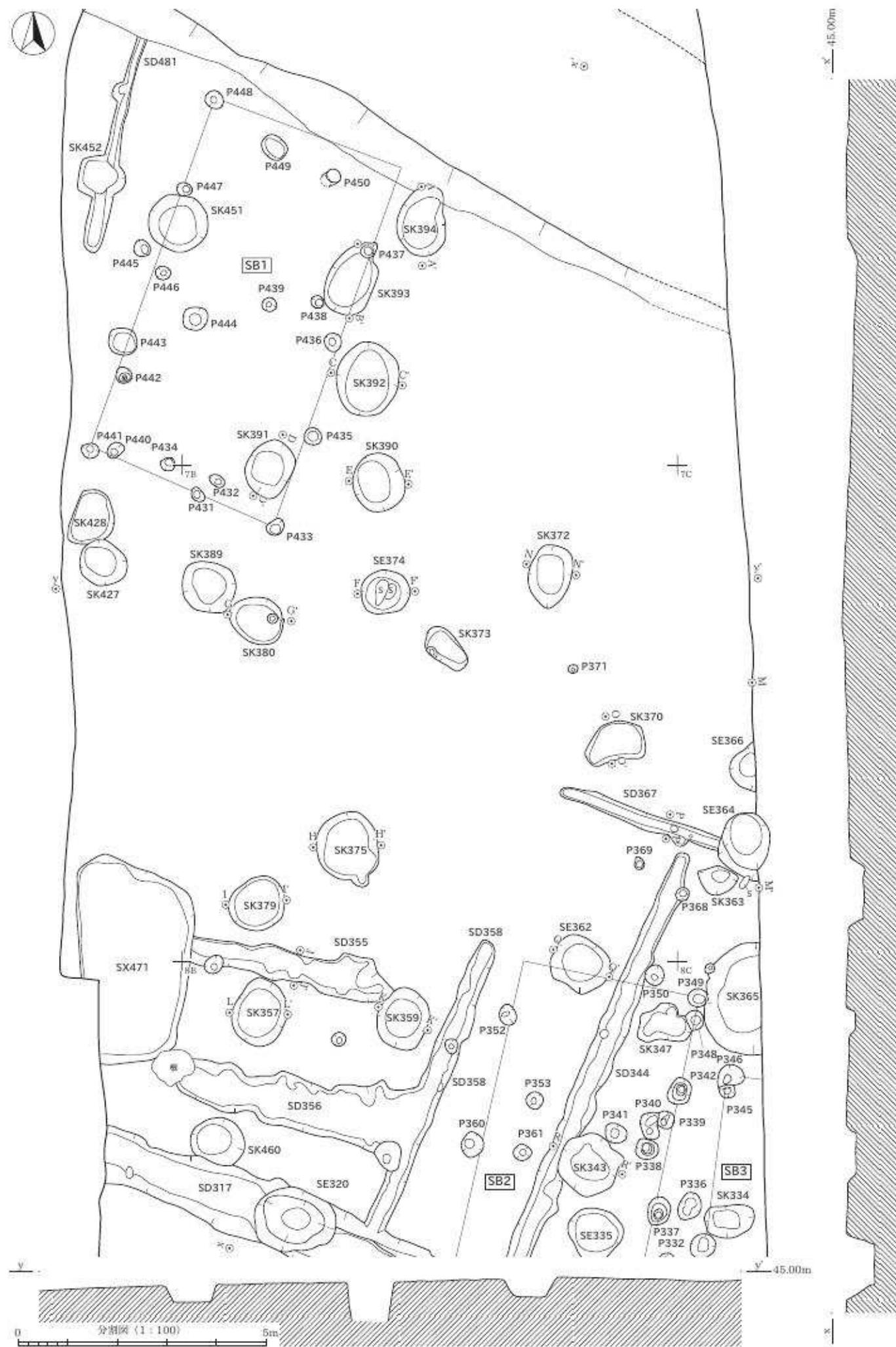
作務 茶褐色土。粘性弱い。網走の遺物包含層と考えられるが、良好な層は土堤下のみで、これ以外はかなり耕作の影響を受けている。

V層 滲漏層

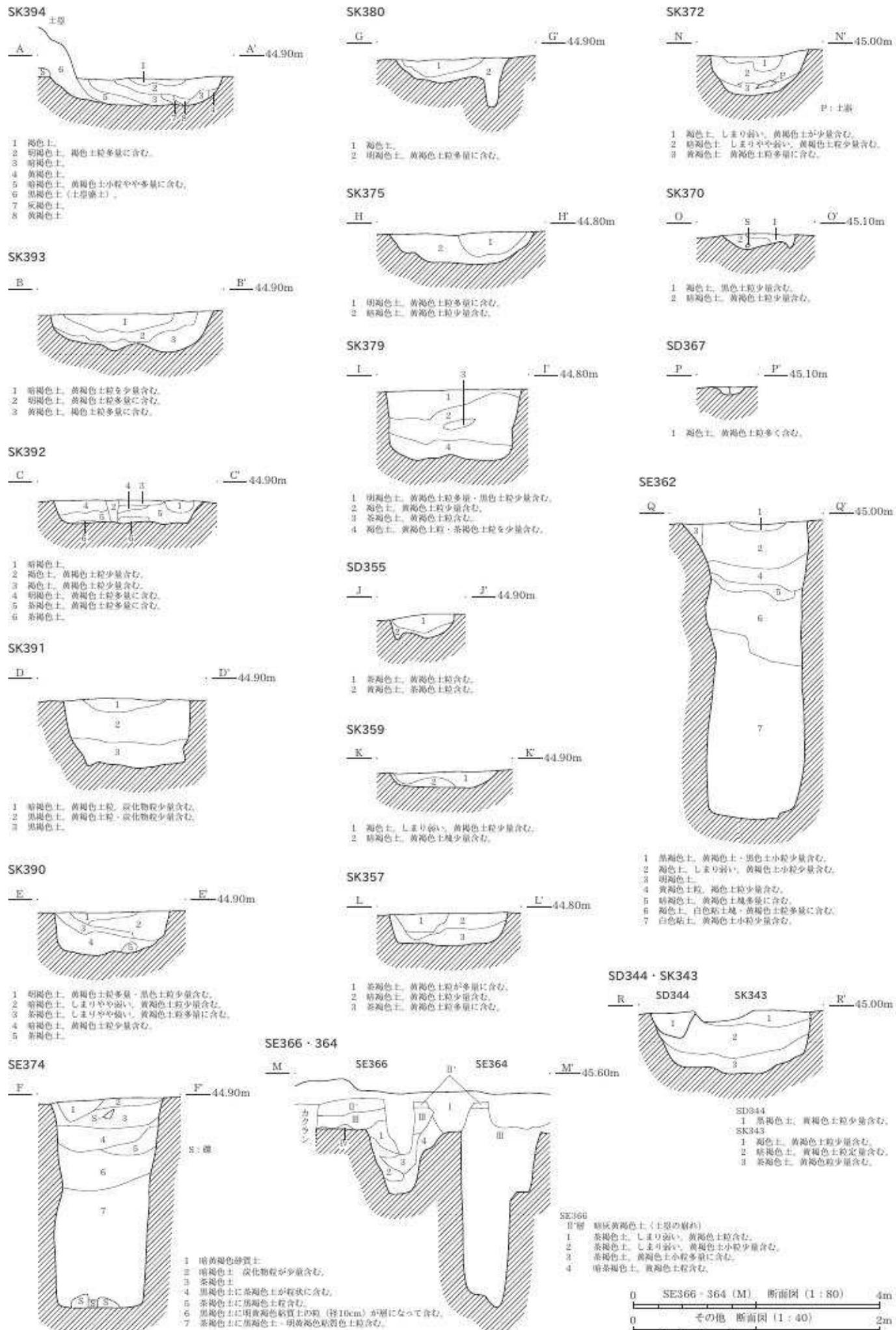
0

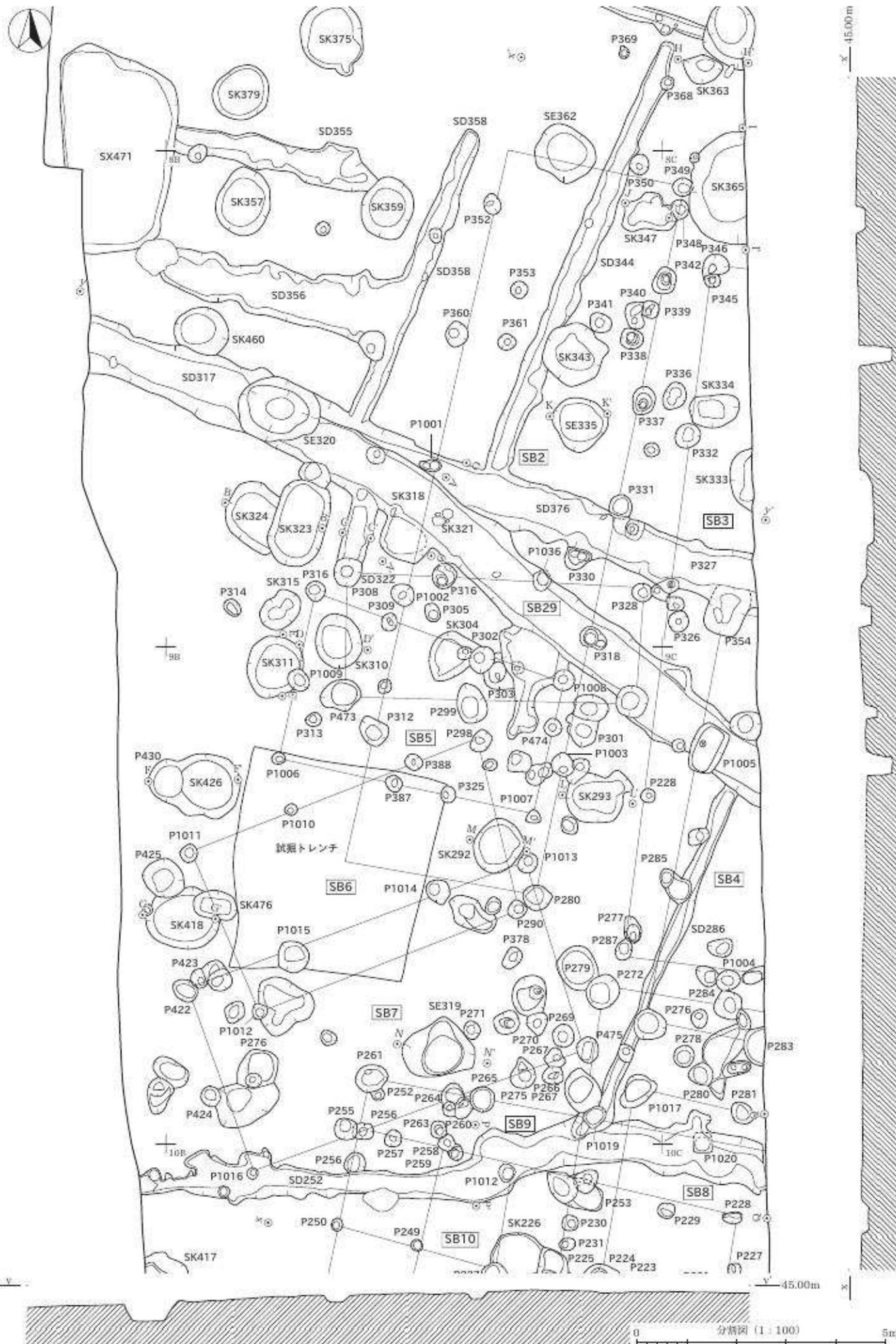
(1:50)

2m



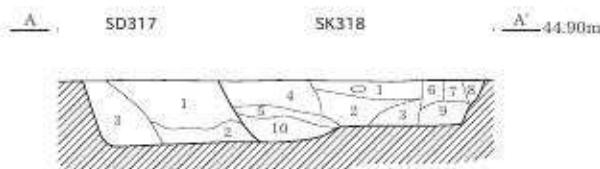
個別図 3





個別図 4

SD317・SK318



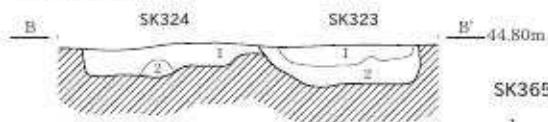
SD317

- 1 黒褐色土、黄褐色土粒少々含む。
- 2 喀斯特褐色土、喀斯特色土粒多量に含む。
- 3 喀斯特褐色土、喀斯特色土粒多量に含む。

SK318

- 1 喀斯特褐色土、黄褐色土粒少々含む。
- 2 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 3 喀斯特褐色土、喀斯特色土粒多量に含む。
- 4 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 5 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 6 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 7 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 8 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 9 喀斯特褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 10 黄褐色土、黄褐色土粒多量含む。

SK324・323



SK323

- 1 黑褐色土、しまり強い。黑色土、黄褐色土粒少量含む。
- 2 海色土、しまり弱い。黄褐色土粒多量に含む。

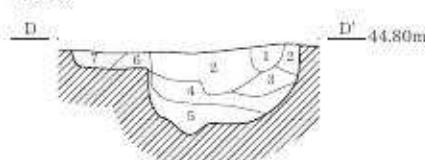
SK324

- 1 黑褐色土、しまり弱い。黄褐色土粒多量含む。
- 2 海色土、しまりやや強い。黄褐色土粒少量含む。

SD322

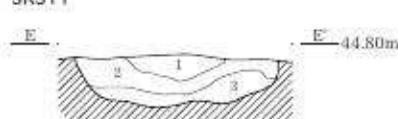


SK310



- 1 黒褐色土、しまり弱い。英海色土粒(約5mm)含む。
- 2 黒褐色土、しまりやや弱い。白色粘土粒少量含む。
- 3 黒褐色土、英海色土粒少量含む。
- 4 黒褐色土、英海色土粒・白色粘土粒少量含む。
- 5 前褐色土、砂較少量含む。
- 6 黑褐色土、英海色土粒少量含む。
- 7 明褐色土、しまりやや弱い。黄褐色土粒多量に含む。

SK311



- 1 明褐色土、しまりやや弱い。黑色土、黄褐色土粒少量含む。
- 2 海色土、しまりやや弱い。黄褐色土粒少量含む。
- 3 喀斯特褐色土、しまり弱い。黄褐色土粒少量含む。

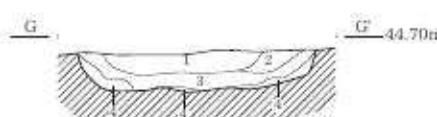
P430・SK426



SK426

- 1 前茶褐色土、しまりやや弱い。炭化物粒を含む。
- 2 前茶褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 3 茶褐色土。

SK418



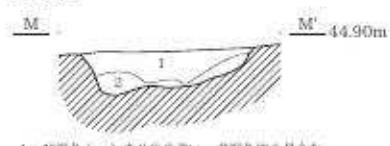
- 1 前茶褐色土、しまり弱い。黄褐色土粒多量に含む。
- 2 黑褐色土、混じり少ない。
- 3 黑褐色土、炭化物粒・黄褐色土を含む。
- 4 黄褐色土に前褐色土粒含む。

SK293



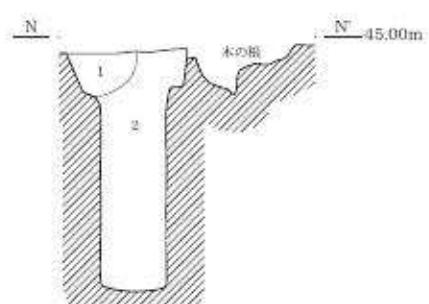
- 1 新褐色土、しまり強い。
- 2 新褐色土、しまり強い。黄褐色土粒少量含む。
- 3 新褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
- 4 海色土、しまりやや弱い。黄褐色土粒少量含む。

SK292



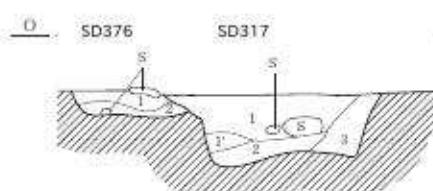
- 1 新褐色土、しまりやや強い。黄褐色土粒少量含む。
- 2 海色土、しまりやや弱い。黄褐色土粒少量含む。

SE319



- 1 明茶褐色土、しまりやや弱い。黄褐色土粒含む。
- 2 茶褐色土、黄褐色土粒少量含む。

SD376・317



- SD317
  - 1 黒褐色土、黄褐色土粒少量・炭化物粒含む。
  - 2 黒褐色土、黄褐色土粒多量に含む。
  - 3 前黃褐色土、喀斯特色土粒含む。
  - 4 前褐色土、茶褐色土粒少量含む。

- SD376
  - 1 前褐色土、喀斯特色土粒含む。
  - 2 黄褐色土、茶褐色土粒含む。

SE335

K

K'-K''

45.00m

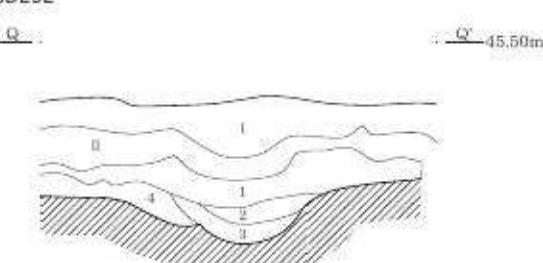


SD252



- 1 新褐色土、黄褐色土粒・炭化物粒少量含む。
- 2 茶褐色土、黄褐色土粒含む。

SD252



- 1 茶褐色土、基本層序頂部か。
- 2 前茶褐色土、黄褐色土粒・炭化物粒少量含む。
- 3 前茶褐色土、黄褐色土粒少量に含む。
- 4 茶褐色土、黄褐色土粒含む。基本層序頂部か。

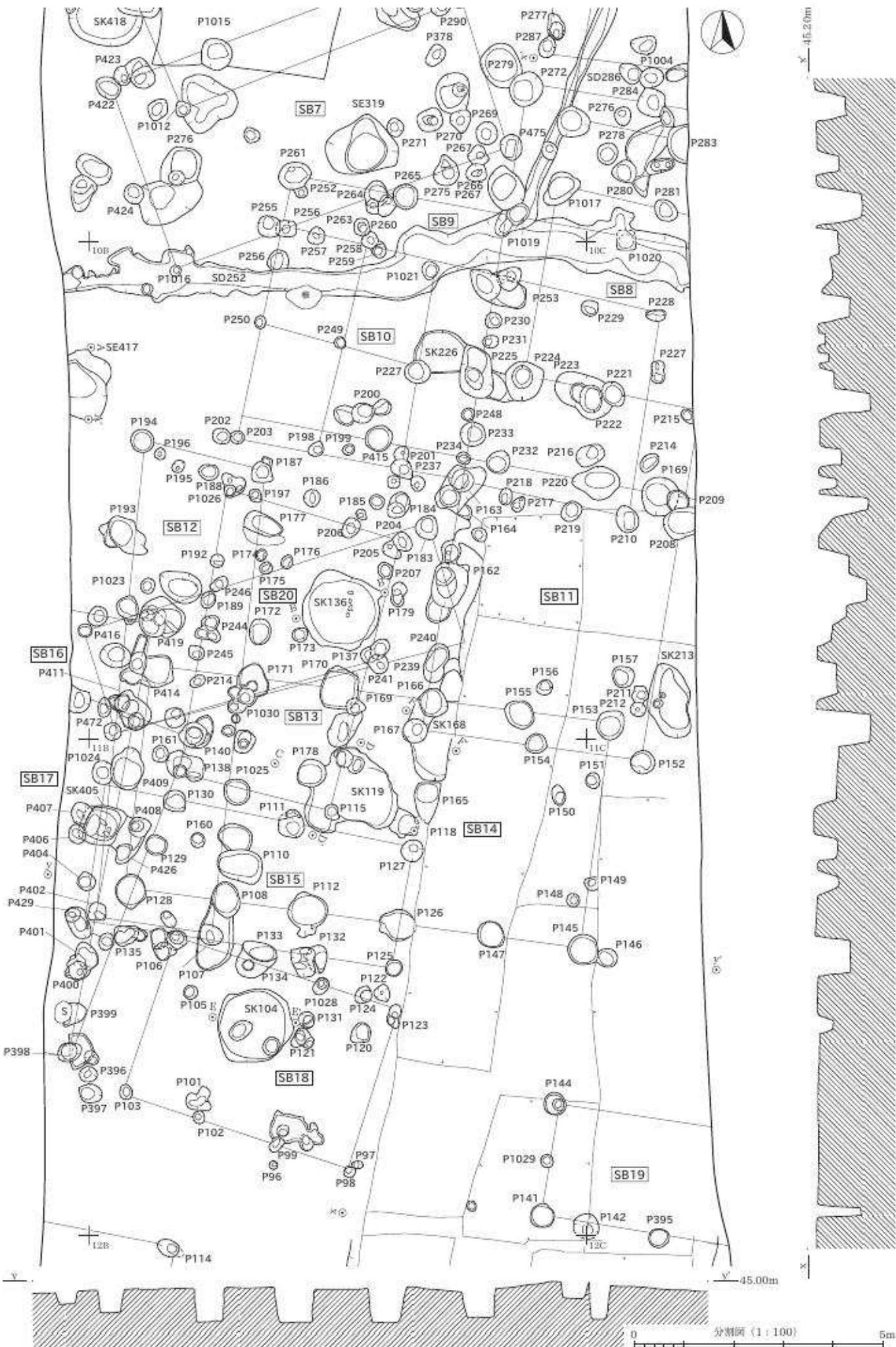
D SK365 (I) - SE319 (N) 断面図 (1:80)

4m 0 その他 断面図 (1:40)

2m

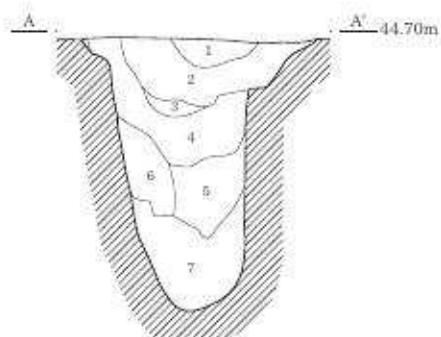
圖版 10

分割図 5



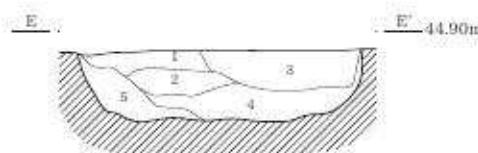
個別図 5

SE417



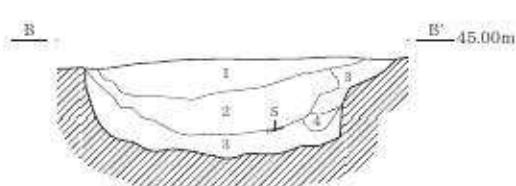
- 1 前茶褐色土。しまり・粘性やや強い。炭化物粒含む。
- 2 淡茶褐色土。しまり・粘性やや強い。
- 3 黒褐色土。炭化物粒含む。
- 4 淡茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土少粒、炭化物粒少量含む。
- 5 前茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土粒多量に含む。
- 6 淡茶褐色土。しまり弱い。炭化物粒少量含む。
- 7 淡茶褐色土。黄褐色土粒多量に含む。

SK104



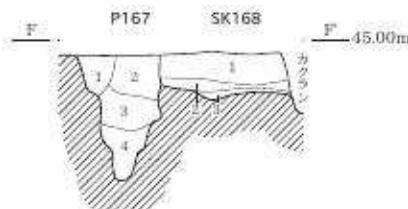
- 1 黒褐色土。しまり・粘性やや強い。
- 2 黄褐色土。黄褐色土粒含む。
- 3 黑褐色土。黄褐色土粒含む。
- 4 淡茶褐色土。粘性強い。黄褐色土小粒多量に含む。
- 5 黑褐色土。黄褐色土粒多量に含む。

SK136



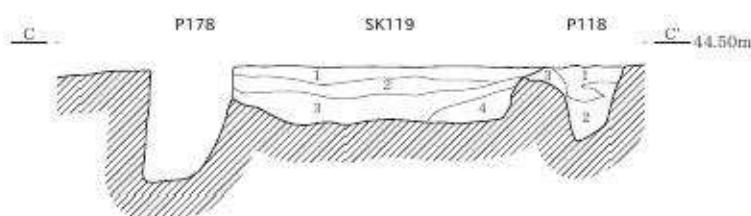
- 1 淡茶褐色土。しまり強い。黄褐色土粒・炭化物粒含む。
- 2 黒色土。しまり弱い。炭化物粒多量に含む。
- 3 淡黄褐色土。しまり弱い。黄褐色土粒含む。
- 4 黄褐色土(推定) 粒。

SK168・P167

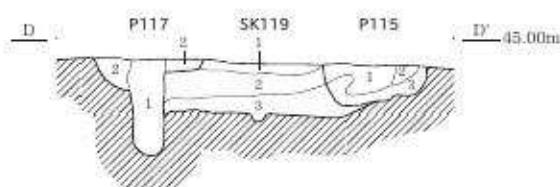


- 1 黒褐色土。黄褐色土粒含む。
  - 2 淡褐色土。黄褐色土がツミナ状に堆積する。
  - 3 黑褐色土。黄褐色土小粒含む。
  - 4 黄褐色土。暗褐色土粒含む。
- SK168
- 1 黒褐色土に炭化物粒・灰黃褐色土粒が少量含む。
  - 2 黄褐色土に黄褐色土粒が多量に含む。
  - 3 灰黄色粘質土

SK119・P118・178



SK119・P115・117



SK119

- 1 淡茶褐色土に炭化物粒。黄褐色土粒含む。しまり強い。
- 2 黑褐色土。しまり強い。炭化物粒多量に含む。
- 3 淡茶褐色土。しまり弱い。黄褐色土粒・炭化物粒含む。
- 4 淡茶褐色土。黄褐色土粒多量・炭化物粒少量含む。

P118

- 1 黑褐色土。黄褐色土小粒含む。しまり強い。
- 2 黄褐色土。黄褐色土粒含む。
- 3 淡黄褐色土

P117

- 1 茶褐色土に黄褐色土小粒多量に含む。しまりやや強い。
- 2 淡茶褐色土に黄褐色土小粒少量含む。しまり強い。

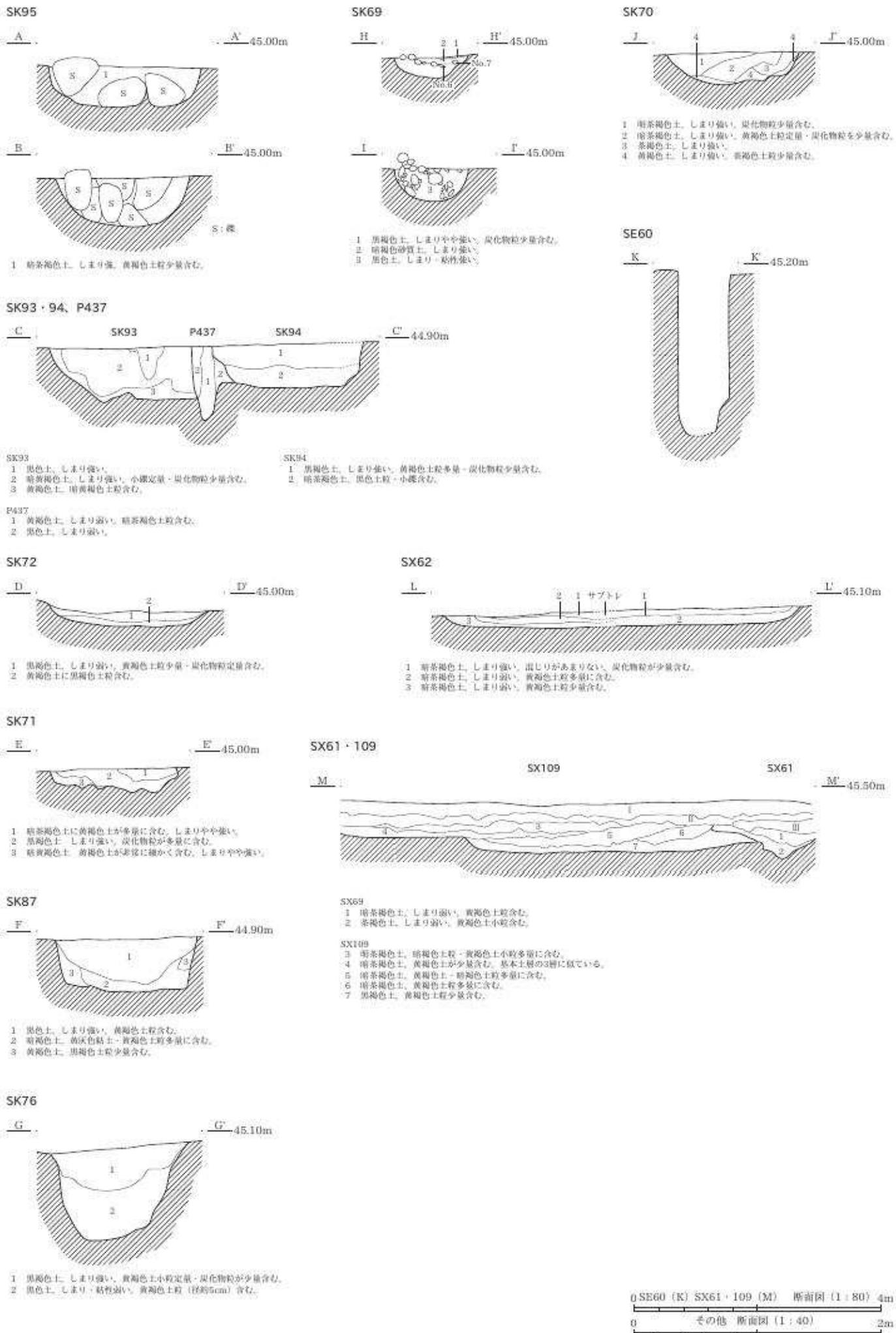
P115

- 1 黑褐色土。黄褐色土粒少量含む。
- 2 淡褐色土。黄褐色土小粒多量に含む。
- 3 淡褐色土。黄褐色土粒多量に含む。



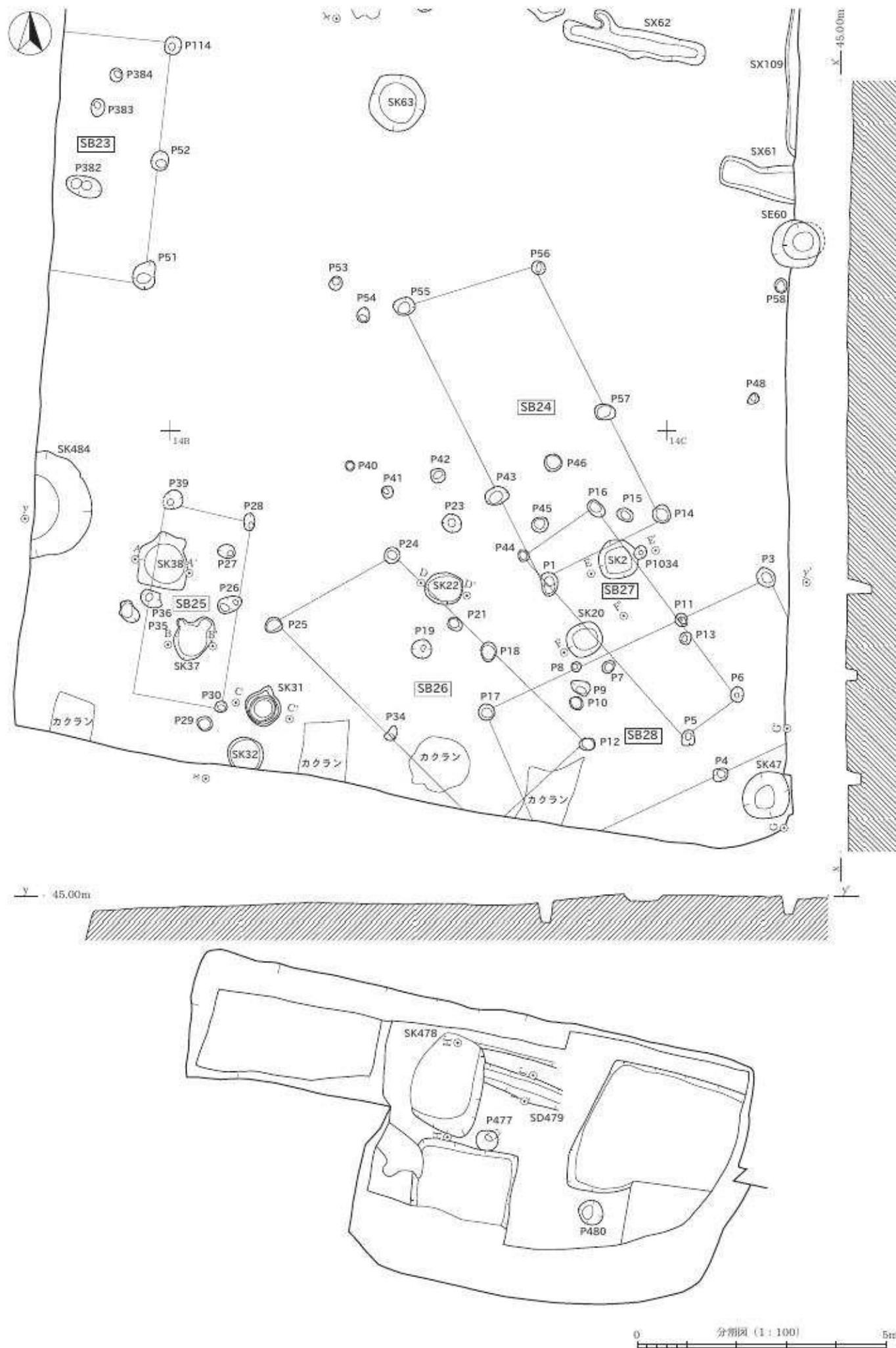
個別図 6

図版 13



図版 14

分割図 7

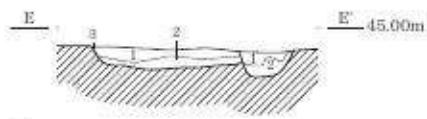


SK38



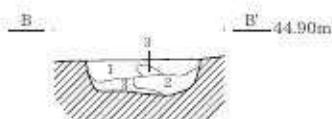
- 1 黒褐色土。しまり強・粘性弱い。  
2 黒褐色土。黄褐色土粒含む。

SK2・P1034



- SK2  
1 黒褐色土。しまり強い。黒褐色土・黄褐色土（堆山）粒多量、炭化物粒少量含む。  
2 黒色炭化物層。しまりやや強。樹木枝などの植生遺体を少量含む。  
3 堆山が被削により赤化・硬化する（赤化・硬北は底面のみで顕著には見られない）。  
P1034  
1 黒褐色土。しまり・粘性弱い。黄褐色土粒含む。  
2 黄褐色土。黑褐色土粒含む。

SK37



- 1 黒褐色土。しまり弱い。黄褐色土粒含む。  
2 黄褐色土。しまり弱い。  
3 黑褐色土。しまり弱い。黄褐色土小粒含む。

SK20



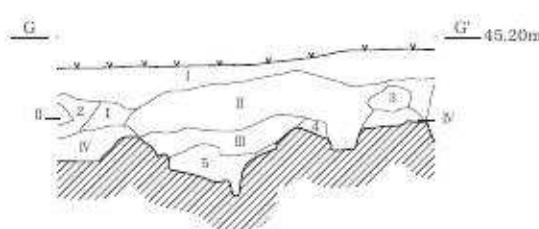
- 1 黒褐色土。しまり・粘性やや強い。黄褐色土小粒・炭化物粒含む。  
2 黑褐色土。  
3 黄褐色土。黄褐色土小粒含む。  
4 黑褐色土。しまり・粘性弱い。炭化物粒を含む。  
5 明赤褐色地帯。非常に硬く焼き締まっている。主に底部。堆山に触化が見られる。

SK31



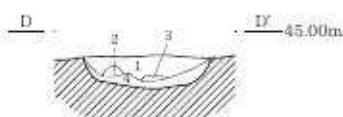
- 1 黃茶褐色土。しまり強い。黄褐色土（堆山）粒（径約1cm）含む。  
P 1層に黄褐色土（堆山）粒が多量に含む。  
2 黑褐色土。しまりやや強い。混じりなし。  
2 層に黄褐色土（堆山）粒が層状に含む。  
3 黄茶褐色土。  
4 黑褐色土。

SK47



- I 層 表上。しまり強い。  
II 層 黄茶褐色土。しまりやや強い。黄褐色土粒（径2~20mm）定期、炭化物粒（径1~2mm）少量含む。  
III 層 黑褐色土。しまりやや弱い。黄褐色土粒（径2~20mm）少量含む。  
IV 層 黄茶褐色土。しまりやや強い。黄褐色土粒（径約2mm）含む。  
1 黄茶褐色土。黄褐色土粒（径約2mm）含む。  
2 黄茶褐色土。黄褐色土粒（径約2mm）含む。しまり強い。炭化物粒（径2~3mm）少量含む。  
3 黄茶褐色土。しまりやや強い。黄褐色土粒（径約1mm）少量含む。  
4 黄茶褐色粘土。しまりやや強い。黄褐色土粒少量含む。  
5 黄茶褐色土。4に比べ黄褐色土粒やや多い。SK47覆土。

SK22



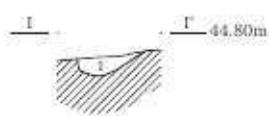
- 1 黑褐色土。しまり・粘性弱い。黄褐色土粒少量含む。  
2 黄褐色土（堆山）粒。  
3 黑褐色土。しまり強い。  
4 黄茶褐色土。

SK478



- 1 黄茶褐色土。しまり強い。黄褐色土粒少量含む。赤壁にしまりがよく、硬い。  
2 黑褐色土。粉状黃褐色土粒含む。

SK479

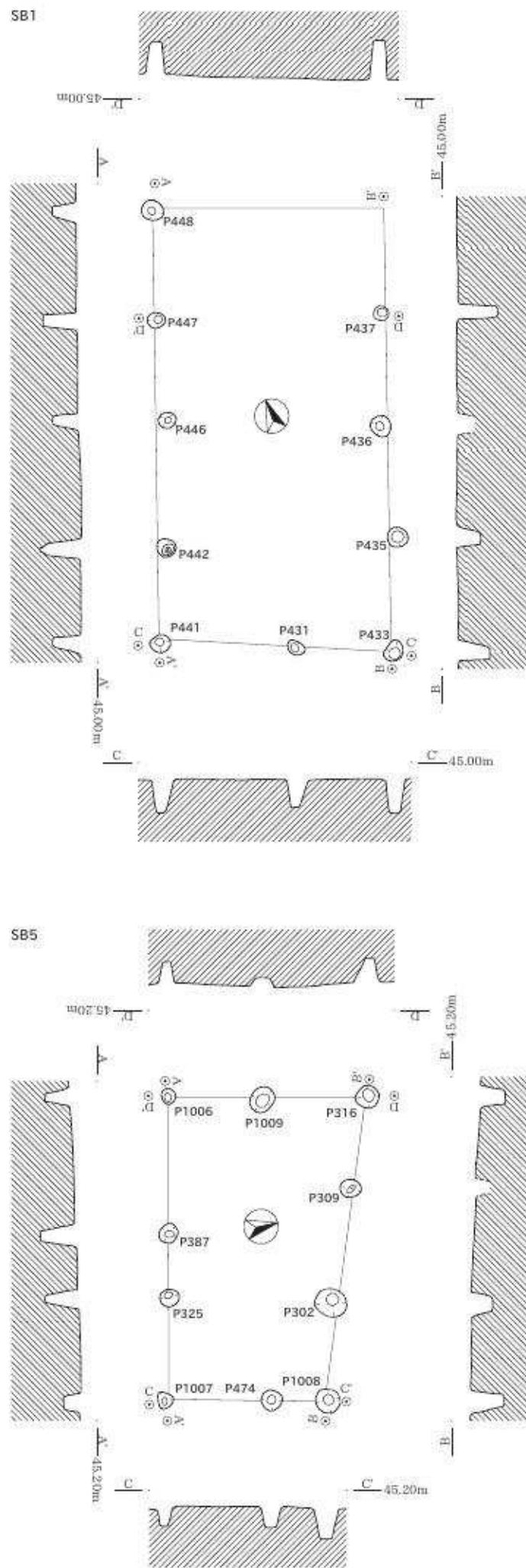


- 1 黄茶褐色土。黄褐色土粒含む。

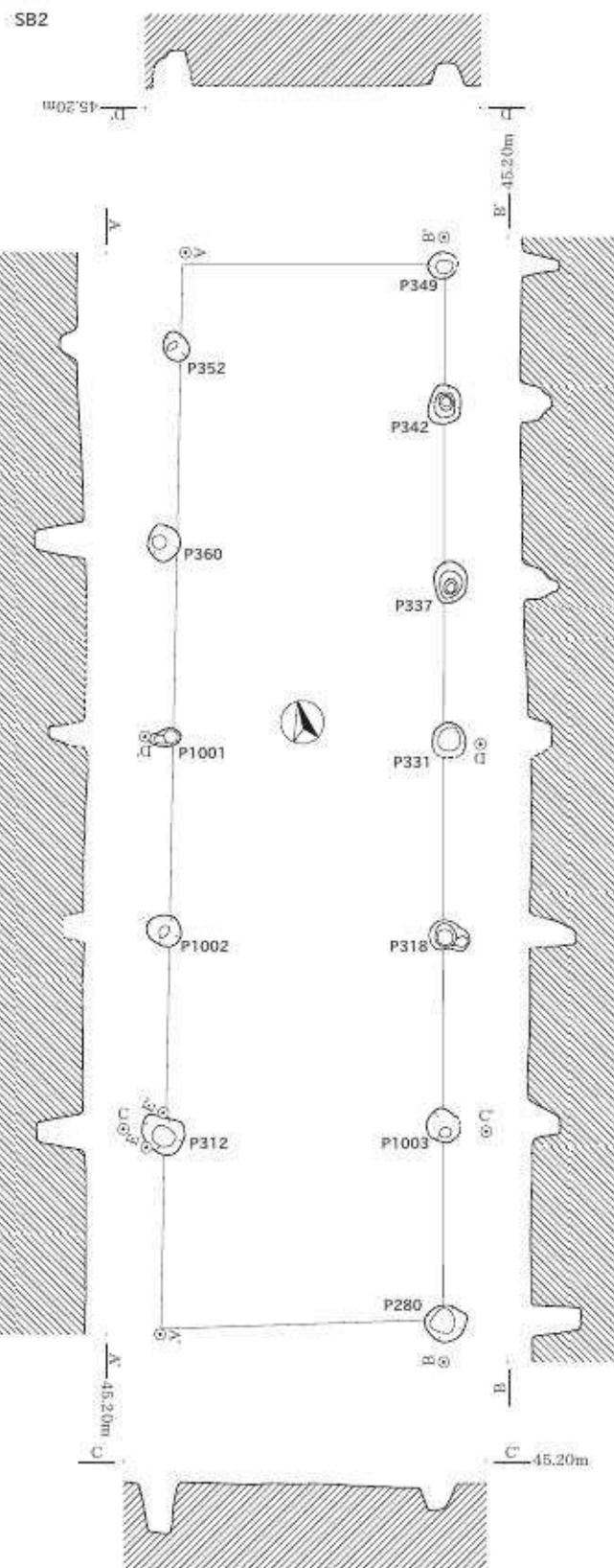
図版 16

個別図 8 SB1・2・5

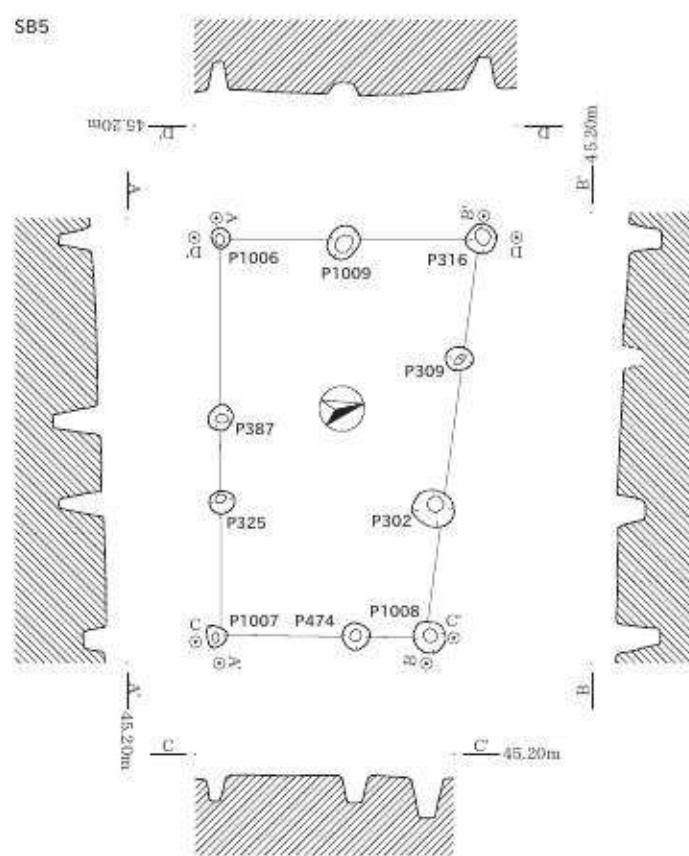
SB1



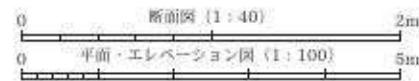
SB2



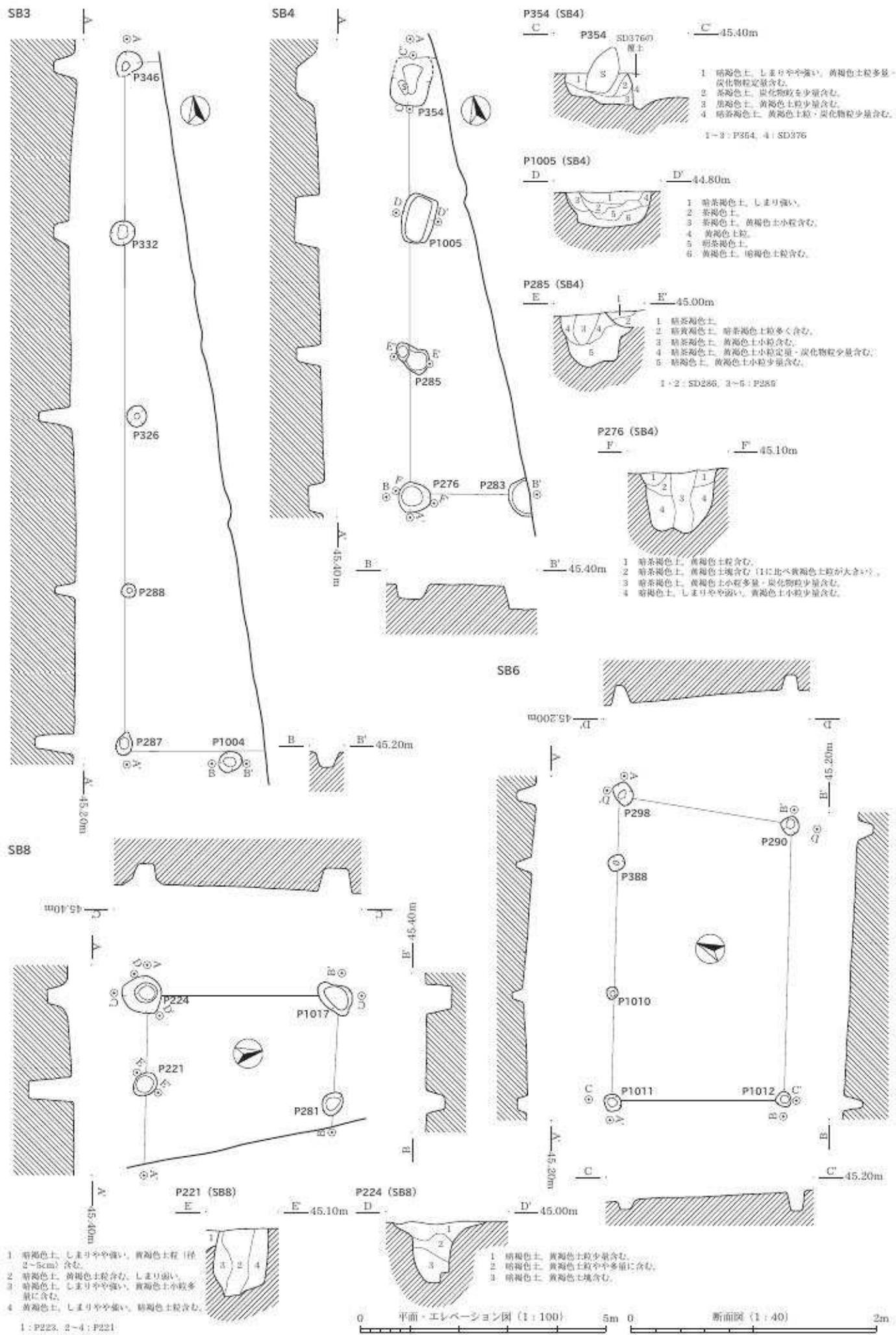
SB5



P312 (SB2)



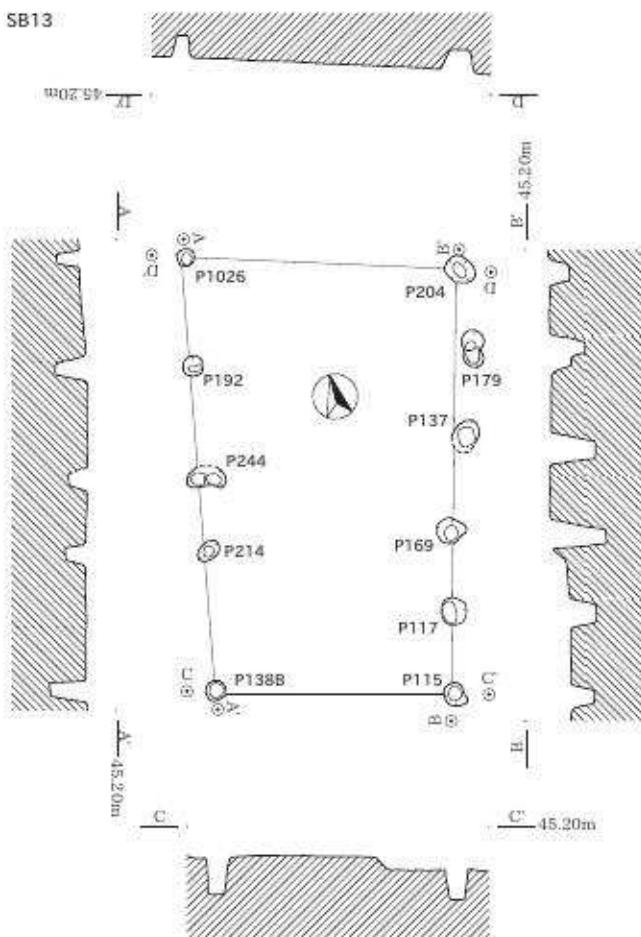
個別図 9 SB3・4・6・8



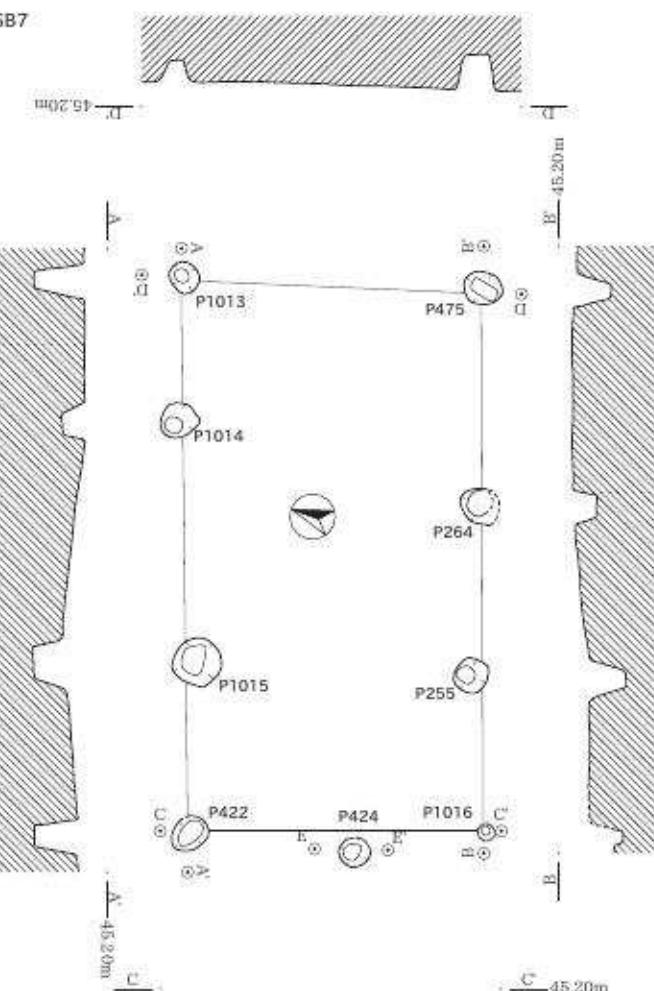
図版 18

個別図 10 SB7・9・13

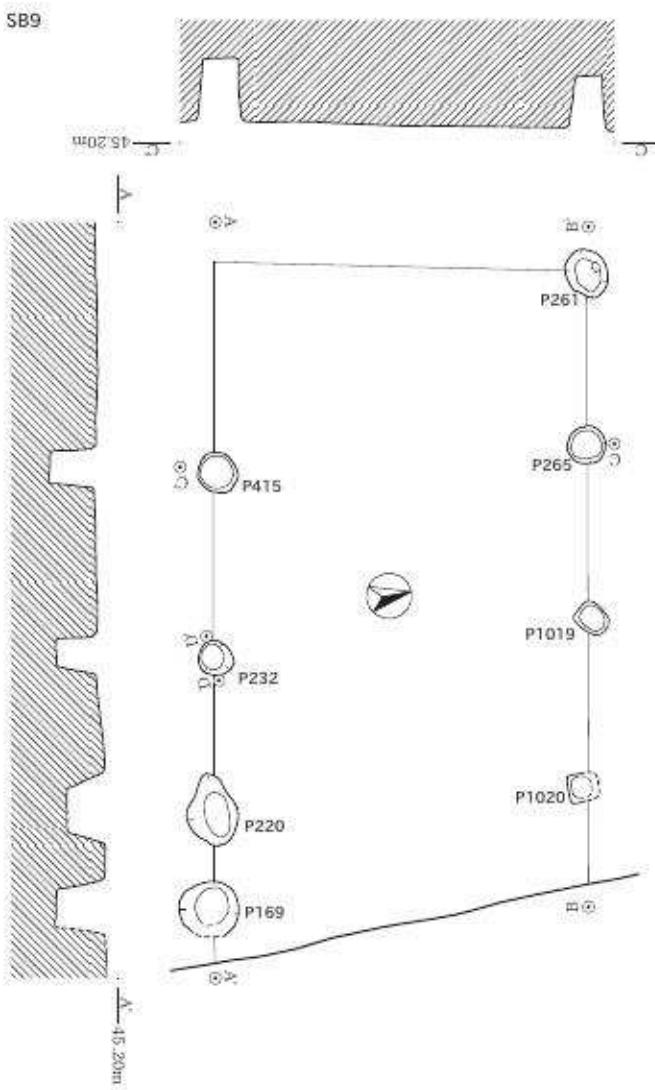
SB13



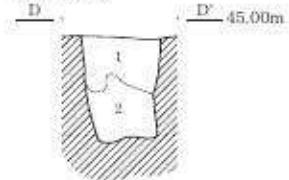
SB7



SB9

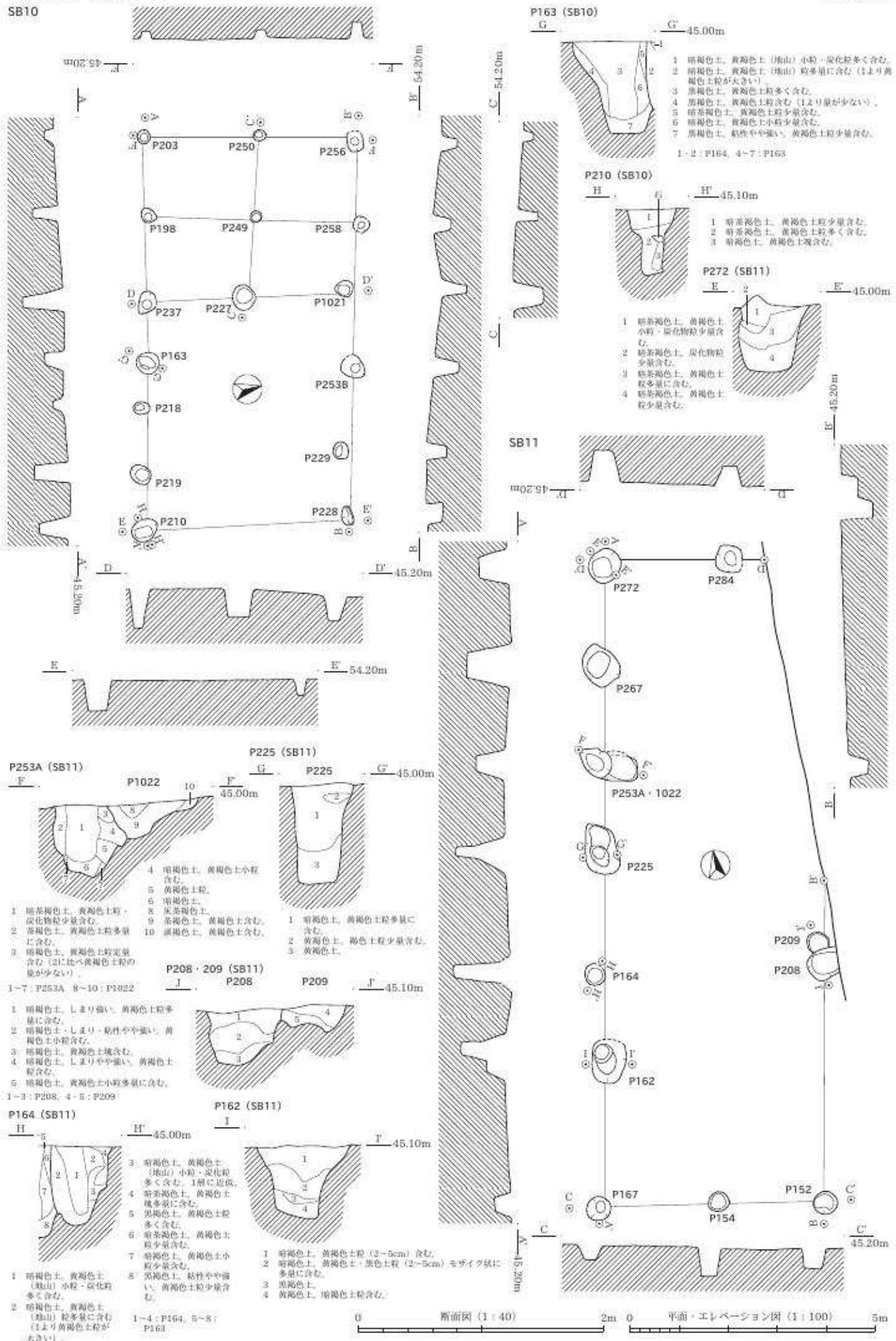


P232 (SB9)

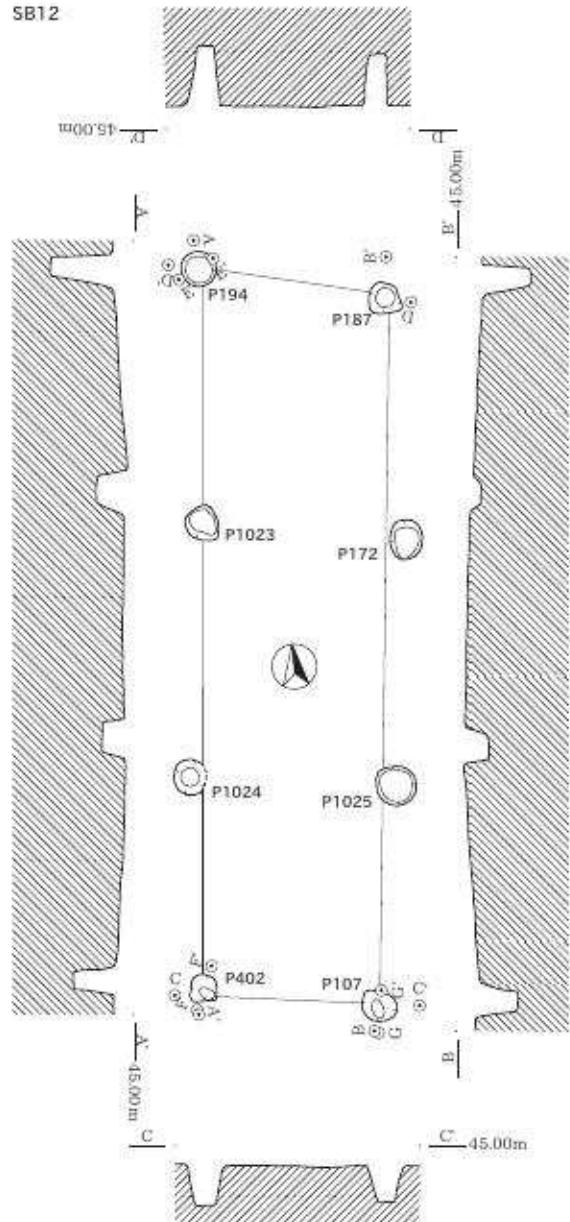


断面図 (1:40) 2m  
平面・エレベーション図 (1:100) 5m

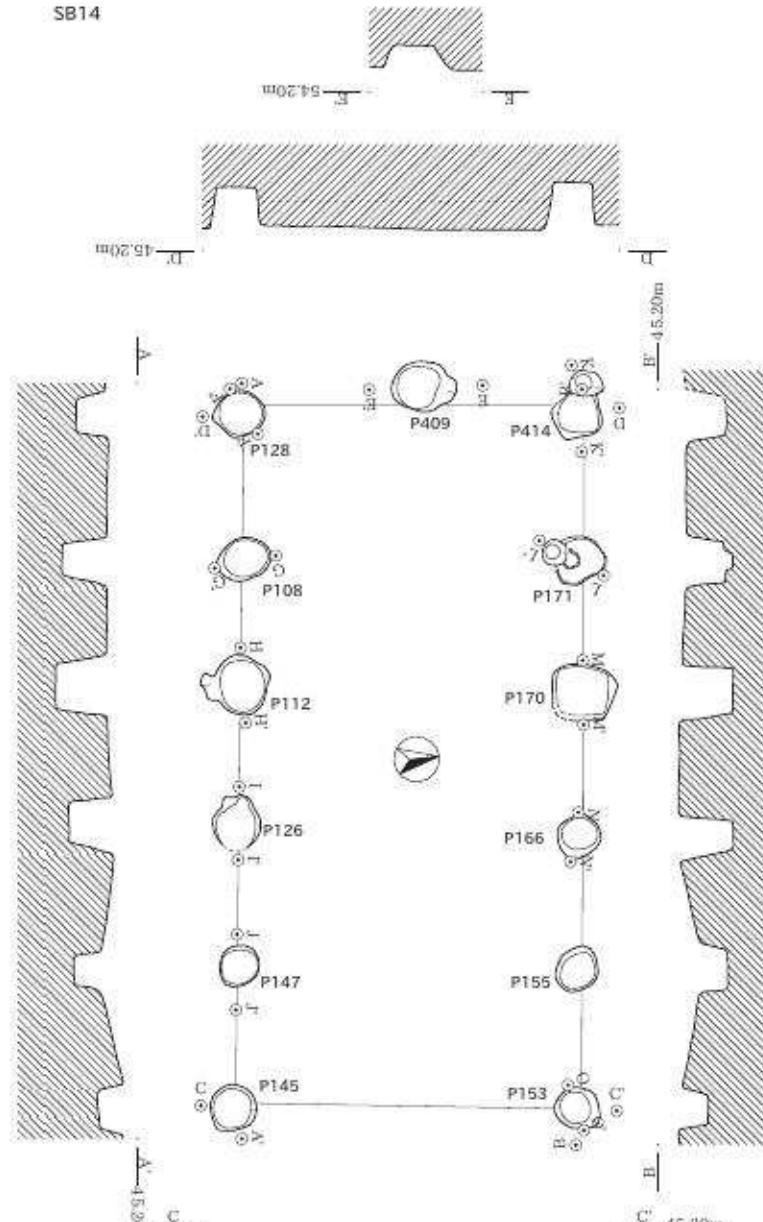
個別図 11 SB10・11



SB12



SB14



P194 (SB12)



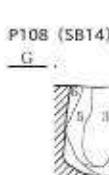
P128 (SB14)



P402 (SB12)



P108 (SB14)

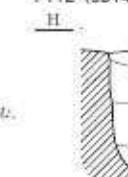


P107 (SB12)

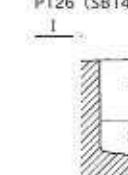


1 黄褐色土、黄褐色土粒(約1cm)多量に含む。  
2 黑褐色土、黄褐色土・黑褐色土・灰黑色粘土粒(約1cm)をモザイク状に含む。

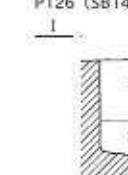
P112 (SB14)



P126 (SB14)



P414 (SB14)



0

断面図 (1:40)

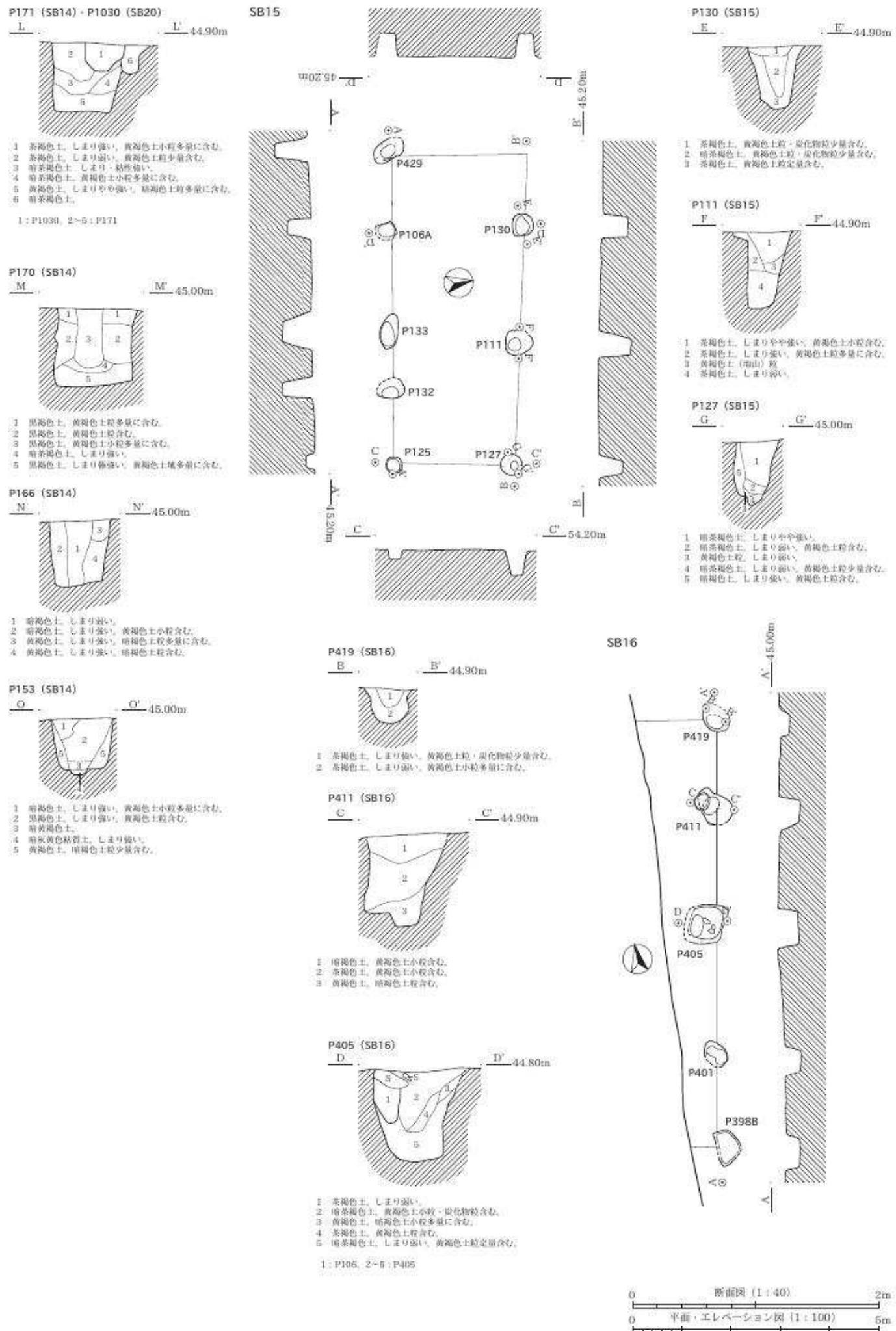
2m

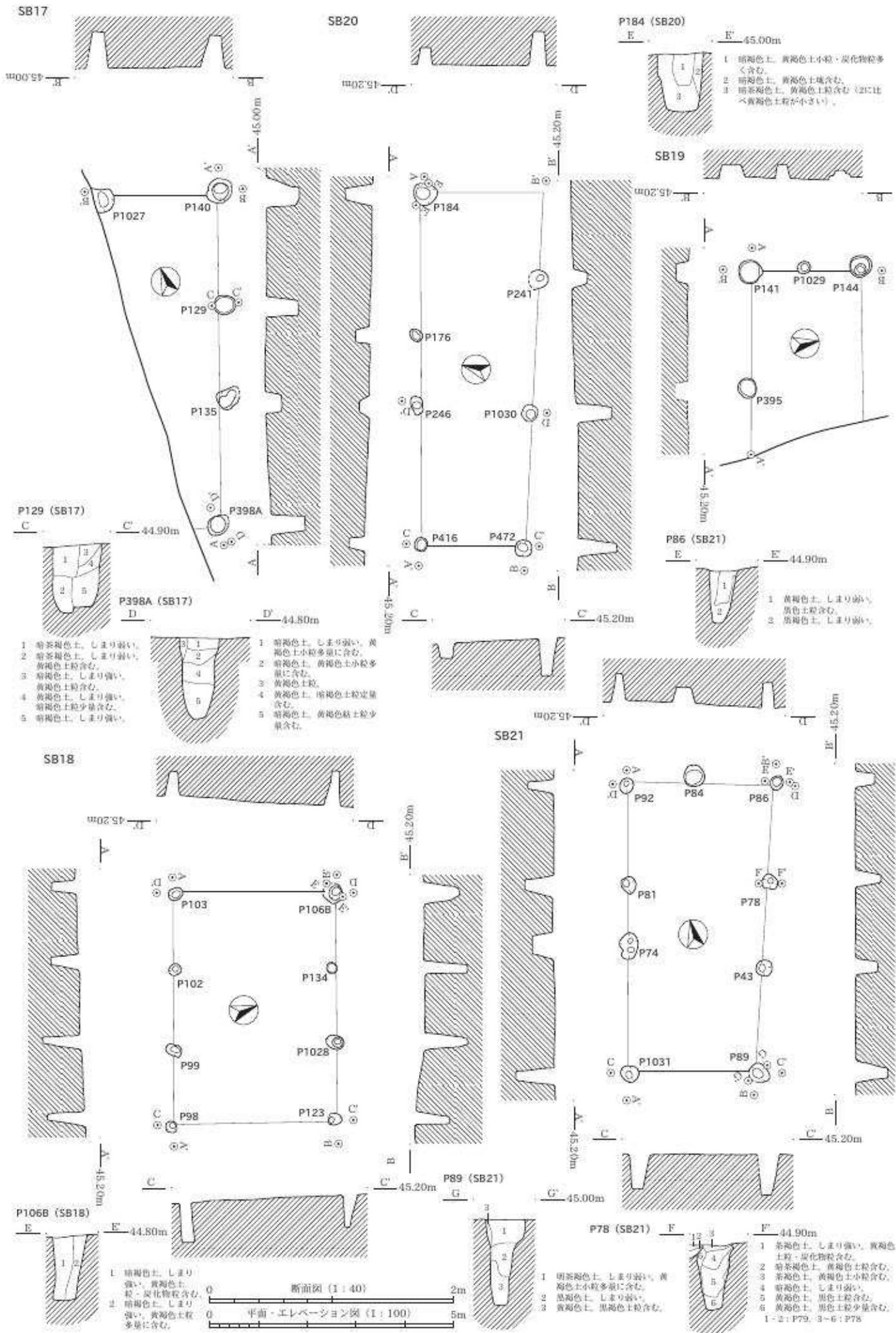
0

平面・エレベーション図 (1:100)

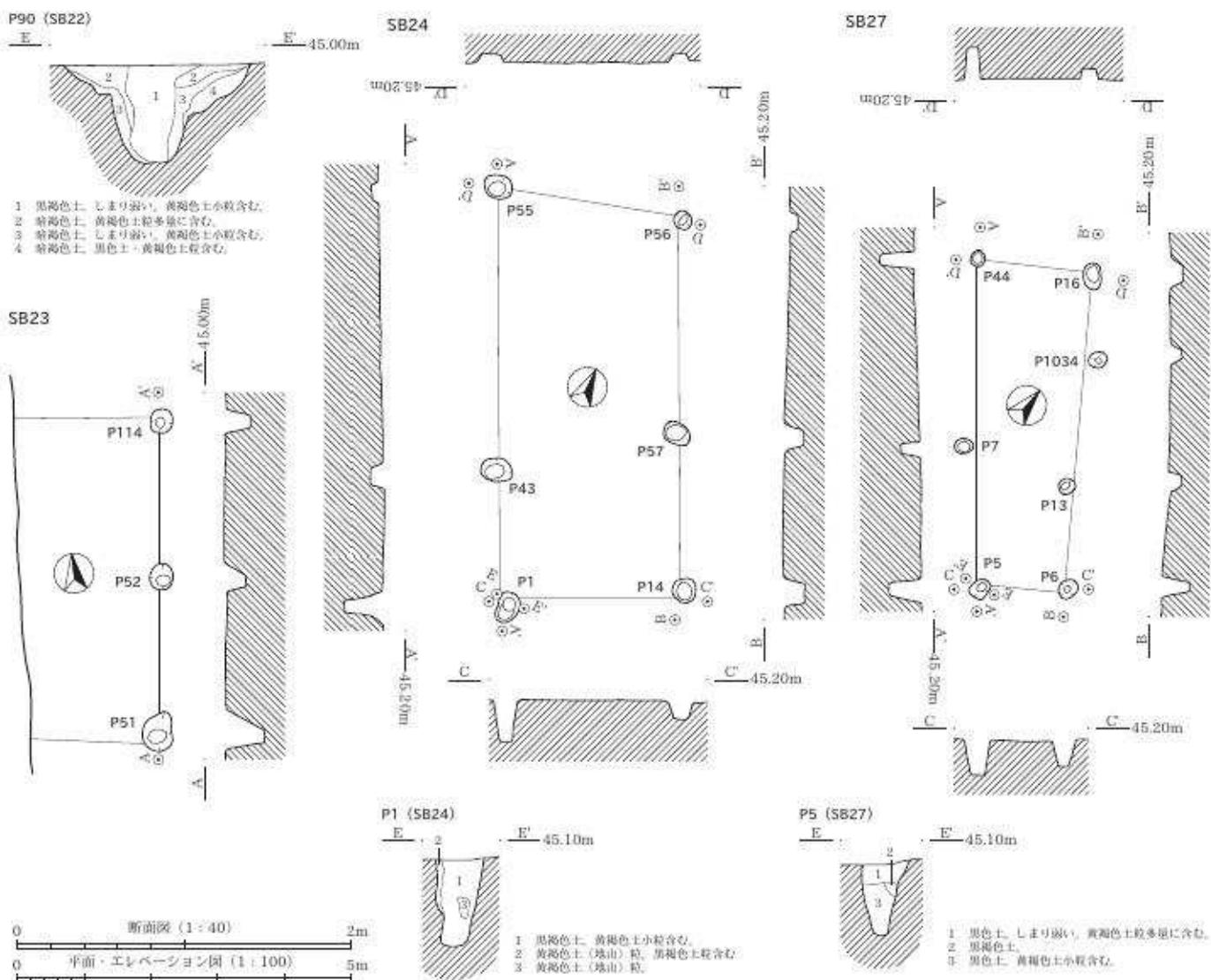
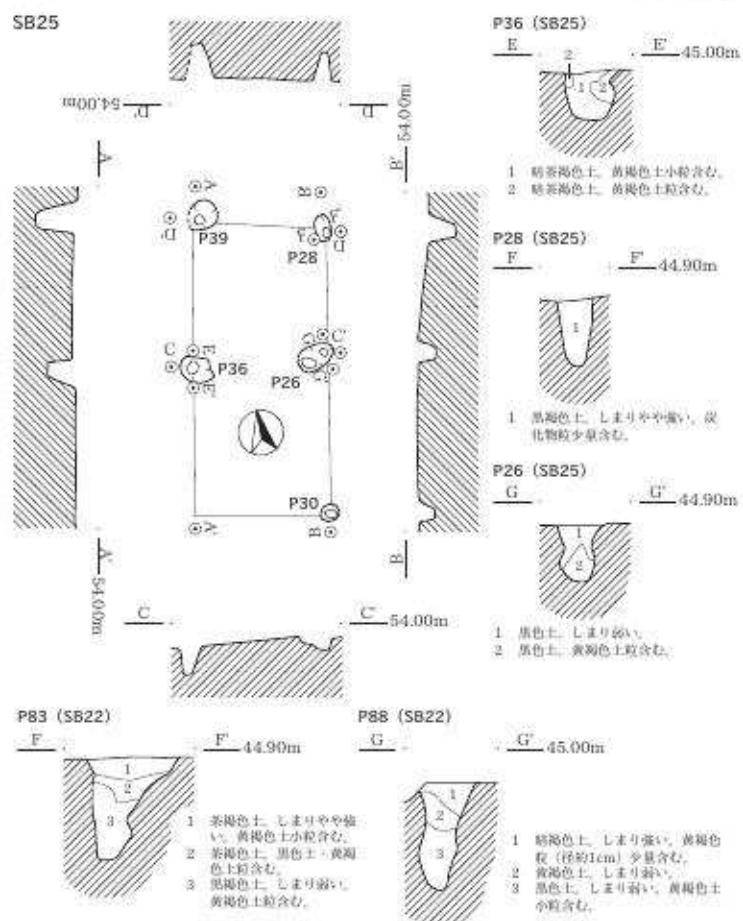
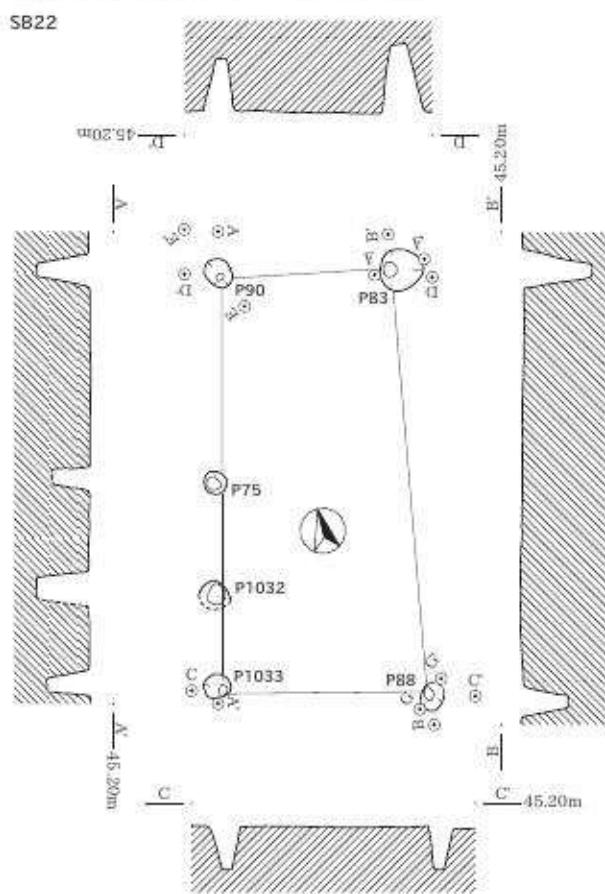
5m

個別図 13 SB14・15・16



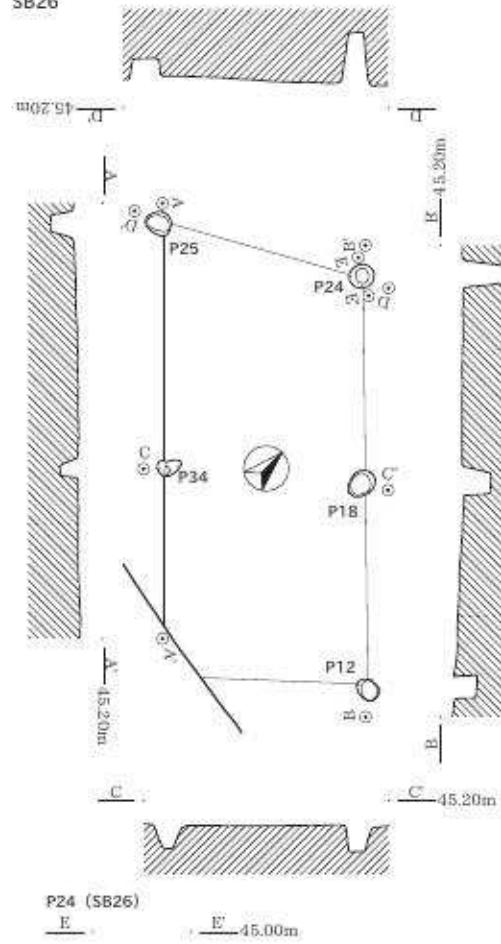


個別図 15 SB22・23・24・25・27

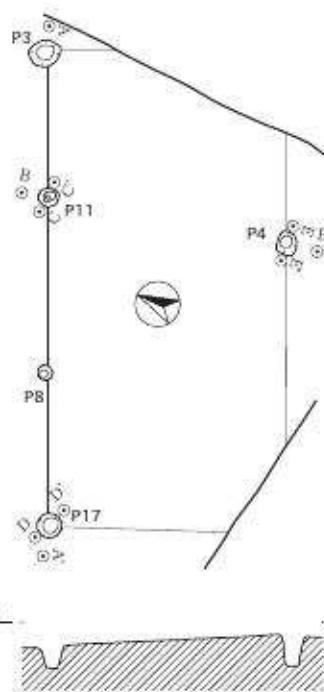


図版 23

SB26



SB28



P11 (SB28)

C - C' 45.00m

1 黒色土、しまり弱い。黄褐色土小粒含む。

P17 (SB28)

D - D' 45.00m

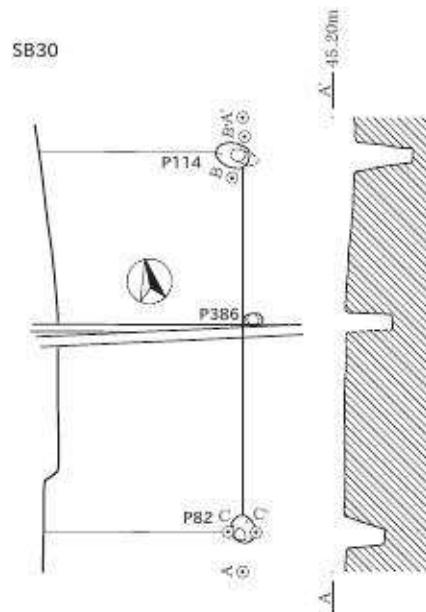
1 精密褐色土、しまり強い。  
2 黄褐色土塊(厚約2cm)含む。  
3 黄褐色土、黄褐色土小粒多量に含む。

P4 (SB28)

E - E' 45.10m

1 黑色土、しまり弱い。黄褐色土小粒含む。  
2 黑色土、黄褐色土(蛭山)多量に含む。

SB30



P114 (SB30)

B - B' 44.80m



1 黄褐色土、しまり強い・粘性弱い。  
2 精密褐色土。

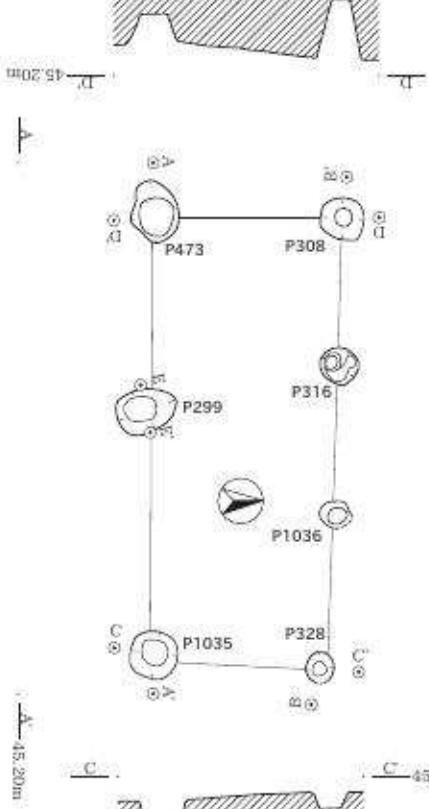
P82 (SB30)

C - C' 44.90m



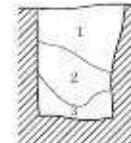
1 精密褐色土、しまり強い。に黄褐色土小粒含む。  
2 黄褐色土に精密褐色土が少量含む。

SB29



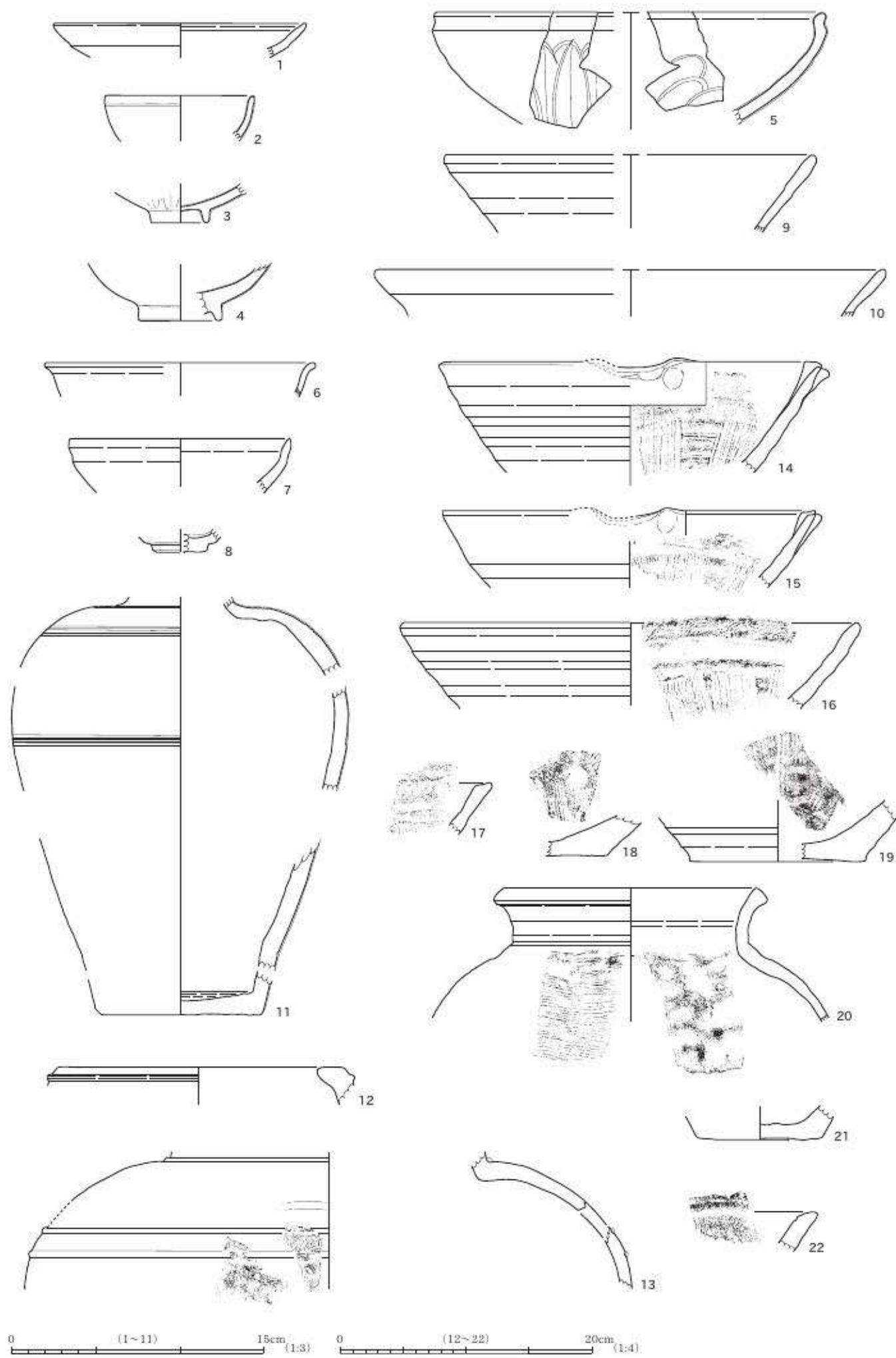
P299 (SB29)

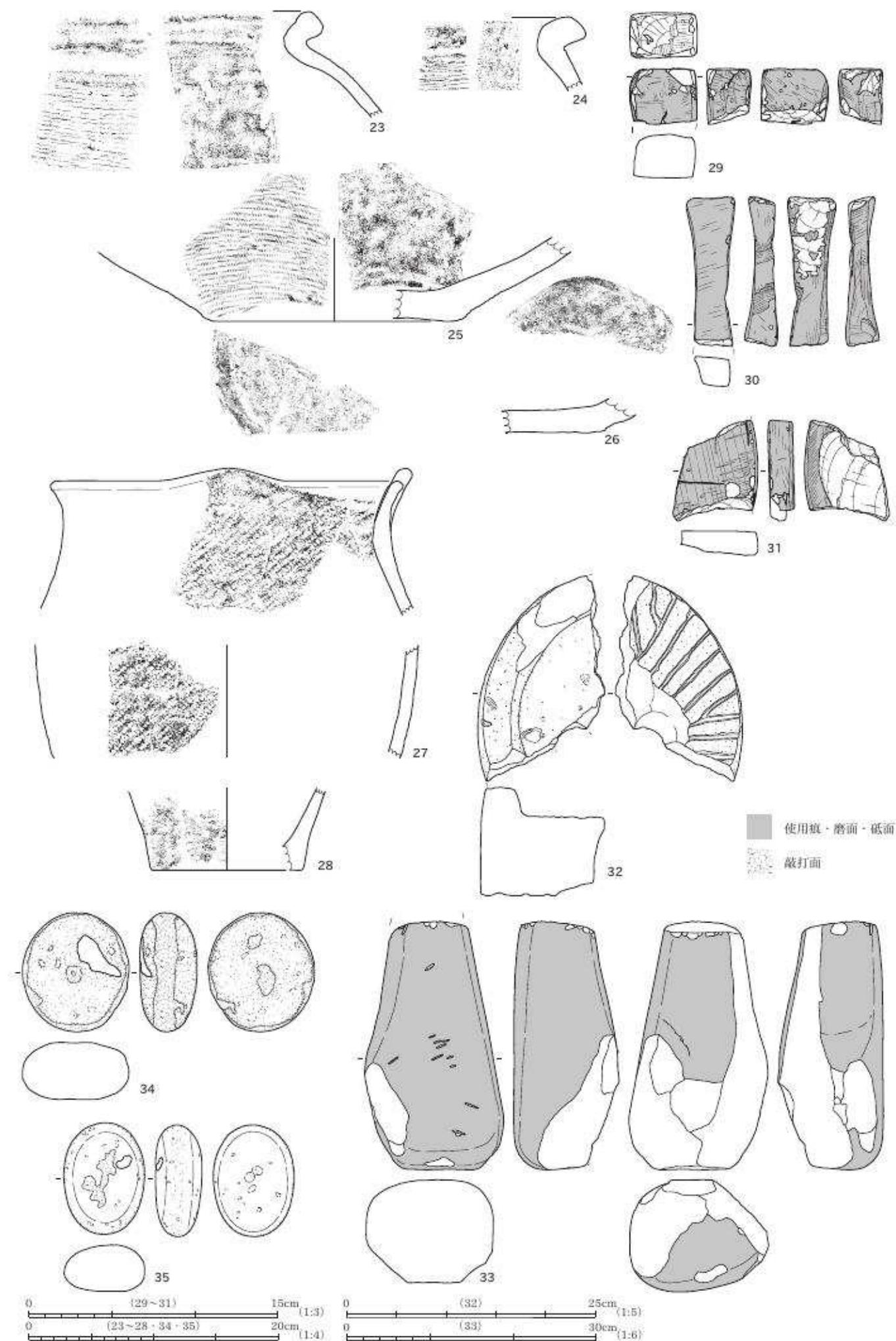
E - E' 44.90m

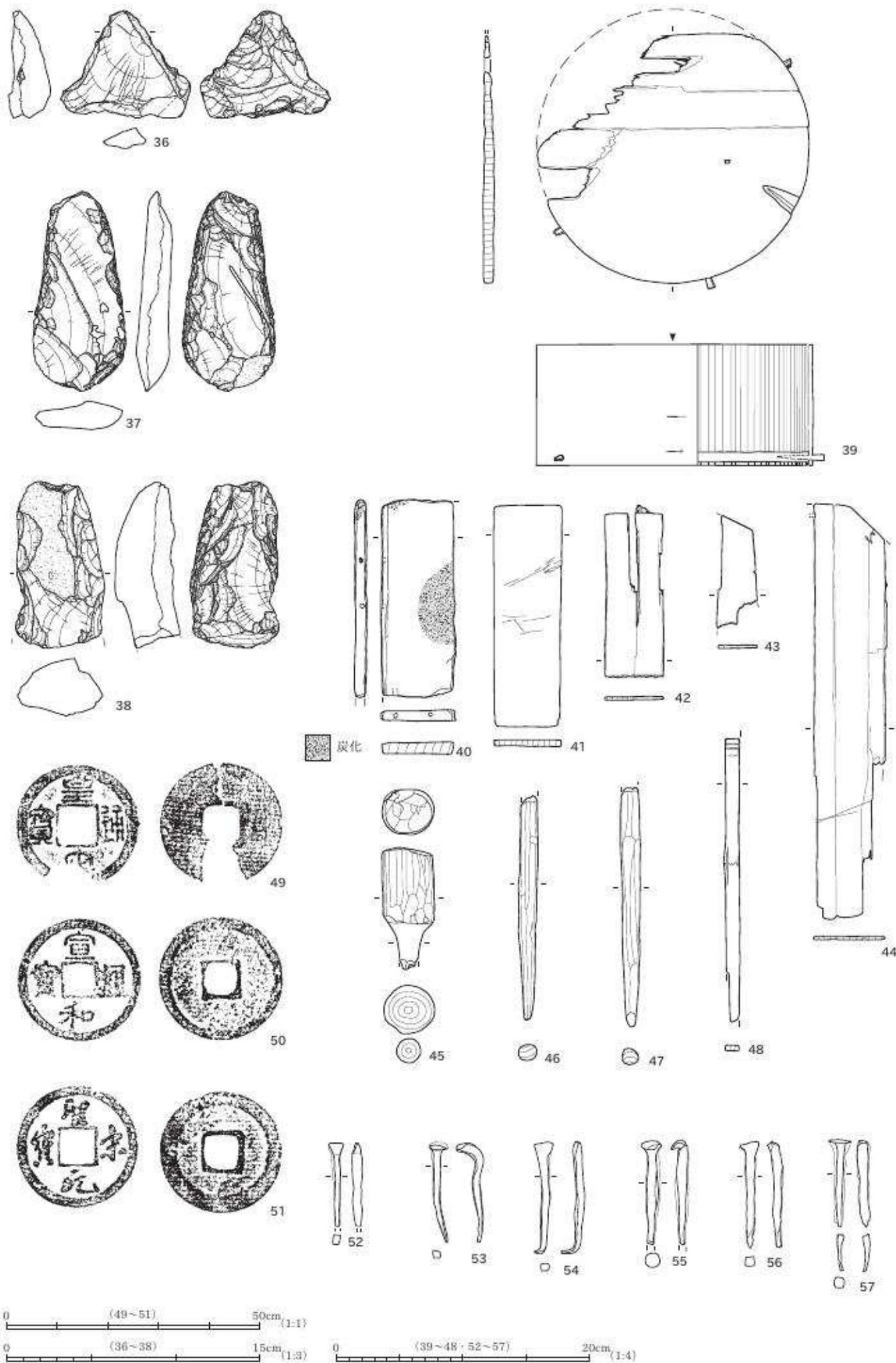


1 精密褐色土、黄褐色土精量含む。  
2 精密褐色土、黄褐色土精量含む。  
3 黄褐色土、しまり弱い。精密褐色土少量含む。

断面図 (1:40) 2m  
平面・エレベーション図 (1:100) 5m









遺跡近景（上空から 上が北）



北堀断面（西から）



土壌断面（西から）



北堀完掘（北西から）



土壌検出状況（北から）



土壌検出状況（南から）



北堀完掘後の土壌（北から）



基本層序（14C2付近）



基本層序（7C21付近）



遺構検出状況（6～8B周辺 南から）



遺構検出状況（8・9B周辺 南から）



遺構検出状況（8B周辺 西から）



遺構検出状況（8・9B周辺 東から）



遺構検出状況（10・11B周辺 西から）



遺構検出状況（10・11B周辺 南から）



遺構検出状況（12・13B周辺 西から）



遺構検出状況（12～14B周辺 南から）



遺構完掘状況 (6・7B 周辺 西から)



遺構完掘状況 (8B 周辺 西から)



遺構完掘状況 (9・10B 周辺 南から)



遺構完掘状況 (9・10B 周辺 西から)



遺構完掘状況 (10・11B 周辺 西から)



遺構完掘状況 (11B 周辺 西から)



遺構完掘状況 (12B 周辺 西から)



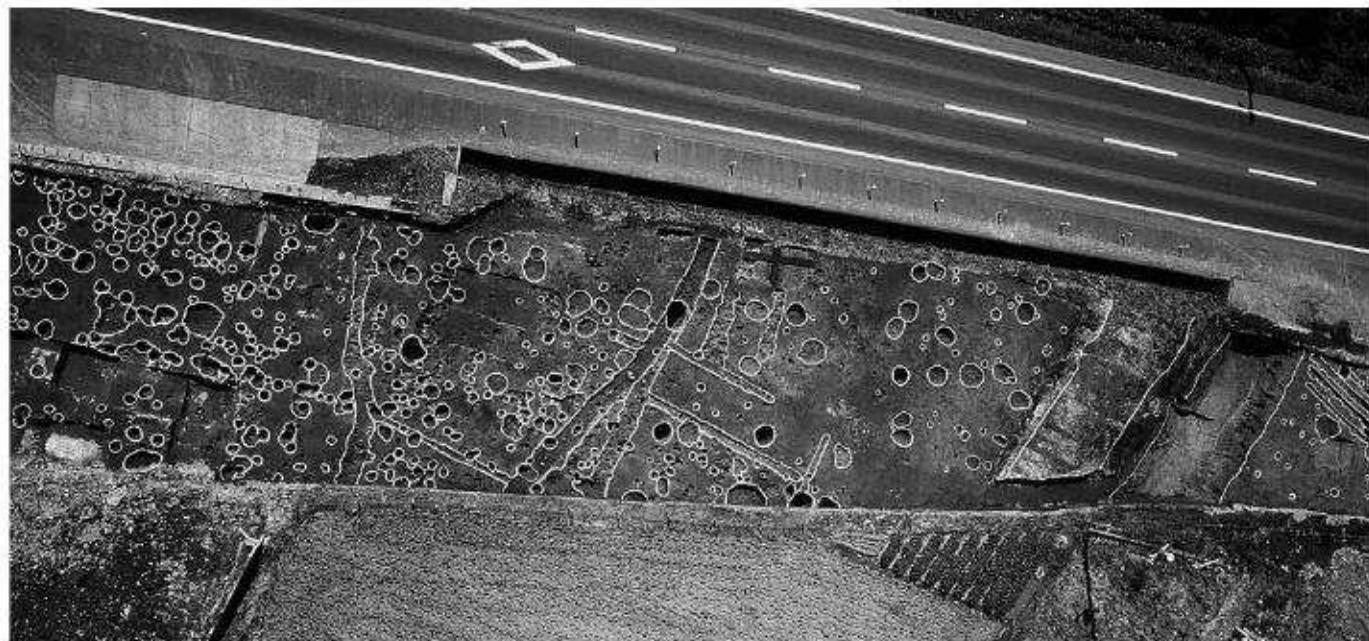
遺構完掘状況 (13・14B 周辺 西から)



遺跡近景（北から）



遺跡近景（上空から 右上が北）



遺構完掘 (4 ~ 11B 周辺 上空から 右が北)



遺構完掘 (7 ~ 12B 周辺 上空から 右が北)



遺構完掘 (10 ~ 14B 周辺 上空から 右が北)



遺構完掘 (4B 周辺 南西から)



遺構完掘 (15B・C 周辺 南から)



遺構完掘 (15B・C 周辺 西から)



遺構完掘 (15B・C 周辺 東から)



SE60 断面 (西から)



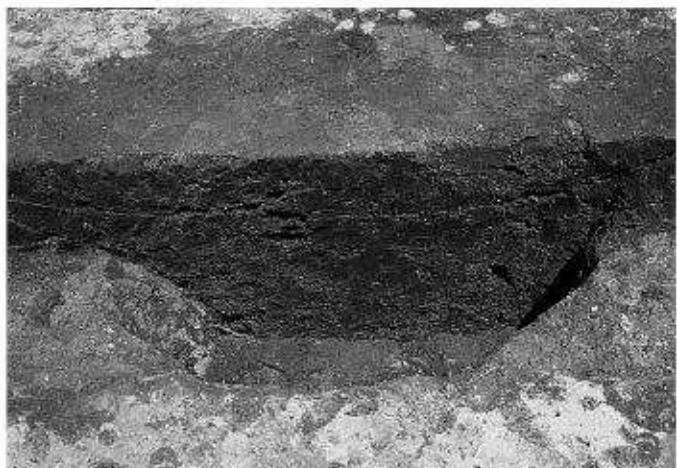
SE60 完掘 (南から)



SE319 断面 (南から)



SE319 完掘 (南から)



SE320 断面(南から)



SE320 完掘(南から)



SE335 断面(南から)



SE335 完掘(南から)



SE362 断面(南から)



SE362 完掘(南から)



SE364 断面(西から)



SE364 ほぼ完掘(西から)



SE374 断面(南から)



SE374 完掘(南から)



SE468 断面(南から)



SE468 完掘(南から)



SE469 遺物出土状況(南から)



SE469 完掘(南から)



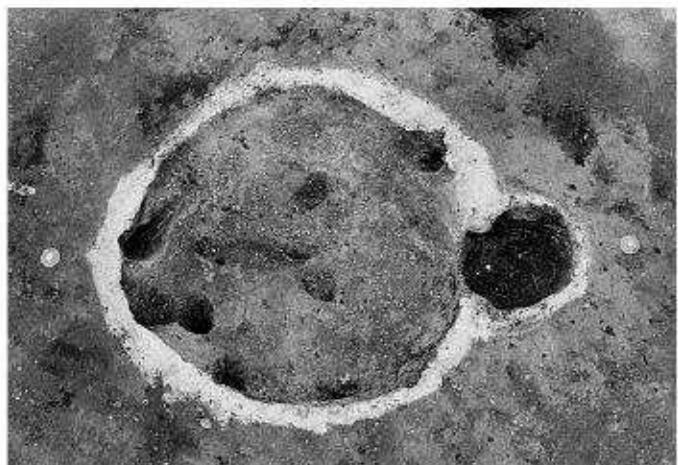
SE360 断面(西から)



SE417 断面(西から)



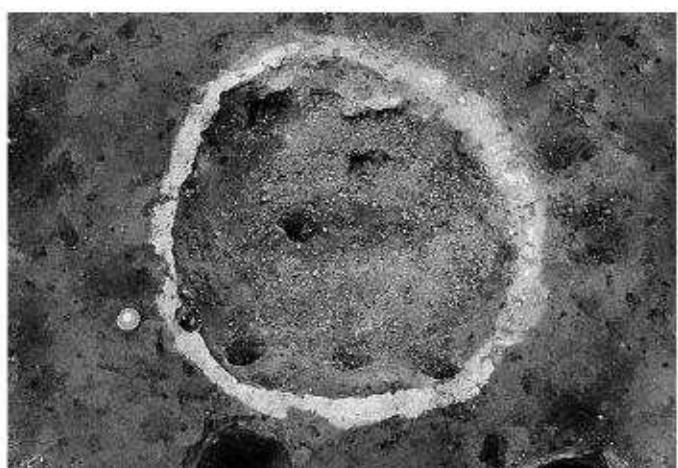
SK2 断面（南から）



SK2 完掘（南から）



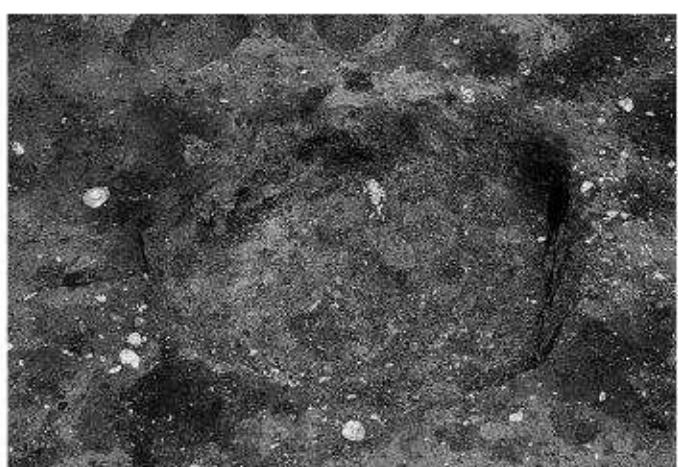
SK20 断面（南から）



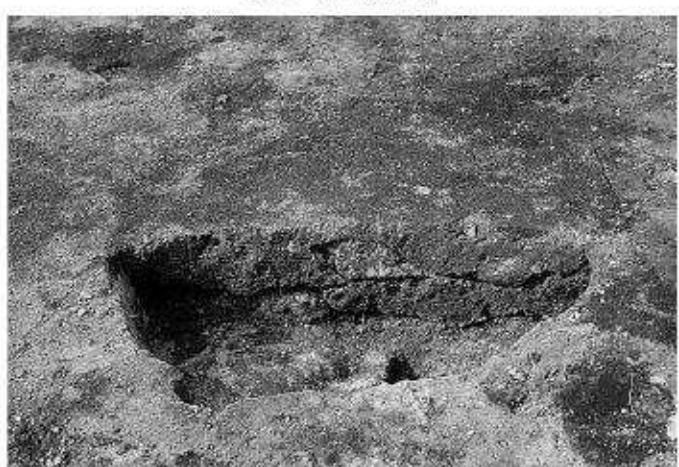
SK20 完掘（南から）



SK22 断面（南から）



SK22 完掘（南から）



SK37 断面（南から）



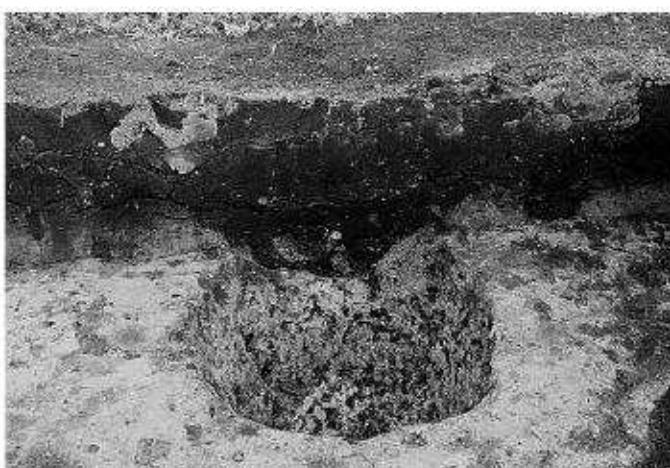
SK37 完掘（南から）



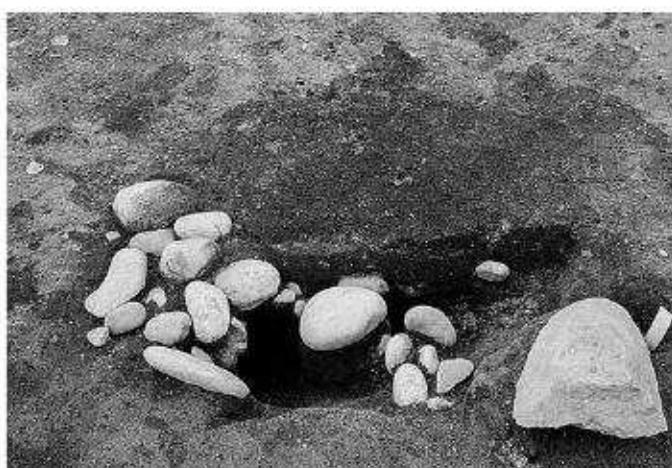
SK38 剥離面 (南から)



SK38 完掘 (南から)



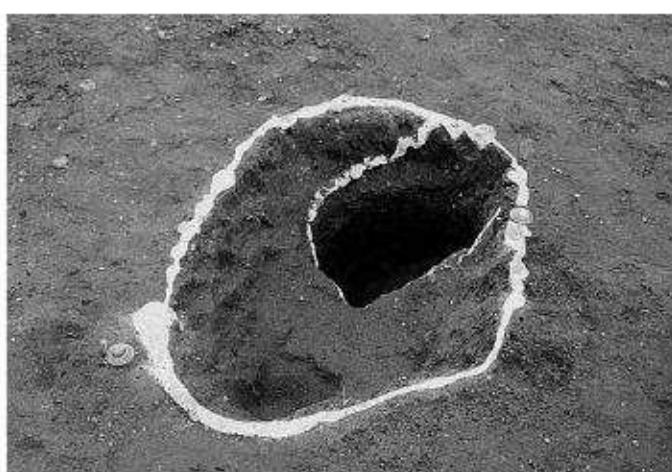
SK47 剥離面 (西から)



SK69 剥離面 (南から)



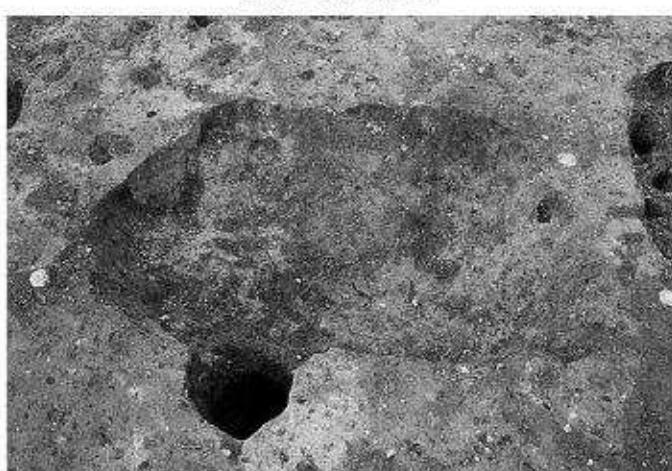
SK69 磚検出状況 (南から)



SK69 完掘 (北から)



SK70 剥離面 (南から)



SK70 完掘 (南から)



SK71 断面(南から)



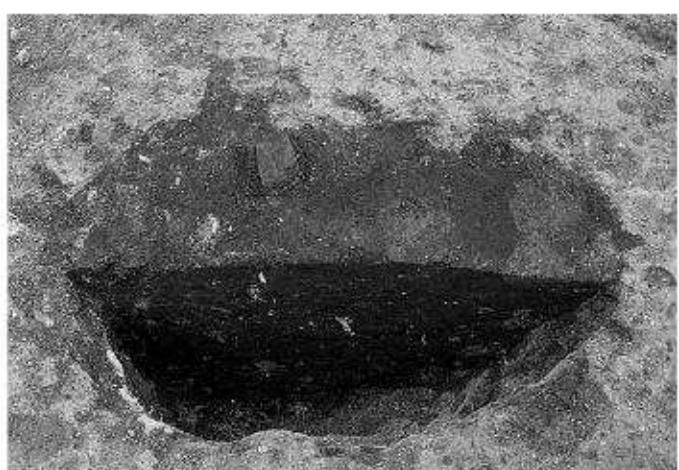
SK71 完掘(南から)



SK72 断面(西から)



SK72 断面(南から)



SK76 断面(南から)



SK76 完掘(南から)



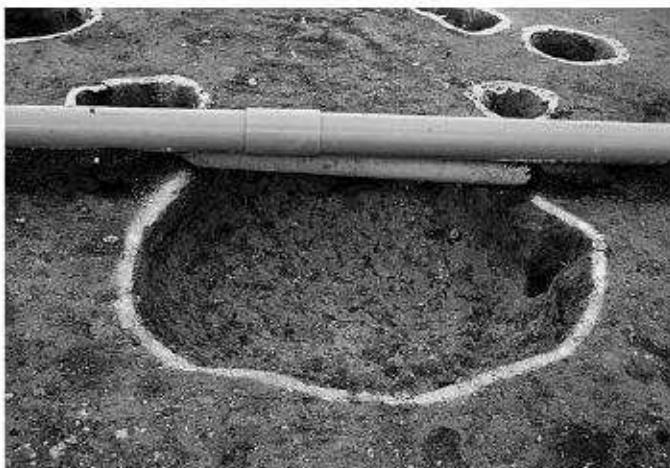
SK87 断面(南から)



SK87 完掘(南から)



SK95 碓検出状況（北から）



SK95 完掘（北から）



SK93・94 断面（南から）



SK93・94 断面（南から）



SK104 断面（南から）



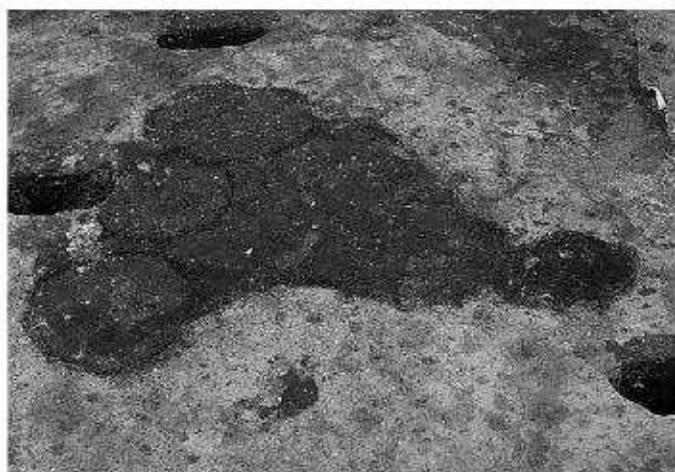
SK104 完掘（南から）



SK136 断面（南から）



SK136 完掘（南から）



SK119、P118・178 検出状況（南から）



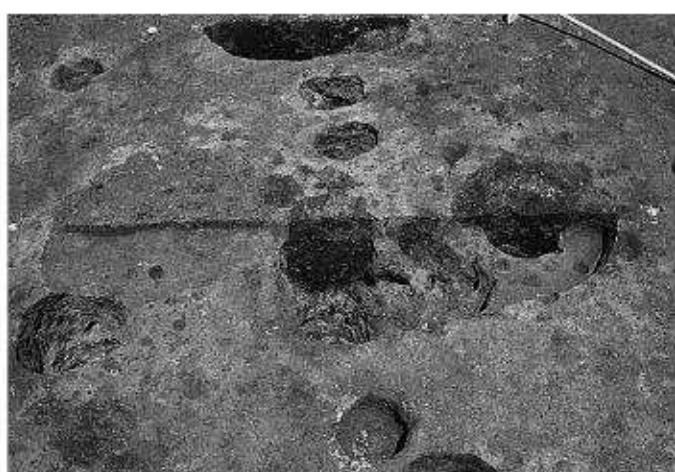
SK119、P118・178 断面（南から）



SK119、P115・117 断面（西から）



SK119、P115～118・178 断面（南から）



SK226、P224・225 断面（南から）



SK226、P224・225・247 完掘（南から）



SK292 断面（南から）



SK292 完掘（南から）



SK293 断面(南から)



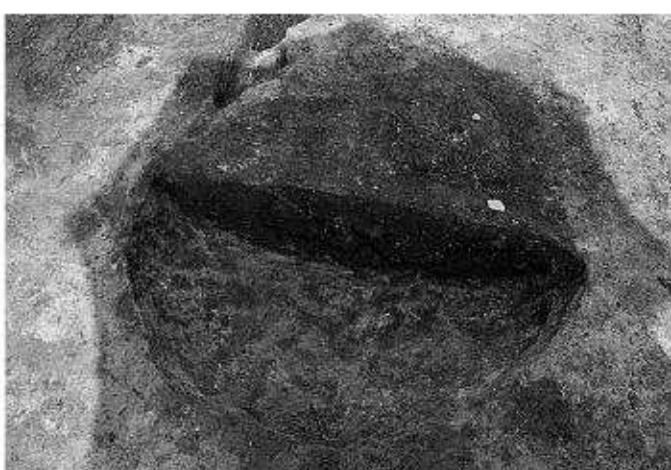
SK293 完掘(北から)



SK310 断面(南から)



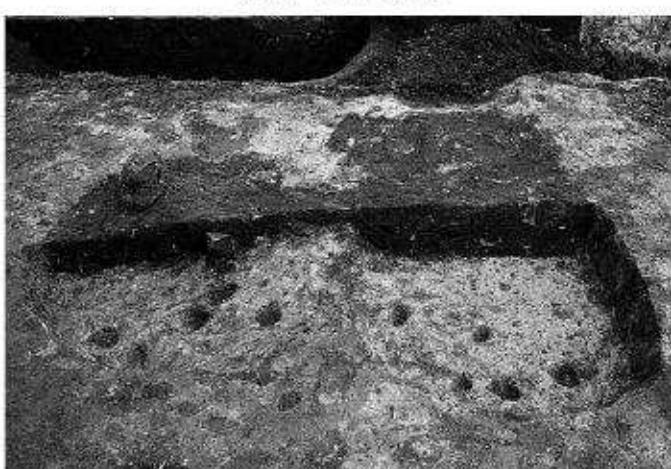
SK310 完掘(南から)



SK311 断面(西から)



SK311 完掘(西から)



SK323・324 断面(南から)



SK323・324 完掘(南から)



SK343・SD344 断面(南から)



SK343 完掘(南から)



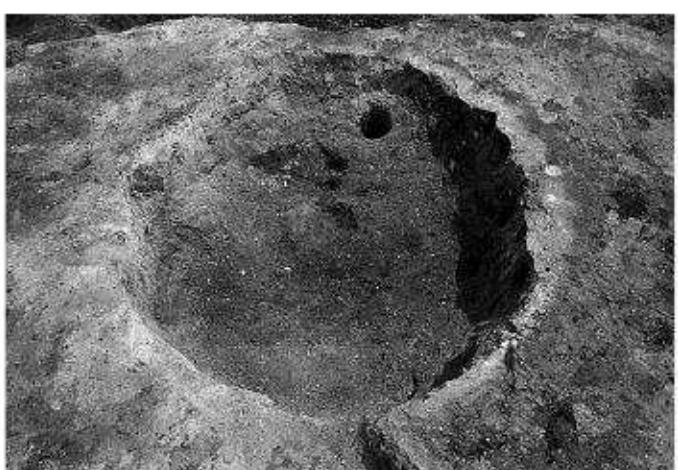
SK347 断面(南から)



SK347 断面(南から)



SK357 断面(南から)



SK357 完掘(南から)



SK333 断面(西から)



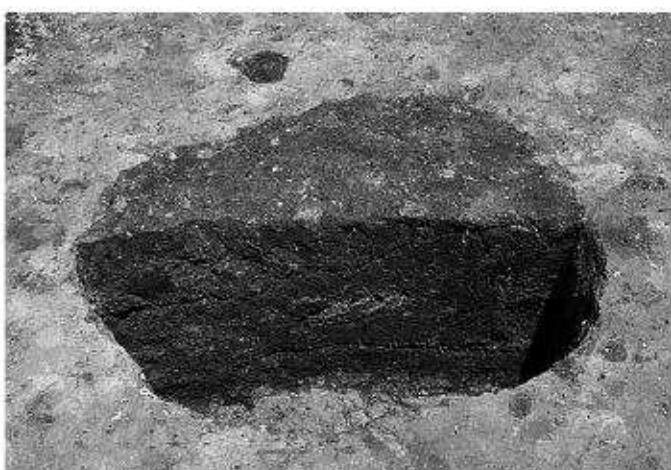
SK365 完掘(西から)



SK372 断面(南から)



SK372 完掘(北から)



SK379 断面(南から)



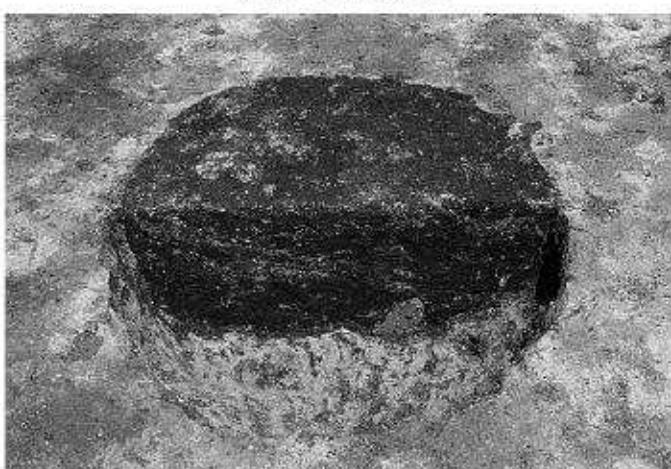
SK379 断面(南から)



SK380 断面(南から)



SK380 完掘(西から)



SK390 断面(南から)



SK390 完掘(南から)



SK391 断面(東から)



SK391 完掘(西から)



SK392 断面(南から)



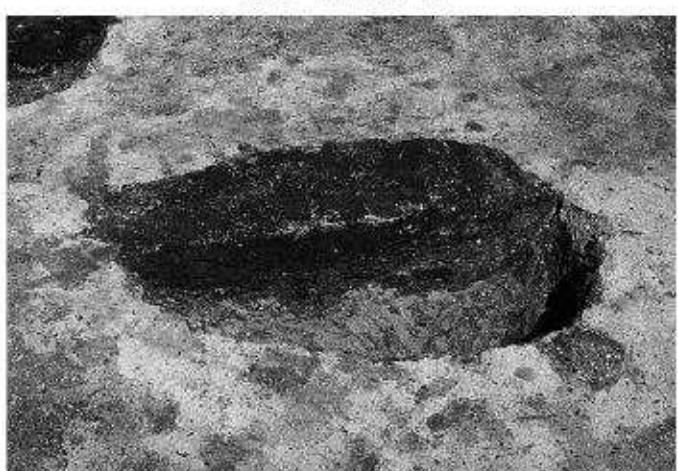
SK392 断面(南から)



SK393 断面(西から)



SK393・P437 完掘(西から)



SK394 断面(西から)



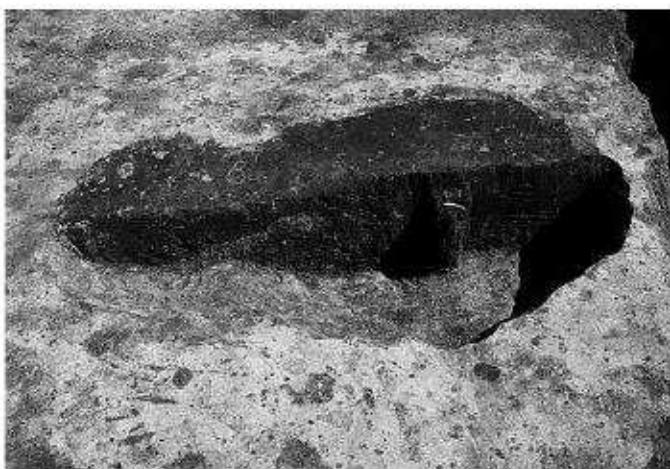
SK394 完掘(西から)



SK418 断面(南から)



SK418・P425 完掘(南から)



SK426・P430 断面(南から)



SK426・P430 断面(南から)



SK453 断面(南西から)



SK453 完掘(南から)



SK454 断面(南から)



SK454 完掘(南から)



SD252 完掘(西から)



SD286 完掘(南から)



SD317、SK318 断面(西から)



SD317・376 断面(西から)



SD317 断面(西から)



SD317・376 完掘(西から)



SD355 断面(西から)



SD356 完掘(南から)



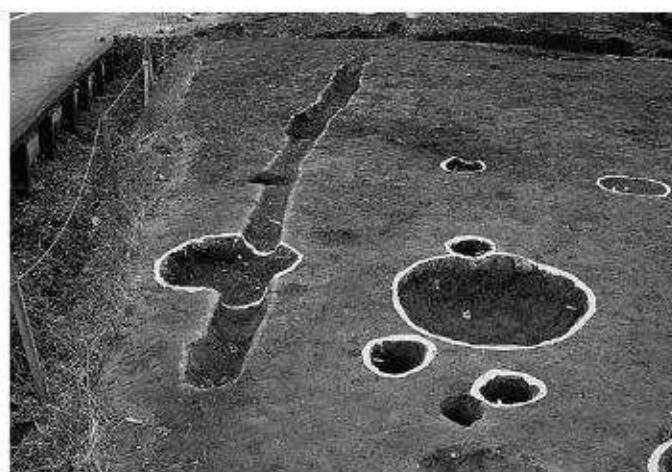
SD344 完掘(南から)



SD358 完掘(南から)



SD367 完掘(南から)



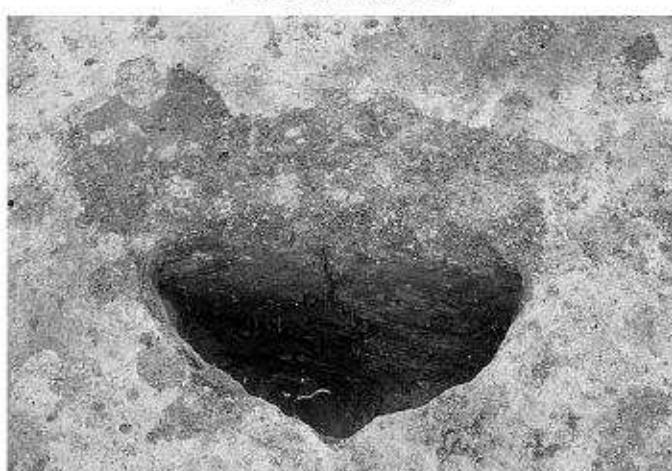
SD481 断面(南から)



SD483 断面(南西から)



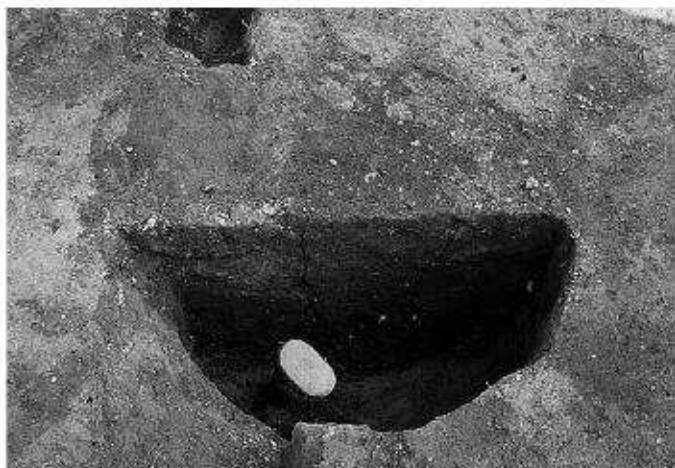
SX62 断面(南から)



SB2-P312 断面(西から)



SB9-P232 断面(南から)



SB4-P276 断面（南から）



SB4-P283 断面（西から）



SB8-P221, P222 断面（南から）



SB8-P224, P225 断面（南から）



SB10-P163, SB11-P164 断面（西から）



SB11-P225 断面（南から）



SB11-P253A 断面（南から）



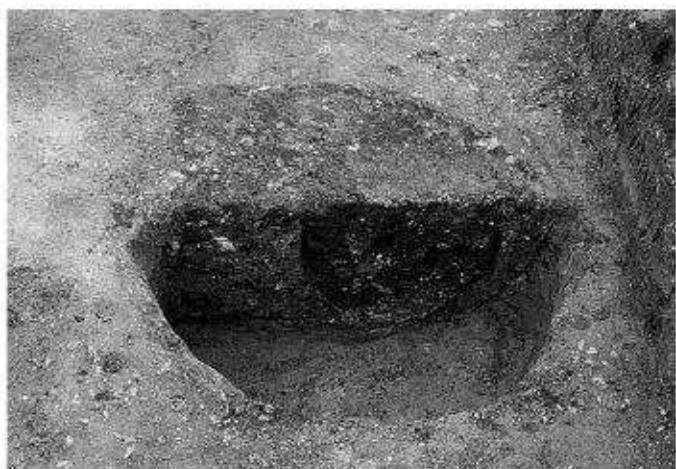
SB12-P402 断面（南から）



SB12-P194 断面(南から)



SB12-P107, SB14-108 断面(西から)



SB14-P147(南から)



SB14-P414 断面(南から)



SB14-P126 断面(南から)



SB14-P171 断面(西から)



SB14-P166 断面(南から)



SB14-P153 断面(南から)



SB15-P106A 断面（南から）



SB15-P127 (南から)



P420 断面、SB16-P419 (南から)



P412, SB16-P411 断面（南から）



SB16-P405 断面（南から）



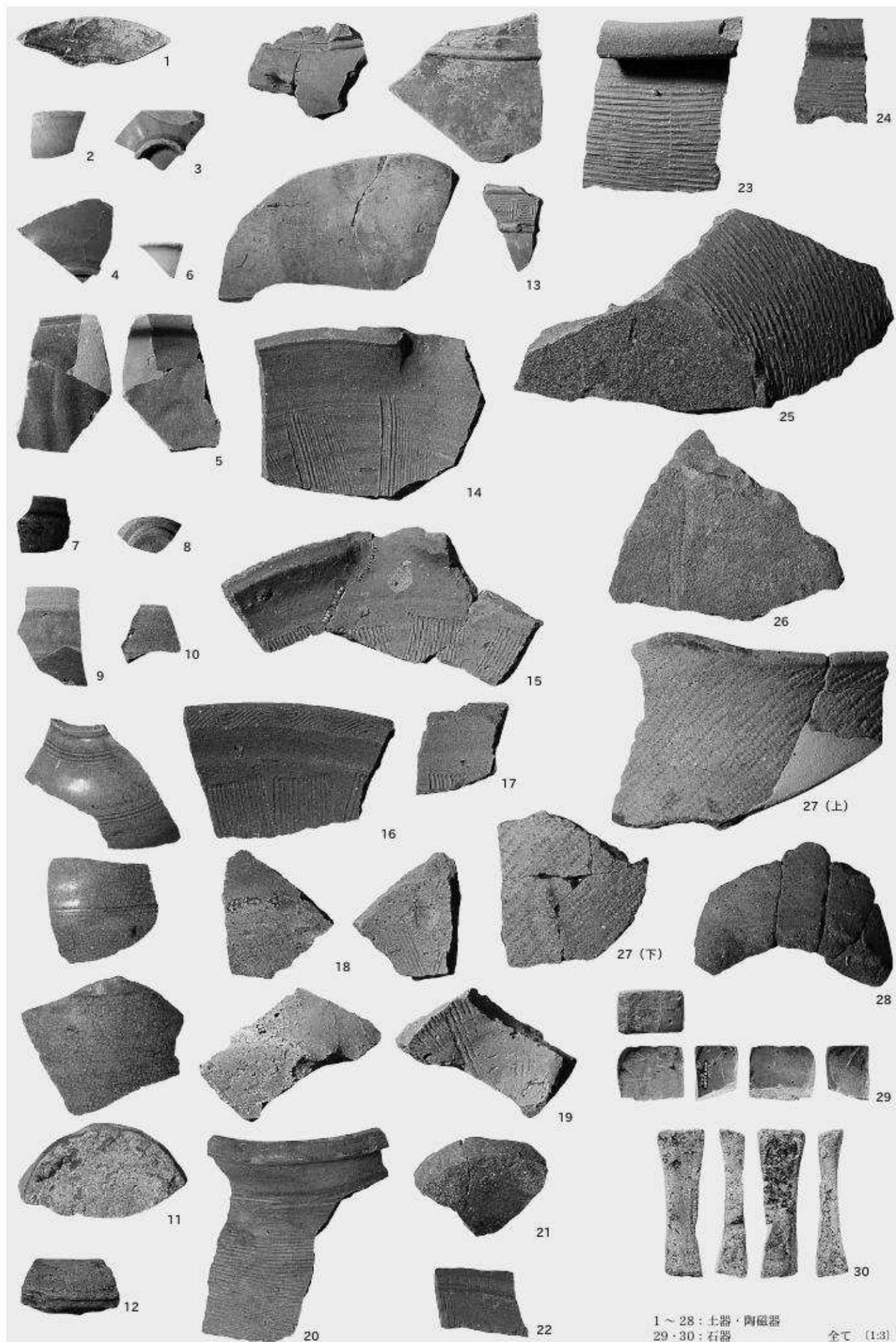
SB17-P129 断面（南から）



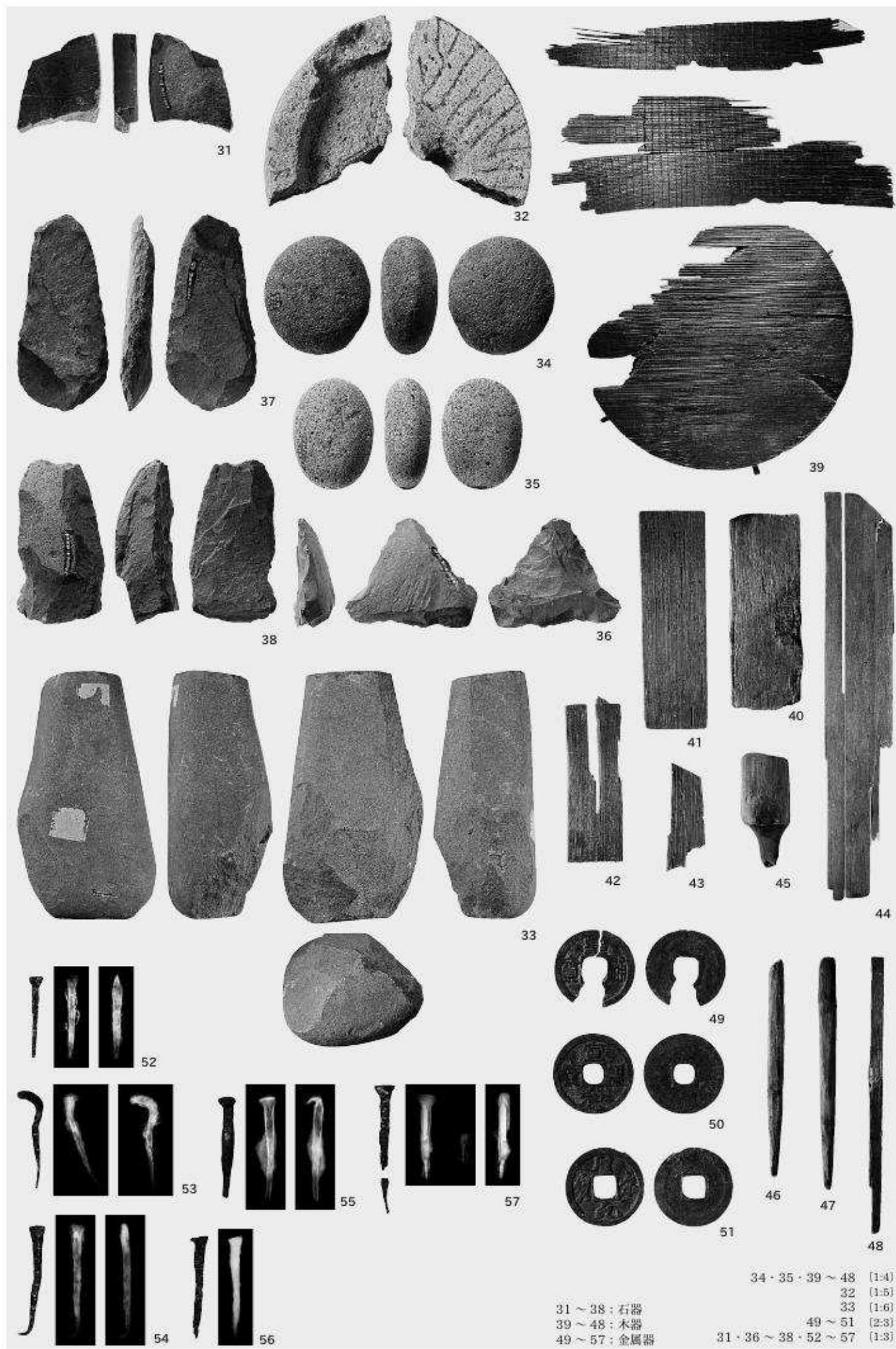
SB20-P184 断面（南から）



SB24-P1 断面（南から）

1～28：土器・陶磁器  
29・30：石器

全て (1:3)



## 報告書抄録

ふりがな	なかがたやかたあと						
書名	中湯館跡						
副書名	一般国道17号 南長岡拡幅事業関係発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第267集						
編著者名	春日真実・坂上有紀（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）						
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250(25)3981						
発行年月日	2016(平成28)年3月31日						
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
中湯館跡	新潟県長岡市 妙見町字淨土原 680番地1ほか	15202 129	37° 21' 02"	138° 49' 45"	19930412～ 19930611	1,700m <sup>2</sup>	一般国道17号 南長岡拡幅事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中湯館跡	遺物 包含地	縄文時代 (中期末～ 後期初頭)		縄文土器・石器(打製石斧・ 三脚石器・磨石類・剥片・ 石核)	土坑やピットが存在した可能性がある。		
	館跡	中世(13 ～16世紀 初頭、中心 は14世紀 後半～16 世紀初め)	掘立柱建物30、 井戸11、土坑 65、溝14(館 の堀を含む)、 不明遺構4、 ピット多数	土器(土師質土器・瓦器)、 陶磁器(青磁・白磁・瀬戸焼・美濃焼・珠洲焼・ 瓷器系陶器)、石器(砥石・ 石臼)、木器(曲物・板・ 棒など)、金属器(銭貨・ 釘・鍔(鋤)先など)、鉄 滓、フイゴ羽口	堀の外周を含めると南北約100mと 1町の館であることを確認した。また 地籍図の検討などから東西も堀の外周 を含めると100m前後となり、方1 町の規模の館である可能性が高い。館 の内部からは多数のピット・土坑・井 戸を確認した。出土遺物には古瀬戸瓶子 や瓦器風炉などの優品がある。		
要約	志度野岐荘のなかでも屈指の有力氏族である石坂氏の居館という伝承を持つ館である。調査結果は石坂氏の居館としてはやや貧弱であるが、方1町となる館の規模は決して小規模ではなく、古瀬戸の瓶子や瓦器風炉などの優品も出土しており、調査区外に石坂氏の居館に見合った施設が存在している可能性がある。						

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第267集  
一般国道17号 南長岡拡幅事業関係発掘調査報告書

### 中湯館跡

2016(平成28)年3月30日印刷  
2016(平成28)年3月31日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
電話 025(285)5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
電話 0250(25)3981  
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ハイングラフ  
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号  
電話 025(233)0321